

|                 |               |
|-----------------|---------------|
| 講義科目 : 英語 I     | 単位数 : 2       |
| マーケット略 : [英語 I] | 学習形態 : 選択必修科目 |
| 担当 : 野田 明       |               |

### 講義のねらい

- ・ 英語の構造をよく理解し、英文を正確に読み取ることを目指す。

### 授業計画

- ・ 現代英語で書かれた論説やストーリーを題材として使用します。
- ・ 英語の文章を読むことに主眼を置き、同時に、高校までに学習した文法事項、構文などを確認します。
- ・ 「会話」の授業ではありません。
- ・ 授業は演習方式で行うので、決められた範囲については必ず予習をして授業に臨んでください。
- ・ 授業中に辞書を引くことがあるので、各自で用意してください。
- ・ 基本的な事項についても、必要に応じて、説明を加えながら進めていきます。また理解の確認のために授業中に小テストを行うことがあります。

#### 前期

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第4回：Lesson 1～2、文法基礎
- 第5回～第8回：Lesson 3～4、文法・構文 I
- 第9回～第12回：Lesson 5～6、文法・構文 II
- 第13回～第14回：総合演習
- 第15回：まとめと確認（筆記試験）

#### 後期

- 第1回～第4回：Lesson 7～8、重要語彙・表現 I
- 第5回～第8回：Lesson 9～10、重要語彙・表現 II
- 第9回～第12回：ハンドアウト、英文のスタイル
- 第13回～第14回：総合演習
- 第15回：まとめと確認（筆記試験）

### 教材・テキスト・参考文献等

別途掲示します（大学生協で購入のこと。）

### 成績評価方法

- ・ 予習と授業での発表及び小テストを平常点とし、それと前期・後期各最終回に行う筆記試験の成績を総合して評価します。
- ・ 授業に出席していても、勉強する姿勢がないと単位は与えられません。

### その他

- ・ 授業中の雑談、携帯電話等通信機器の使用は厳禁とします。
- ・ 授業では、必要に応じて基礎的な文法事項も確認しながら進みますが、高校1年生程度の学習内容は必要になるので、その点留意して受講してください。

|                  |               |
|------------------|---------------|
| 講義科目 : 英語 I      | 単位数 : 2       |
| マークシート略 : [英語 I] | 学習形態 : 選択必修科目 |
| 担当 : 武田 治美       |               |

#### 講義のねらい

グローバル化が進展する中で、国際社会で活躍するためには、英語での議論やプレゼンテーションが出来るような発信型英語力が必要です。自分の考えを積極的に相手に伝える発信型英語力を身につけることを目的としたテキストを使い、これまでに学んできた基礎的な英語の聴解力、読解力、文法力を効果的に応用発展させ、英語での総合的なコミュニケーション能力、すなわち、“使える英語”の習得を目標にしています。

#### 授業計画

|      | 前期   |      | 後期  |
|------|--|------|---|
| 第1回  | 授業の概要説明<br>受講に際しての注意事項説明   | 第16回 | Unit 13<br>Part 1 Choosing Words Carefully<br>Part 2 Enquiries          |
| 第2回  | Unit 1<br>Part 1 Dynamic Japan, Quiet Britain<br>Part 2 Our Company          | 第17回 | Unit 14<br>Part 1 British Currency<br>Part 2 Orders                     |
| 第3回  | Unit 2<br>Part 1 Sports-loving Mathematician<br>Part 2 Our Boss              | 第18回 | Unit 15<br>Part 1 Differences in a Business Letter<br>Part 2 Complaints |
| 第4回  | Unit 3<br>Part 1 Our Old Wooden House<br>Part 2 The Other Staff              | 第19回 | Unit 16<br>Part 1 Business Going Well<br>Part 2 Confirmation            |
| 第5回  | Unit 4<br>Part 1 Feeling Bad<br>Part 2 Quality Service                       | 第20回 | 小テスト<br>関連教材をプリントで配布  |
| 第6回  | 小テスト<br>関連教材をプリントで配布   | 第21回 | Unit 17<br>Part 1 Over My Head<br>Part 2 Filling in Forms               |
| 第7回  | Unit 5<br>Part 1 Long and Slow Words<br>Part 2 The Neighbourhood             | 第22回 | Unit 18<br>Part 1 Important Writing Skills<br>Part 2 How to Communicate |
| 第8回  | Unit 6<br>Part 1 From Unisex to Feminine<br>Part 2 An Interesting Future     | 第23回 | Unit 19<br>Part 1 Reading between the Lines<br>Part 2 Thanking          |
| 第9回  | Unit 7<br>Part 1 Full of Mysteries<br>Part 2 I got lost                      | 第24回 | Unit 20<br>Part 1 What does youth mean?<br>Part 2 Apologising           |
| 第10回 | Unit 8<br>Part 1 Turning into a Nightmare<br>Part 2 An Accident              | 第25回 | 小テスト<br>関連教材をプリントで配布  |
| 第11回 | 小テスト<br>関連教材をプリントで配布   | 第26回 | Unit 21<br>Part 1 A Dream into Nightmare<br>Part 2 Advice               |
| 第12回 | Unit 9<br>Part 1 A Panic Dream<br>Part 2 A Weird Dream                       | 第27回 | Unit 22<br>Part 1 A Watch and a Place<br>Part 2 Arranging a Meeting     |
| 第13回 | Unit 10<br>Part 1 Going Back to the Old Regime<br>Part 2 Yesterday's Meeting | 第28回 | Unit 23<br>Part 1 Language Variations<br>Part 2 Postcards and Emails    |
| 第14回 | Unit 11<br>Part 1 Low Quality Items<br>Part 2 My Previous Company            | 第29回 | Unit 24<br>Part 1 Skills for a Good Writer<br>Part 2 How to Write       |
| 第15回 | Unit 12<br>Part 1 Can't Sit Still<br>Part 2 The Logo                         | 第30回 | 総復習   |

教材・テキスト Simply Reading, Simply Writing 南雲堂

成績評価方法 ・ 毎回出席をとります。

・ 成績は試験（60%）、課題提出（20%）、出席（20%）で評価します。

授業では、全受講生に少なくとも一度は発言の機会を与え、必要に応じて、関連教材のプリントを配布し、常に受講生の理解度に合わせて授業を展開させていきます。

|         |          |      |          |
|---------|----------|------|----------|
| 講義科目    | : 英語 I   | 単位数  | : 2      |
| マークシート略 | : [英語 I] | 学習形態 | : 選択必修科目 |
| 担当      | : 大蔵 香代子 |      |          |

### 講義のねらい

・本講義は英文の読解力を身につける。語彙・文法・構造の習得、定着、活用に焦点を当て、読み方のポイント・コツを会得し、リーディングスキル向上を目指す。エッセーの内容について自分の意見をまとめる。

### 授業計画

- ・およそ500語から成るさまざまなジャンルのエッセーを読む
- ・語彙・文法・構造の習得・定着を図る。
- ・スラッシュリーディング、パラグラフリーディング、各段落のトピックセンテンスおよびMain Idea (主要部) とDetails (詳細部) を含むリーディング手法習得の訓練をする。
- ・各Chapterの内容に関するテーマについてディスカッションをし、意見をまとめる。

#### 前期

- 第1回 リーディング力診断：速読
- 第2回 リーディング力診断：スキミング
- 第3回 リーディング力診断：リーディングストラテジー
- 第4回 Main Idea (重要情報・概念)
- 第5回 Supporting Details (詳細情報)
- 第6回 Signal Words (アイディアの結びつき)
- 第7回 Reference (指示語)
- 第8回 パラグラフ構造1 (比較と対照)
- 第9回 パラグラフ構造2 (原因と結果)
- 第10回 パラグラフ構造3 (時間順序)
- 第11回 パラグラフ構造4 (空間順序)
- 第12回 Summarizing (要約) のストラテジー
- 第13回 視覚情報の効果的利用
- 第14回 事実と意見の区別
- 第15回 リーディング判断力を試す：Term-end Test

#### 後期

- 第1回 表紙、タイトル、挿絵から内容予測
- 第2回 各パラグラフのトピックセンテンス
- 第3回 内容を予測しながら読む
- 第4回 知らない単語は前後の文脈から予測
- 第5回 読み飛ばす単語
- 第6回 Main Idea (主要部) を捉える
- 第7回 Details (詳細部) を捉える
- 第8回 Main Idea と Details を区別
- 第9回 目的や文章の種類により読む速さを変える
- 第10回 シグナルワードとパラグラフ構成
- 第11回 行間を読む
- 第12回 タイトルと内容の関係
- 第13回 事実と著者の意見を区別
- 第14回 まとめと質疑・応答
- 第15回 リーディング判断力を試す：Term-end Test

### 教材

テキスト：Andrew E. Bennett, Reading Fusion 1 (南雲堂)

### 成績評価方法

40% Presentation during the class (Reading, Translation, Exercises, Statement of opinion)

40% Term-end Tests,

10% Assignment, Check Tests

10% Attendance

### その他

- ・Test, Assignment等の追再試はありません
- ・講義時間に相当する自宅・自己学習必須。辞書必携
- ・授業計画はクラスの進度によって変更することがあります

|                  |               |
|------------------|---------------|
| 講義科目 : 英語 I      | 単位数 : 2       |
| マークシート略 : [英語 I] | 学習形態 : 選択必修科目 |
| 担当 : 村井 美代子      |               |

#### 講義のねらい

- ・国内外の英字新聞やインターネットに掲載された様々なニュース15項目を選びまとめたテキストを読む。各章300語程度の読み切り形式で、メディアで使われている英語に慣れ、情報の要点を即座に把握できる読解力・速読力を養っていく。
- ・各章にはリーディング課題だけでなく、写真を描写する英文の選択、要約文の穴埋め、短い英文内容の理解を問うリスニング問題も用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

#### 授業計画

- ・1つの章を2回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

|     |               |      |               |
|-----|---------------|------|---------------|
| 第1回 | オリエンテーション     | 第16回 | 第7章 (健康と生産性)  |
| 2回  | 第1章 社会・観光     | 17回  | 第8章 社会        |
| 3回  | 第1章 (手ぶら観光)   | 18回  | 第8章 (第二の人生)   |
| 4回  | 第2章 健康        | 19回  | 第9章 健康        |
| 5回  | 第2章 (果物アレルギー) | 20回  | 第9章 (デジタルと健康) |
| 6回  | 第3章 社会        | 21回  | 第10章 情報・技術    |
| 7回  | 第3章 (食品ロス)    | 22回  | 第10章 (サイバー攻撃) |
| 8回  | 第4章 芸術・技術     | 23回  | 第11章 国際・政治    |
| 9回  | 第4章 (アニメ)     | 24回  | 第11章 (報道写真)   |
| 10回 | 第5章 科学技術      | 25回  | 第12章 労働       |
| 11回 | 第5章 (ロボコン)    | 26回  | 第12章 (ガラスの天井) |
| 12回 | 第6章 科学技術      | 27回  | 第13章 医療       |
| 13回 | 第6章 (デジタル技術)  | 28回  | 第13章 (東西医学)   |
| 14回 | 第7章 経済        | 29回  | 第14章 社会・経済    |
| 15回 | 前期学習内容のまとめ    | 30回  | 後期学習内容のまとめ    |

#### 教材・テキスト・参考文献等

『ソーシャル・キーワード—メディア英語で社会を読み解く』 (三修社)

#### 成績評価方法

- ・毎回出席をとる。
- ・前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点 = 7 : 3

|                 |               |
|-----------------|---------------|
| 講義科目 : 独語 I     | 単位数 : 2       |
| マーケット略 : [独語 I] | 学習形態 : 選択必修科目 |
| 担当 : 竹添 敦子      |               |

### 講義のねらい

- ・ ドイツ語はローマ字読みができれば発音できます。学び始めが楽なことばです。
- ・ 発音をきちんとできるようになること、ごく初歩のドイツ語を用いてコミュニケーションができることを目的とします。
- ・ 映像を見て、応用力を養うことを試みます。
- ・ 平易な初級文法の範囲内で会話練習と反復繰り返しに徹し、確実な基礎力をつけます。

### 授業計画

|      |                  |      |                    |
|------|------------------|------|--------------------|
| 第 1回 | ドイツ語圏の話・発音 (挨拶)  | 第16回 | 前期の復習・確認 (便利な表現)   |
| 第 2回 | ドイツ語の綴り (発音)     | 第17回 | ドイツの旅 (前置詞の格支配)    |
| 第 3回 | 自己紹介 (動詞の人称変化)   | 第18回 | 応用練習 (前置詞と定冠詞の融合形) |
| 第 4回 | 応用練習 (動詞の位置・語順)  | 第19回 | ドイツの旅2 (話法の助動詞)    |
| 第 5回 | 2種類の「あなた」 (使い分け) | 第20回 | 応用練習 (枠構造・manの使い方) |
| 第 6回 | 質問の練習 (職業・専攻など)  | 第21回 | ドイツの旅3 (命令法・数字の応用) |
| 第 7回 | 応用練習 (決定疑問文・定冠詞) | 第22回 | 応用練習 (分離動詞)        |
| 第 8回 | 応用練習 (名詞の性と格)    | 第23回 | ドイツの料理 (形容詞)       |
| 第 9回 | 買い物 (不定冠詞、複数形)   | 第24回 | 応用練習 (再帰動詞)        |
| 第10回 | お出かけ (動詞の人称変化2)  | 第25回 | 応用練習 (補足事項)        |
| 第11回 | 応用練習 (3格の確認)     | 第26回 | ドイツのクリスマス (祝祭表現)   |
| 第12回 | 注文 (動詞の人称変化3)    | 第27回 | ドイツの昔ばなし (動詞の三基本形) |
| 第13回 | 応用練習 (人称代名詞)     | 第28回 | 独語Ⅱへの橋渡し (過去形)     |
| 第14回 | ドイツあれこれ (補足事項)   | 第29回 | 独語Ⅱへの橋渡し (現在完了形)   |
| 第15回 | まとめと確認 (試験)      | 第30回 | まとめと確認 (試験)        |

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキスト 秋田静男・他『ドイツ語インフォメーション neu<sup>2</sup>』 (朝日出版社)
- ・ 辞書 講義冒頭で説明します。ただし、新たに購入する場合は『新アクセス独和辞典』 (三修社) が手ごろです。電子辞書は初学者には不向きです。

### 成績評価方法

- ・ 参加型授業のため出席を重視します。年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。
- ・ 前期、後期の試験 (50%)、小テスト等受講状況 (50%) を基準に判断します。

|                  |               |
|------------------|---------------|
| 講義科目 : 独語 I      | 単位数 : 2       |
| マークシート略 : [独語 I] | 学習形態 : 選択必修科目 |
| 担当 : 今本 幸平       |               |

### 講義のねらい

初歩的なドイツ語文法を勉強します。文法の知識だけでなく、ドイツ語の読み方を身につけるため、音読の練習も重視します。

### 授業計画

|     |                  |      |                  |
|-----|------------------|------|------------------|
| 第1回 | 授業ガイダンス、アルファベット  | 第16回 | 前期の復習            |
| 2回  | 第1課 ドイツ語のつづりと発音  | 17回  | 第7課 前置詞          |
| 3回  | 第2課 文の作り方(動詞の形)  | 18回  | 第7課 練習問題         |
| 4回  | 第2課 重要な動詞、語順の原則  | 19回  | 第8課 分離動詞、文のつなぎ方  |
| 5回  | 第2課 練習問題         | 20回  | 第8課 練習問題         |
| 6回  | 第3課 文の作り方(名詞と冠詞) | 21回  | 第9課 助動詞を使った文     |
| 7回  | 第3課 練習問題         | 22回  | 第9課 練習問題         |
| 8回  | 第4課 冠詞の仲間        | 23回  | 第10課 動詞の過去形と過去分詞 |
| 9回  | 第4課 練習問題         | 24回  | 第10課 練習問題        |
| 10回 | 第5課 人称代名詞、目的語の語順 | 25回  | 第11課 現在完了形、受動態   |
| 11回 | 第5課 練習問題         | 26回  | 第11課 練習問題        |
| 12回 | 第6課 不規則動詞        | 27回  | 第12課 形容詞、比較表現    |
| 13回 | 第6課 練習問題         | 28回  | 第12課 練習問題        |
| 14回 | 復習               | 29回  | 復習               |
| 15回 | 「前期まとめ」と確認テスト    | 30回  | 「後期まとめ」と確認テスト    |

\* 上記は予定です。実際の進み具合は受講生の理解度に応じて調整します。

\* 学期末の確認テスト(各学期の内容をすべて含むテスト)の他、授業中に10～15分程度の小テストを行う場合があります。

### 教材・テキスト・参考文献等

・教科書: 「プロムナード やさしいドイツ語文法 (PROMENADE Deutsch)」  
(白水社)

・独和辞典

教科書と辞書は、両方とも必ず毎回持参してください。

辞書は初回の授業でいくつか紹介するので、その後で購入して下さい。

### 成績評価方法

- ・前期、後期とも、全15回の授業のうち10回以上の出席と、学期末の確認テストで60点以上取ることが単位取得の条件です。
- ・原則として前期・後期の確認テストの平均点に基づいて成績を出します。出席状況は上記範囲内であれば成績にプラスにもマイナスにも影響しません。
- ・各学期で欠席が5回を超えると、成績評価の対象外となります。(遅刻、早退は0.5回分とします。例えば欠席4回、遅刻3回は、5.5回欠席で不可です)

### その他

- ・週一度の授業だけでは記憶が定着しにくいので、予習、復習をしましょう。
- ・知らない単語が出てきたら、自主的に辞書で調べる習慣をつけましょう。

|                  |               |
|------------------|---------------|
| 講義科目 : 仏語 I      | 単位数 : 2       |
| マークシート略 : [仏語 I] | 学習形態 : 選択必修科目 |
| 担当 : 井出 勉        |               |

#### 講義のねらい

- ・フランス語の綴り字と発音の関係を学び、きちんと発音できるようになることを目指します。
- ・フランス語の基本的な文法と簡単な日常会話を覚える。
- ・実用フランス語技能検定試験（仏検）5級を習得できるレベルまでの到達も目指します。

#### 授業計画

|      |             |      |                 |
|------|-------------|------|-----------------|
| 第1回  | フランス紹介・発音   | 第16回 | 所有形容詞、疑問形容詞     |
| 第2回  | 綴り字の読み方・挨拶  | 第17回 | 人称代名詞の強勢形、指示形容詞 |
| 第3回  | 発音練習・挨拶     | 第18回 | ～がある、～がしたいのですが  |
| 第4回  | 挨拶・自己紹介の仕方  | 第19回 | 定冠詞の縮約、国名       |
| 第5回  | 名詞の性と数・不定冠詞 | 第20回 | 補語人称代名詞（直目・間目）  |
| 第6回  | 形容詞①        | 第21回 | 代名動詞            |
| 第7回  | 形容詞②・指示代名詞  | 第22回 | 中性代名詞           |
| 第8回  | 動詞の活用・定冠詞   | 第23回 | 天気の見方と答え方       |
| 第9回  | 疑問文の作り方     | 第24回 | 時刻の見方と答え方、命令形   |
| 第10回 | 動詞持つ        | 第25回 | 部分冠詞①           |
| 第11回 | 否定文         | 第26回 | 部分冠詞②、カフェでの注文   |
| 第12回 | 数字・年齢       | 第27回 | 比較級             |
| 第13回 | 動詞行く・近接未来   | 第28回 | 複合過去①：過去分詞の作り方  |
| 第14回 | 疑問代名詞・動詞する  | 第29回 | 複合過去②           |
| 第15回 | まとめと確認：試験   | 第30回 | まとめと確認：試験       |

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田裕二『パリ-ボルドー』朝日出版社

辞書：講義冒頭で紹介

参考文献については講義中に紹介

#### 成績評価方法

平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、期末試験70%  
年間10回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

#### その他

|                   |               |
|-------------------|---------------|
| 講義科目 : 中国語 I      | 単位数 : 2       |
| マークシート略 : [中国語 I] | 学習形態 : 選択必修科目 |
| 担当 : 花尻 奈緒子       |               |

#### 講義のねらい

正しい中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語を学び、簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになる。また、単純な文を聞いて意味を理解できるようになる。

#### 授業計画

|     |               |      |               |
|-----|---------------|------|---------------|
| 第1回 | ガイダンス         | 第16回 | 第九課 モノを数える単位  |
| 2回  | 第一課 基礎発音1     | 17回  | 第九課 「～は…にある」  |
| 3回  | 第一課 基礎発音2     | 18回  | 第十課 前置詞       |
| 4回  | 第二課 基礎発音3     | 19回  | 第十課 経験を表す文    |
| 5回  | 第二課 基礎発音4     | 20回  | 第十一課 助動詞・仮定文  |
| 6回  | 第三課 「～は…です」   | 21回  | 第十二課 持続を表す文   |
| 7回  | 第四課 形容詞の文     | 22回  | 第十二課 進行を表す文   |
| 8回  | 第五課 動詞の文      | 23回  | 第十三課 「～より…だ」  |
| 9回  | 第五課 数の数え方     | 24回  | 第十三課 程度を表す補語  |
| 10回 | 第六課 「～それとも…？」 | 25回  | 第十四課 動作量を表す補語 |
| 11回 | 第六課 完了形       | 26回  | 第十四課 離合動詞     |
| 12回 | 第七課 金額の言い方    | 27回  | 第十五課 結果を表す補語  |
| 13回 | 第七課 二重目的語の動詞  | 28回  | 第十五課 可能を表す補語1 |
| 14回 | 第八課 年月日・時刻    | 29回  | 第十六課 方向を表す補語  |
| 15回 | 第八課 名詞述語文     | 30回  | 第十六課 可能を表す補語2 |

#### 教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキストー中国語 I 基礎ー」

#### 成績評価方法

出席および前・後期の期末試験

#### その他

予習復習を欠かさずに行うこと。

|                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 講義科目 : 法学入門      | 単位数 : 2            |
| マークシート略 : [法学入門] | 学習形態 : 必修科目(法律コース) |
| 担当 : 法律コース教員     |                    |

#### 講義のねらい

初めて法学を学ぶ者を想定して、専門科目である憲法、刑法、民法、行政法、労働法、行政学への入門となることを目的とし、それぞれの分野の最も基礎的な知識の定着を目指す。

#### 授業計画

授業では各分野2、3回行う。

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス                        |
| 2回  | 憲法と法律の違い                     |
| 3回  | 基本的人権の世界                     |
| 4回  | 刑事司法制度—警察・検察・裁判所             |
| 5回  | 裁判員制度—裁判官の役割と裁判員の役割、刑法の解釈と適用 |
| 6回  | 未定                           |
| 7回  | 未定                           |
| 8回  | 行政救済①—国家補償                   |
| 9回  | 行政救済②—行政事件訴訟                 |
| 10回 | 学生アルバイトの法律問題                 |
| 11回 | 労働者・使用者の権利と義務                |
| 12回 | 労働組合活動と労働条件の改善               |
| 13回 | 政治・行政について学ぶ                  |
| 14回 | 地方自治・地方政治について学ぶ              |
| 15回 | まとめ                          |

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は指定しない。

参考文献は、講義の中で各教員が紹介する。

各教員から必要に応じて資料を配布する。

#### 成績評価方法

6名の教員が一人17点満点で採点し、 $6 \times 17 = 102$ 点満点のうち、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可、60点未満を不可とする。再試験は行わない。

出席は成績評価の重要な要素になる。ただし、各教員の成績評価の方法は教員ごとに異なるので注意して欲しい。

#### その他

|                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 講義科目 : 経済学入門    | 単位数 : 2            |
| マーケット略 : [経済入門] | 学習形態 : 必修科目(経商コース) |
| 担当 : 大畑 智史      |                    |

#### 講義のねらい

高等学校における社会科の学習と、大学での経済（経営）学の講義の間には大きなギャップがあるから、新入生諸君がとまどいを感じることも少なくない。この講義では経商コースの学生を対象に、現代経済（社会）の見方、その分析方法をはじめ、文献の入手方法や学習の進め方などについて講義し、学生諸君が大学での経済（経営）学の学習にスムーズに移行できるようにすることを目的としている。

また、レポート作成及び添削指導を通じて、資料収集、整理、レポートの書き方など、経済学分野のレポート作成の手法について学ぶ。

#### 授業計画

|     |                     |     |         |
|-----|---------------------|-----|---------|
| 第1回 | ガイダンス/社会科学とは何か      | 9回  | 市場1     |
| 2回  | 論文・レポートの書き方/図書館の使い方 | 10回 | 市場2     |
| 3回  | レポート添削1             | 11回 | 政府1     |
| 4回  | 経済を測る1              | 12回 | 政府2     |
| 5回  | 経済を測る2              | 13回 | 会社1     |
| 6回  | 国際経済1               | 14回 | 会社2     |
| 7回  | 国際経済2               | 15回 | レポート添削3 |
| 8回  | レポート添削2             |     |         |

#### 教材・テキスト・参考文献等

- テキストは特に指定しない。講義時間中に関連文献を紹介する。
- 適宜、レジュメや説明資料を配付する。

#### 成績評価方法

- 3回のレポートで評価する。

#### 参考文献

- ・ 新井明『経済の考え方が分かる本』岩波ジュニア新書511、2005年
- ・ 眞淳平『世界の国1位と最下位』岩波ジュニア新書664、2010年
- ・ 堤未果『社会の真実の見つけかた』岩波ジュニア新書673、2011年
- ・ 一橋大学経済学部 編『教養としての経済学 -- 生き抜く力を培うために』有斐閣、2013年
- ・ 井堀利宏『コンパクト経済学 第2版』新世社、2017年
- ・ 川本明・他『世の中の見え方がガラッと変わる経済学入門』PHP研究所、2016年
- ・ 山田久監修、大久保研治 他著『Primary大学テキスト これだけはおさえたい経済学 学びのガイダンス』実教出版、2014年
- ・ 白井利明『社会への出かた 就職・学び・自分さがし』新日本出版社、2014年
- ・ 渡辺峻・伊藤健市編著『学生のためのキャリアデザイン入門 第3版』中央経済社、2015年

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 体育講義      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [体育講義] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 大西 範和       |             |

### 講義のねらい

健康が人生をよりよく生きるための基盤であることは誰もが知っており、人々の健康志向が高まっています。一方、健康や運動に関する情報は溢れていて、適切に選び、役立てることは難しくなっています。本科目では、特に運動についての生理学的な知識や考え方を学び、適切な情報をもとに健康づくりについて考え、実践するための基本的な力を育てます。授業ではグループで課題解決を目指すTBL (Team based learning)をとり入れ、その達成度テストで成績を評価します。到達目標は以下の3点とします。

1. 健康づくりや運動に関する生理学的な用語や記述を理解できる。
2. 健康づくりや運動に関する生理学的な考え方の概要を説明できる。
3. グループワークにおいて他者の発言を尊重しつつ主体的に発言し、課題解決のために協調することができる。

### 授業計画

|     |                             |
|-----|-----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション、体力と健康の関係、健康づくりの施策 |
| 2回  | 筋肉の構造と収縮の仕組み                |
| 3回  | 筋力を左右する要因と筋力トレーニング          |
| 4回  | 筋肉収縮のためのエネルギー               |
| 5回  | 運動と呼吸、換気の仕組みと呼吸の調節          |
| 6回  | 個人・グループ達成度テスト（第1回～第5回を範囲）   |
| 7回  | 運動と循環、心臓や血管の構造と機能           |
| 8回  | 運動と循環、心臓や血管の調節機構            |
| 9回  | 運動と水分の調節、腎臓による水分調節と飲水       |
| 10回 | 熱中症と体温調節                    |
| 11回 | 個人・グループ達成度テスト（第7回～第10回を範囲）  |
| 12回 | 運動と栄養、糖質の消化吸収とその働き          |
| 13回 | 運動と栄養、タンパク質の消化吸収とその働き       |
| 14回 | サルコペニアと運動、栄養                |
| 15回 | 個人・グループ達成度テスト（第12回～第14回を範囲） |

### 教材・テキスト・参考文献等

朝山正己・彼末一之・三木健寿編著 「イラスト運動生理学」東京教学社

### 成績評価方法

3回の達成度テストの平均点で成績を評価する(100%)。各達成度テストは、3～5回の授業内容及び自己学習成果を評価する個人達成度テストと、同じ内容をグループで討議して解答するグループ達成度テストを行い、その得点の和をもとに各回の達成度テストの点数を算出する。

### その他

意見交換が学ぶための重要な鍵です。自信がなくても積極的に話してください。聞く側は、正誤の判断に拘わらず話し手の話す努力を讃えましょう。

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 体育実技   | 単位数  | : 1    |
| マークシート略 | : [体育実技] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 小磯 浩世  |      |        |

### 講義のねらい

日本では超高齢化が社会問題となっており、健康寿命を長くするために様々な取り組みがなされています。健康的な生活を一生を送るために、運動は大事です。生涯スポーツでは、健康づくりのための運動、生活の楽しみとしての運動を実践することを目標とします。スポーツから各種目のスキルだけでなく、マナー・ルールを身に付け、コミュニケーション能力・協調性・課題克服力などを学ぶこと。

### 授業計画

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 第1回 | 体力レベル確認、基本的なトレーニング |
| 2回  | 卓球（1）基本的なストローク     |
| 3回  | 卓球（2）ダブルスのルール      |
| 4回  | 卓球（3）総当たり戦         |
| 5回  | 卓球（3）総当たり戦         |
| 6回  | バドミントン（1）基本的なストローク |
| 7回  | バドミントン（2）ダブルスのルール  |
| 8回  | バドミントン（3）リーグ戦      |
| 9回  | バドミントン（4）リーグ戦      |
| 10回 | バドミントン（4）リーグ戦      |
| 11回 | バスケットボール 個人技能の獲得   |
| 12回 | バスケットボール 3on3      |
| 13回 | バスケットボール           |
| 14回 | バレーボール（1）個人技能の獲得   |
| 15回 | バレーボール（1）個人技能の獲得   |

### 教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は授業で適宜配布します

### 成績評価方法

- ・出席態度（回数含む）30%（欠席3回で不可）。
- ・受講姿勢 50%
- ・スポーツへのマナー・ルールの理解、個人技能の向上度20%

### その他

- ・能動的に受講することが求められる授業です。積極性を欠いた態度の場合は減点あるいは不可となります。
- ・履修者数を30名程度とします。最後まで履修する意思を必要とします。
- ・実技にふさわしい服装（スポーツウェア、髪型、爪などを含む）とシューズを着用すること。
- ・授業計画に挙げた運動種目は受講者の人数や体力レベルに応じて適宜変更します。
- ・心身の問題や不安、またはその経歴がある場合は、必ず学生部に事前相談すること。そして受講することになった場合、授業担当者にその旨を伝えること。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 生命科学      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [生命科学] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 狩野 幹人       |             |

### 講義のねらい

生命科学 (Life Science) は、21世紀の科学技術を担う重点分野の1つである。2003年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学の知識が必要となる。本講義では、生物の基本構造である「細胞」に焦点をあてる。そして、タンパク質を中心に、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加え、生物学の基本的な枠組みを理解することを目的とする。

### 授業計画

#### 第1部

1. 細胞の構造
2. 細胞の形質、機能
3. 細胞の活動
4. タンパク質の役割

#### 第2部

1. 多細胞生物への展開 (1)
2. 多細胞生物への展開 (2)
3. 多細胞生物への展開 (3)

#### 第3部

1. 免疫システム
2. 細胞の再生と死
3. 環境の認識、調節
4. 生物の進化と多様性

#### 第4部

1. 生物多様性条約とは
2. 生命科学と知的財産 (1)
3. 生命科学と知的財産 (2)

### 教材・テキスト・参考文献等

- ①「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 (第3版)、和田 勝、羊土社 (2015)」を教科書として用いる。また必要な補足資料を、講義の中で随時配布する。
- ②参考文献としては、
  - 生命科学については「分子生物学講義中継、井出 利憲、羊土社」シリーズ等が挙げられる。
  - その他、知的財産については「産業財産権標準テキストー総合編一、特許庁発行」や「産業財産権標準テキストー特許編一、特許庁発行」等が挙げられる。
  - その他、参考文献については、講義の中で随時紹介する。

### 成績評価方法

- ①毎回出席をとる。出席率70%以上を評価の対象とする。
- ②出席率およびレポート (2回を予定) により評価する。

### その他

単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 自然と科学  | 単位数  | : 2    |
| マークシート略 | : [自然科学] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 松井 博和  |      |        |

### 講義のねらい

身近な生活の中で体験したり，利用したりする自然現象や科学技術を理解してもらおう．その中で，いわゆる理系の人でも知らないようなことも織り交ぜ簡単な説明や実験器具をみてもらい理解してもらおう．講義の進め方は，授業内に計算問題を主とするレポートを毎回実施し，主体的に問題理解に取り組めるようにする．また，ニュースなどで科学に関して取り上げられれば，適宜授業に取り込む．

### 授業計画

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 第1回 | 長さ，速さ，時間などの単位について  |
| 2回  | 天体について（地球と月と太陽）    |
| 3回  | 天体について（恒星と惑星）      |
| 4回  | 機械機構について           |
| 5回  | 電気について（電流・電圧）      |
| 6回  | 電気について（電力量と生活）     |
| 7回  | 音について（周波数・音量・デシベル） |
| 8回  | 音について（音声）          |
| 9回  | 光と色について（物理的説明）     |
| 10回 | 光と色について（光・色の科学的利用） |
| 11回 | 生命と遺伝について          |
| 12回 | 人工知能について           |
| 13回 | 研究紹介               |
| 14回 | 天体について（宇宙と科学）      |
| 15回 | 自然と科学について          |

### 教材・テキスト・参考文献等

教材・テキスト等は特になく，適宜授業中にプリントを配布する．

### 成績評価方法

毎回の授業中レポートを書いてもらい 50 点満点の出席点とする（ただし，レポートを 7 回以上提出しない場合は成績を不可とする）．

期末試験を 50 点満点とする．

### その他

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 情報と科学     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [情報科学] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 笠 浩一朗       | 教職選択科目(65期) |

### 講義のねらい

情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報技術の中身を理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるよう指導する。

ITパスポート試験、及び、基本情報技術者試験対策となるように配慮する。

### 授業計画

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 第1回 | コンピュータの歴史                    |
| 2回  | コンピュータの構成                    |
| 3回  | 情報の表現1 (2進数)                 |
| 4回  | 情報の表現2 (16進数、文字コード)          |
| 5回  | 論理回路                         |
| 6回  | ネットワーク1 (LANとWAN、無線LAN)      |
| 7回  | ネットワーク2 (ネットワーク機器、TCP/IP)    |
| 8回  | ネットワーク3 (WWW、電子メール)          |
| 9回  | データベース                       |
| 10回 | アルゴリズムとデータ構造1                |
| 11回 | アルゴリズムとデータ構造2                |
| 12回 | プログラミング演習1 (変数、データ型)         |
| 13回 | プログラミング演習2 (if文、for文、while文) |
| 14回 | プログラミング演習3 (応用)              |
| 15回 | 期末試験、まとめ                     |

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書は使用しない予定
- ・適宜プリント等を配布

### 成績評価方法

- ・期末試験を実施する。50%程度成績に反映させる。
- ・小テストを毎回実施する。40%程度成績に反映させる。
- ・出席を取り、10%程度成績に反映させる。
- ・5回以上欠席した場合は、単位認定しない。

### その他

小テストを毎回実施するので、小テストを通して講義時間外でも復習するように。

|         |          |      |             |
|---------|----------|------|-------------|
| 講義科目    | : 情報と社会  | 単位数  | : 2         |
| マークシート略 | : [情報社会] | 学習形態 | : 選択科目      |
| 担当      | : 笠 浩一朗  |      | 教職選択科目(65期) |

### 講義のねらい

本講義は、三つの内容で構成されている。

一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ITの発達により、社会の生活様式は大きく変化し、誰もが簡単に情報を取得・発信できる世の中になっている。その一方で、個人情報の流出、ネット上での誹謗中傷・不法行為などの新たな問題が発生している。このような社会で、他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごす方法を解説する。

二つ目は、言語処理技術に関することである。現在、インターネット上を中心に、多くの言語データが蓄積されており、それらのデータに対して、言語処理技術を活用することで、多くのサービスが提供され、人々に利用されている。講義では、言語処理技術を用いたシステムの仕組みを紹介する。

三つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。

### 授業計画

|     |                             |
|-----|-----------------------------|
| 第1回 | インターネット概論                   |
| 2回  | ネットワーク利用におけるマナー             |
| 3回  | 個人情報とプライバシー                 |
| 4回  | 電子商取引                       |
| 5回  | 知的財産権・メディアリテラシ              |
| 6回  | ネットワーク不法行為                  |
| 7回  | 情報技術とセキュリティ                 |
| 8回  | 情報倫理とリテラシ                   |
| 9回  | 言語処理技術（文字コード、形態素解析）         |
| 10回 | 言語処理技術（構文解析、意味解析）           |
| 11回 | 言語処理技術を用いたシステム（機械翻訳）        |
| 12回 | 言語処理技術を用いたシステム（対話システム、情報検索） |
| 13回 | システム開発とマネジメント               |
| 14回 | システム構成と故障対策                 |
| 15回 | まとめ                         |

### 教材・テキスト・参考文献等

・教科書：大島他「ケースで考える情報社会」【第2版】 三和書籍

### 成績評価方法

出席をとる。結果を10%程度成績評価に反映させる。ただし、出席率が著しく悪い場合（1/3程度以下）は評価対象外とし、単位を認定しない。

毎回、課題を課す予定。その結果を90%程度成績評価に反映させる。

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 講義科目 : 情報処理実習 I   | 単位数 : 1     |
| マークシート略 : [情報実 I] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 森田 賢太        |             |

#### 講義のねらい

現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

#### 授業計画

- 第1回 導入, コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

#### 教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版, 2016  
ISBN978-4-908434-17-4

#### 成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

#### その他

コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 講義科目 : 情報処理実習 I   | 単位数 : 1     |
| マークシート略 : [情報実 I] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 真田 耕輔        |             |

#### 講義のねらい

現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

#### 授業計画

|     |                 |
|-----|-----------------|
| 第1回 | 導入, コンピュータリテラシー |
| 2回  | コンピュータの基本操作     |
| 3回  | Wordの基礎(1)      |
| 4回  | Wordの基礎(2)      |
| 5回  | Wordの基礎(3)      |
| 6回  | Wordの基礎(4)      |
| 7回  | 演習 Wordのまとめ     |
| 8回  | Excelの基礎(1)     |
| 9回  | Excelの基礎(2)     |
| 10回 | Excelの基礎(3)     |
| 11回 | Excelの基礎(4)     |
| 12回 | 演習 Excelのまとめ    |
| 13回 | 資料を作る際の心構え(1)   |
| 14回 | 資料を作る際の心構え(2)   |
| 15回 | 総合演習            |

#### 教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版, 2016  
ISBN978-4-908434-17-4

#### 成績評価方法

成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は、課題あわせて40点程度、演習はそれぞれ20点程度である。

#### その他

コンピュータの操作は、本読んだだけでは取得できず、実際に自分で手を動かして慣れることが大事である。そのため、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合はこの点に留意すること。

|        |            |      |        |
|--------|------------|------|--------|
| 講義科目   | : 情報処理実習 I | 単位数  | : 1    |
| マーケット略 | : [情報実 I]  | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当     | : 高瀬 治彦    |      |        |

#### 講義のねらい

現在，職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では，書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで，コンピュータの基本操作を習得することをめざす。

#### 授業計画

- 第1回 導入，コンピュータリテラシー
- 第2回 コンピュータの基本操作
- 第3回 Wordの基礎(1)
- 第4回 Wordの基礎(2)
- 第5回 Wordの基礎(3)
- 第6回 Wordの基礎(4)
- 第7回 演習 Wordのまとめ
- 第8回 Excelの基礎(1)
- 第9回 Excelの基礎(2)
- 第10回 Excelの基礎(3)
- 第11回 Excelの基礎(4)
- 第12回 演習 Excelのまとめ
- 第13回 資料を作る際の心構え(1)
- 第14回 資料を作る際の心構え(2)
- 第15回 総合演習

#### 教材・テキスト・参考文献等

『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応』noa出版，2016  
ISBN978-4-908434-17-4

#### 成績評価方法

成績は，課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。なお，課題・演習を期日までに提出しなかった回が，3回以上となった場合は成績評価の対象としない。配点の比率は，課題あわせて40点程度，演習はそれぞれ20点程度である。

#### その他

コンピュータの操作は，本を読んだだけでは修得できない。そのため，この授業では，実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は，この点に留意すること。

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 講義科目 : 情報処理実習 I   | 単位数 : 1     |
| マークシート略 : [情報実 I] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 笠 浩一朗        | 教職選択科目(65期) |

### 講義のねらい

現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。そのコンピュータについての基礎知識を習得できるよう指導する。

特に、実際のアプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組むことで、パソコンの使用方法の基礎を習得できるよう指導する。

### 授業計画

- 第1回 実習室の利用方法とコンピュータの基本操作
- 第2回 Word の基礎 1（各部の名称）とタイピング練習
- 第3回 Word の基礎 2（ページ設定、文書入力、スタイル、脚注）
- 第4回 Word の基礎 3（表の作成、SmartArtグラフィック）
- 第5回 Word の基礎 4（図の作成、ヘッダーとフッター）
- 第6回 Word の基礎 5（段組み、数式）
- 第7回 Excel の基礎 1（入力方法、オートフィル、書式設定）
- 第8回 Excel の基礎 2（絶対参照、関数、グラフ）
- 第9回 Excel の基礎 3（表計算の応用）
- 第10回 PowerPointの基礎
- 第11回 最終課題作成 1
- 第12回 最終課題作成 2
- 第13回 最終課題作成 3
- 第14回 最終課題発表
- 第15回 まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

『MS OFFICE 2013を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、切田節子、三浦信宏、小林としえ、乙名健 共著、2014

### 成績評価方法

出席を毎回取り、成績評価に加味する。各課題の配点と出席点は下記のとおりである。

- Word課題：15点程度
- Excel課題：20点程度
- PowerPoint課題：10点程度
- 最終課題：40点程度
- 出席：15点程度

### その他

- ・実習の講義は欠席するとついていけなくなります。欠席しないように。
- ・パソコンに不慣れな人は、講義の予習と復習を積極的にするように。
- ・パソコンに習熟した人は、追加の課題に取り組んだり、周りの人に教えたりすることで、さらに理解を深めるように。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 情報処理実習Ⅱ   | 単位数 : 1     |
| マークシート略 : [情報実Ⅱ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 田中 通        |             |

### 講義のねらい

- ITが社会基盤のインフラとして定着し、現在ではその上でのスキルだけでなく、コミュニケーションがより重視されてきている。そのような社会環境の中で、その双方の理解の助けとなる講義を目指す。
- コミュニケーションツールとして**blog**を用い、自らの行動によって変化する状況を、様々な角度から分析する。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス, **blog**作成
- 第2回 **blog**のカスタマイズ, 画像入り記事の投稿, 授業用記事へトラックバック送信, **Evernote**を用いたリポートの共有
- 第3回 **Excel**へのアクセスデータ入力, **CMS**とは
- 第4回 **blog**を通じた相互交流
- 第5回 **HTML** (1)
- 第6回 **HTML** (2): コンピュータで扱う色について, ショートカット演習
- 第7回 **HTML** (3): 文字装飾, 画像表現, ハイパーテキスト
- 第8回 **HTML** (4): 内部リンク, 外部リンク
- 第9回 **HTML** (5): 相互リンク
- 第10回 **Excel** (1): 基礎, 連続データ入力, 計算, グラフ作成
- 第11回 **Excel** (2): 中級, 並び替え, フィルタ
- 第12回 **Excel** (3): データ合成, クロス集計
- 第13回 最終課題作成作業 (1): 各自でデータ解析
- 第14回 最終課題作成作業 (2)  
Word: **Excel**との連携, 箇条書き, 表紙, 段組み等
- 第15回 最終課題作成作業 (3): 仕上げ作業, 査読

### 教材・テキスト・参考文献等

- 講義出席者に限りプリントを配布
- スクリーン出力

### 成績評価方法

- 出席状況と課題提出状況・内容から総合的に評価する。
- 最終課題は論文形式文書作成。E-Mailで提出。

### その他

- 出欠確認と同時に状況報告の機会があるので、極力欠席しないこと。
- この授業は連続性のある実習です。欠席した場合は次回の実習までに欠席した実習の内容を自分で進めておいてください。能力が追い付いていなければ報告書もE-Mailで前日までに送っておくこと。

|                |            |
|----------------|------------|
| 講義科目 :心理学      | 単位数 :2     |
| マークシート略 :〔心理学〕 | 学習形態 :選択科目 |
| 担当 :中西 良文      |            |

### 講義のねらい

日々の生活の中で、人は何らかの形で「こころ」を働かせている。そのため、「こころ」の働きについて理解することが、より良い生活に役に立つ場合もある。本講義では「こころ」の働きに関する様々なトピックを紹介し、「こころ」の働きを統合的に理解することを目指す。

### 授業計画

- 第1回 心理学とはどのような学問か
- 第2回 短期記憶の働き
- 第3回 長期記憶の働き(1)
- 第4回 長期記憶の働き(2)
- 第5回 短期記憶と長期記憶の連携
- 第6回 熟達するとはどういうことか
- 第7回 人は社会的な情報をどのように捉えるのか
- 第8回 印象形成
- 第9回 対人魅力(1)
- 第10回 対人魅力(2)
- 第11回 集団における人の行動(1)
- 第12回 集団における人の行動(2)
- 第13回 動機づけ(1)
- 第14回 動機づけ(2)
- 第15回 動機づけ(3)

### 教材・テキスト・参考文献等

授業内で参考資料を紹介する

### 成績評価方法

授業での活動への関与（私語なども評価の参考とする）や授業中に出される課題、試験の成績を総合的に判断して評価する。実施される試験は持ち込み不可で「理解を問う」問題が出される

### その他

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 環境論      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [環境論] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 南 有哲       |             |

#### 講義のねらい

環境問題は今日、人類が直面する最重要課題のひとつであるとみなされるに至っている。本講義の目的は、生物多様性、地球温暖化、核エネルギーという3つの大きなテーマについて概観することである。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 地球温暖化のメカニズム
- 第3回 地球温暖化がもたらすもの
- 第4回 懐疑論について
- 第5回 地球温暖化にどう対応すべきなのか
- 第6回 核分裂と核融合
- 第7回 核分裂発電の仕組み
- 第8回 核エネルギー生産の利点と難点①
- 第9回 核エネルギー生産の利点と難点②
- 第10回 日本はなぜ「原発列島」と化したのか
- 第11回 生物多様性とは何か
- 第12回 生物多様性はなぜ大事なのか
- 第13回 生物多様性破壊の現状と背景①
- 第14回 生物多様性破壊の現状と背景②
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する。

#### 成績評価方法

毎回小レポートを課し、それをもとに評価を行う。

#### その他

|         |              |      |       |
|---------|--------------|------|-------|
| 講義科目    | :教育の基礎理論     | 単位数  | :2    |
| マークシート略 | :[教育基礎]      | 学習形態 | :選択科目 |
| 担当      | :山田 全紀・藤枝 律子 |      |       |

### 講義のねらい

教育の基礎理論は、教育が成り立つための土台、すなわち教育の本質（何か？）と根拠（何故か？）について広く学び、現代教育を支えている理論を検証することをねらいとする。言い換えれば、現在行われている教育に対して、例えば、学校や教師について、「何故学校へ行くのか？」「教師とは何か？」というような最も基礎的な問いを立てることが肝要であり、これはわれわれの常識を問い直すことでもある。

### 授業計画

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 第1回 | シラバス概観                   |
| 2回  | 学校とは何か？教師とは何か？という基礎的な問い  |
| 3回  | ギリシア哲学の学校とキリスト教の学校       |
| 4回  | ソクラテスの教師とスコラの教師          |
| 5回  | 近代教育から現代教育への展開           |
| 6回  | J. J. ルソーの教育観－消極教育と積極教育－ |
| 7回  | I. カントの人間学と教育観           |
| 8回  | 近代教育批判と現代的人間観            |
| 9回  | 西洋と東洋の人間観・世界観－宗教と教育の関係－  |
| 10回 | 現代教育における個人の問題            |
| 11回 | 実存思想とO. F. ボルノーの教育観      |
| 12回 | 人間教育と日本人教育の間             |
| 13回 | 教育基本法改正と新しい学習指導要領        |
| 14回 | 現代日本の教育改革と求められる日本国民像     |
| 15回 | まとめ－自己への問い－              |

### 教材・テキスト・参考文献等

講義中に資料を配布する。

### 成績評価方法

レポートおよび平常点による

### その他

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 発達と学習     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [発達学習] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 東福寺 一郎      |             |

### 講義のねらい

- ①生涯発達の観点から誕生から死に至るまでの発達的变化について、ビデオを多用しながら解説します。
- ②行動分析的立場と認知心理学的立場から人の学習について、パワーポイントを使用しながら講じます。
- ③それらを通じて、人がどのように成長発達していくのかについて、心理学的な考え方を身につけることを目的とします。

### 授業計画

以下の予定で進めていきますが、進み具合によって若干の修正を加えることがあります。また、職務上休講が重なる可能性がありますが、その場合には補講（場合によっては土曜日に関講）で対応します。このことをわきまえたうえで、履修を決定してください。

- 第1回 人間の発達の可塑性 ビデオを通し、人間の発達の不思議について学ぶ。
- 第2回 人間の発達の可塑性 第1回のつづき。
- 第3回 発達の研究法 発達の考え方と研究方法について
- 第4回 乳児期 新生児期を含め、生後1歳半位までの発達的变化。
- 第5回 幼児期 パーソナリティの基本が形成される幼児期の心理学的特徴。
- 第6回 児童期 小学校の時期にあたる児童期の発達的变化。
- 第7回 青年期 自我同一性の達成を中心にした青年期の心理学的特徴。
- 第8回 成人・高齢期 成人後死に至るまでの発達的变化
- 第9回 教育とカウンセリングの関係について、ビデオを見ながら考える。  
小テスト実施。
- 第10回 学習の諸相 学習の定義。学習にかかわるさまざまな知見。
- 第11回 行動分析の考え方 スキナーの行動分析の考え方について解説。
- 第12回 行動分析の考え方（2） プログラム学習を用いて前回の復習。
- 第13回 人間の記憶過程 認知心理学の立場から記憶情報処理について解説。
- 第14回 認知心理学と教育 認知心理学が教育に果たす役割について（ビデオ）
- 第15回 まとめと最終試験

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しません。参考文献は講義の中で適宜紹介します。

### 成績評価方法

- ①出席を毎回取ります。6回以上欠席した場合には評価の対象外です。
- ②小テスト20点、筆記試験80点とし、その合計により評価します。

### その他(学生へのメッセージ)

毎回ビデオやパワーポイントを用いることにより、学生の興味を喚起したいと思います。これからの社会生活や家庭生活において有意義なものとなるようにしていきます。

|                 |            |
|-----------------|------------|
| 講義科目 :生涯学習論     | 単位数 :2     |
| マークシート略 :〔生涯学習〕 | 学習形態 :選択科目 |
| 担当 :長島 洋(りょうがん) | 教職選択科目     |

### 講義のねらい

生涯学習は、生まれたときから死ぬときまでのながいスパンのなかで、学びを通して人と人がつながり、その学んだ成果を地域に活かしあい、それを評価しあう、そんな社会の実現に向けて取り組むものです。学んだ成果をどうやって社会に還元していくか それをテーマに講義を進めます。

だれもが、いつでも、生涯をとおして学ぶことにより、自分の生活や人生感が豊かになり、その学んだ力、成果を地域や学校、職場でどのように活かしていくかを学習します。特に、三重県を中心に自分のふるさとの課題解決にむけた生涯学習のあり方を、学びあい、実際の活動へとつながるよう学習します。

具体的には、生涯学習概論をはじめに学び、後半には、三重県内等のふるさとを見つめ直し、課題を考え、その課題解決にむけた生涯学習プログラムを立案、発表してもらいます。ふるさとや三重が輝けることを願って進めます。

### 授業計画

- ① 生涯学習の意義と生涯学習社会の構築
- ② 生涯学習・社会教育行政の展開
- ③ 生涯学習・社会教育指導者の役割
- ④ 地域社会と生涯学習の実際 事例研究
- ⑤～⑧自分たちの住んでいる（ふるさと・三重県等）まちでの実際の生涯学習事例を集め研究します。
- ⑨ 三重県内生涯学習関連施設の実際 総合文化センター社会見学
- ⑩ 学社融合（学校教育と社会教育の融合）学校支援と生涯学習
- ⑩ 人権教育と生涯学習
- ⑪ 家庭教育と生涯学習
- ⑫～ ふるさとの地域課題解決に向けた生涯学習プログラム立案
- ⑬ 地域課題解決のための生涯学習プログラムの発表・評価

### 教材・テキスト・参考文献等

その都度資料を配布します

参考文献は講義中紹介。

### 成績評価方法

毎回小レポート提出60%、生涯学習プログラム立案・発表等40%による出席重要。毎回レポートが得点に。レポートは必ず授業の最後に回収。5回以上欠席は評価の対象外。つまり無効になります。

### その他

自分のまち・三重県内の生涯学習イベント事業に関心をもって資料等を集めてください。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 差別と人権     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [差別人権] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 上田 浩        |             |

### 講義のねらい

現代社会において重視されるようになってきた基本的人権の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようなになっているのか、等の問題です。労働者の企業での無権利状態、男女差別などの人権をめぐる現状についても考えたいと思います。

### 授業計画

基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。さらに、日本国憲法や世界人権宣言、子どもの権利条約の内容について理解を深め、現代社会での生存権、労働権、教育権をめぐる人権の実態などを検討していきたいと思えます。

1. 現代社会と人権：授業概説
2. 近代的人権の成立の歴史
3. ロックの人権思想
4. 近代的人権の特徴と課題
5. 近代的人権の問題点
6. 人権の拡張の過程
7. 基本的人権と日本国憲法
8. 現代の人権の諸問題
9. 職場における人権
10. ワーキング・プアを考える
11. 男女賃金格差の現状
12. DVと女性の権利
13. 不登校・いじめと子どもの権利
14. 児童虐待と社会
15. まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しません。授業時にプリントを配布します。  
参考文献については授業時に指示します。

### 成績評価方法

レポート試験を行い、授業態度と出席率によって評価します。  
出席を重視し、授業内容について考えたことや意見を書いてもらいます。  
6回以上欠席した場合、評価の対象外とします。  
レポート試験60%、出席・意見などの平常点40%

### その他

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : ジェンダー論    | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [ジェンダ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 松田 いりあ      |             |

#### 講義のねらい

この授業では、性別に関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的条件下で定着したものであることを、ジェンダー概念を通じて明らかにする。同時に性をめぐる二分法が世代を越えて伝えられる仕組みについても、生活感覚とともに理解することを目指す。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに：この授業の概要の説明
- 第2回 ジェンダーとは(1)
- 第3回 ジェンダーとは(2)
- 第3回 社会化(1)
- 第4回 社会化(2)
- 第5回 家族(1)
- 第6回 家族(2)
- 第7回 社会史とジェンダー
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 社会階級・階層とジェンダー
- 第10回 アンペイド・ワーク
- 第11回 メディアとジェンダー
- 第12回 サブカルチャーとジェンダー
- 第13回 身体とジェンダー(1)
- 第14回 身体とジェンダー(2)
- 第15回 まとめ：この授業をふりかえって

#### 教材・テキスト・参考文献等

木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房）

#### 成績評価方法

レポート70% 授業中課題30%

#### その他

成績評価の対象者になるためには、規定の出席回数を満たす必要がある。

|                |             |
|----------------|-------------|
| 講義科目 : 歴史学     | 単位数 : 2     |
| マーケット略 : [歴史学] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 望月 秀人     |             |

#### 講義のねらい

西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思ひます。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 大航海時代と世界の一体化
- 第3回 「宗教戦争」と「世俗化」
- 第4回 封建制から「絶対王政」へ
- 第5回 「絶対王政」の意義と限界
- 第6回 出版資本主義と啓蒙
- 第7回 「市民革命」と近代国家
- 第8回 ナショナリズムと国境問題
- 第9回 工業化とその影響
- 第10回 第一次世界大戦の衝撃
- 第11回 大恐慌の時代
- 第12回 ファシズムの脅威
- 第13回 第二次世界大戦
- 第14回 社会主義と冷戦
- 第15回 グローバル化とその課題

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。

#### 成績評価方法

試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。5回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。

#### その他

言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 講義科目 : 地理学(地誌を含む) | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [地理学]   | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 山崎 智博        |             |

#### 講義のねらい

- ・ 私たちが生活している地域はそれぞれが様々な特徴を持っています。本講義ではそうした地域がどのようにして形成されてきたかをみていくことにより、地域の特徴や抱えている問題等を考えていきます。

#### 授業計画

- 第1回 地域・都市の形成（ガイダンス）
- 第2回 明治維新と都市の近代化
- 第3回 市区改正と都市計画法の制定①
- 第4回 市区改正と都市計画法の制定②
- 第5回 関東大震災復興都市計画①
- 第6回 関東大震災復興都市計画②
- 第7回 戦時期の都市・地域①
- 第8回 戦時期の都市・地域②
- 第9回 戦災復興計画①
- 第10回 戦災復興計画②
- 第11回 現代地域開発政策の展開①
- 第12回 現代地域開発政策の展開②
- 第13回 地域の現状と課題①
- 第14回 地域の現状と課題②
- 第15回 まとめと確認（筆記試験）

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ テキストは使用しません。
- ・ 参考文献はその都度紹介しますが、以下に2冊挙げておきます。  
藤井正・神谷浩夫編著「よくわかる都市地理学」ミネルヴァ書房 2014年  
平岡昭利・野間晴雄編「近畿 I 地図で読む百年」古今書院 2006年

#### 成績評価方法

- ・ 試験（85%）、出席（15%）を基準に判断します。

#### その他

- ・ 地図、写真、映像等を適宜使用する予定です。
- ・ 津市など三重県に関する内容も折に触れ取り上げる予定です。

|                |             |
|----------------|-------------|
| 講義科目 : 哲学      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [哲学] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 吉本 陵      |             |

### 講義のねらい

二十世紀後半になって急速に発展してきた医療技術によって、私たちは生と死の意味について再考する必要に迫られている。本講義では、生命倫理学ないし医療倫理学の基本的な論点を確認し、そこから浮かび上がる私たちの生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みる。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス&イントロダクション
- 第2回 哲学的・倫理的なものの考え方
- 第3回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅰ)
- 第4回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅱ)
- 第5回 生命倫理学の成立とその背景 (Ⅲ)
- 第6回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅰ)
- 第7回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅱ)
- 第8回 インフォームドコンセントの可能性 (Ⅲ)
- 第9回 ケアの倫理 (Ⅰ)
- 第10回 ケアの倫理 (Ⅱ)
- 第11回 ケアの倫理 (Ⅲ)
- 第12回 脳死の倫理的問題 (Ⅰ)
- 第13回 脳死の倫理的問題 (Ⅱ)
- 第14回 脳死の倫理的問題 (Ⅲ)
- 第15回 まとめと確認

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。

### 成績評価方法

論述形式の試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。五回以上の欠席が認められた場合には評価の対象外とする。

### その他

講義形式で行う。各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 文学 I      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [文学 I] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 今本 幸平       |             |

### 講義のねらい

文学作品の中には、ただ読まれるだけでなく、他の芸術家の創作意欲を刺激するようなものが多々あります。この講義では有名なヨーロッパの文学作品を取り上げて、その作者や時代背景について学び、ヨーロッパの文学や文化に関する知識を深めたいと思います。作品世界のイメージを広げるために、講義ではそれらの作品や作者に関する解説だけでなく、文学から派生した音楽や映像作品などの鑑賞も行う予定です。

### 授業計画 ( )は取り上げる予定の作家、作品

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、資料配布                    |
| 2回  | シェイクスピアの悲劇 (『ロミオとジュリエット』)     |
| 3回  | 『ロミオとジュリエット』2                 |
| 4回  | 『ロミオとジュリエット』3                 |
| 5回  | シェイクスピアの喜劇 (『夏の夜の夢』)          |
| 6回  | 『夏の夜の夢』2                      |
| 7回  | 民衆本の世界 (『ティル・オイレンシュピーゲル』)     |
| 8回  | 伝説と文学1 (民衆本『ファウスト博士』)         |
| 9回  | 伝説と文学2 (モリエール『ドン・ジュアン』)       |
| 10回 | 文学とオペラ1 (メリメ『カルメン』)           |
| 11回 | 文学とオペラ2 (デュマ・フィス『椿姫』1)        |
| 12回 | 『椿姫』2                         |
| 13回 | 映画化された文学 (ベルンハルト・シュリンク『朗読者』1) |
| 14回 | 『朗読者』2                        |
| 15回 | まとめとテスト                       |

\* 上記は予定です。取り上げる順序、内容等は変更される場合があります。

### 教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は事前に (あるいは当日) 印刷して配布します。  
参考文献等は授業中に紹介します。

### 成績評価方法

出席状況とテストで評価します。授業内容に関連する短い課題文、感想、質問などを記入して提出してもらい、出席確認をします。全15回の授業のうち、10回以上出席しない場合は評価の対象外となります。

期末テストでは、授業で取り上げた作品についてテーマを事前にいくつか提示し、その中から一つを選んで800~1000文字程度の小論文を書いてもらいます。

その他 講義を聞くだけでなく、自ら作品を読んで味わってください。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 文学Ⅱ      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [文学Ⅱ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 今本 幸平      |             |

### 講義のねらい

18世紀から20世紀までのドイツ文学作品から、毎回テーマに沿った作品をいくつか取り上げ、解説してゆきます。ドイツ文学にはあまりなじみがないという人が多いと思いますので、作家やその作品が生まれた時代背景などから説明します。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学作品の味わい方に正解はありません。読む人それぞれが等身大で楽しめば良いのです。授業では作品をより親しみやすく読むための糸口を示してゆきたいと思います。

### 授業計画 ( )は取り上げる予定の主な作品

|     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、資料配布、ドイツ文学概観               |
| 2回  | ドイツ文学概観                          |
| 3回  | ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (人物と時代背景)    |
| 4回  | ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (『ファウスト』)    |
| 5回  | ハインリヒ・ハイネの詩と音楽                   |
| 6回  | 古いしがらみからの脱却 (W. ミュラー『冬の旅』)       |
| 7回  | 「ドイツ」を求める機運 (『グリム童話』)            |
| 8回  | 童話の解釈 (『グリム童話』2)                 |
| 9回  | イメージから生まれる言葉 (J. ケルナー『クレクソグラフィ』) |
| 10回 | 不条理な文学 (フランツ・カフカ『変身』『訴訟』など)      |
| 11回 | 子供の文学1 (エーリヒ・ケストナー『飛ぶ教室』)        |
| 12回 | 子供の文学2 (J. シュपीーリ『ハイジの修行遍歴時代』)   |
| 13回 | 時間の文学 (M. エンデ『モモ』)               |
| 14回 | 自分を見つめる文学 (P. ジュースキント『コントラバス』など) |
| 15回 | まとめとテスト                          |

\* 上記は予定です。取り上げる順序、内容等は変更される場合があります。

### 教材・テキスト・参考文献等

必要な資料は事前に (あるいは当日) 印刷して配布します。  
参考文献等は授業中に紹介します。

### 成績評価方法

出席状況とテストで評価します。授業内容に関連する短い課題文、感想、意見、質問などを記入して提出してもらい、出席確認をします。全15回の授業のうち、10回以上出席しない場合は評価の対象外となります。  
期末テストでは、授業で取り上げた作品についてテーマを事前にいくつか提示し、その中から一つを選んで800~1000文字程度の小論文を書いてもらいます。

### その他

講義を聞くだけでなく、自ら作品を読んで味わってください。

|                |             |
|----------------|-------------|
| 講義科目 : 美学      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [美学] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 岡野 智子     |             |

### 講義のねらい テーマ「日本の意匠—暮らしを彩るデザインの諸相」

日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の身近な花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学、また歌舞伎などの芸能とも深い関わりをもつ。本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、主に絵画や工芸品を通じて多方面から考察する。今日も見出される伝統的な意匠の意義を知ることは、個性的な表現を求められる現代においてこそ深い示唆となり得よう。

### 授業計画

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1 日本美術の成立1 (縄文～平安)   | 日本美術の代表作を辿り流れを概観 |
| 2 日本美術の成立2 (平安～江戸)   | 日本美術の代表作を辿り流れを概観 |
| 3 吉祥の意匠—福を招く図様—      | 中国と日本の吉事の図様を比較   |
| 4 桜の意匠—桜への想いとその表象—   | 桜の意匠が示す日本の精神的風土  |
| 5 涼を呼ぶ意匠—実用と装飾の出会い   | 夏の調度に施された工夫と美    |
| 6 秋を彩る意匠—情趣と洗練の美—    | 秋草、月など情趣に富む意匠の魅力 |
| 7 冬を楽しむ意匠—雪の姿さまざま—   | 雪の特性を生かした図様の特徴   |
| 8 五節句1—邪を祓い季節を愉しむ—   | 正月・上巳・端午の成立と図様   |
| 9 五節句2—邪を祓い季節を愉しむ—   | 七夕・重陽の成立と図様      |
| 10 月次の花鳥と行事—歌絵の広がり—  | 各月を象徴する図様と和歌の関わり |
| 11 伊勢物語の意匠—燕子花と問えば—  | 物語の場面を想起させる図様の成立 |
| 12 源氏物語の意匠—留守模様遊ぶ—   | 婚礼調度に施された源氏意匠の役割 |
| 13 歌舞伎の意匠—粹と飾りの美意識—  | 舞台と役者の織り成す江戸の美   |
| 14 動物の意匠—霊獣からペットまで—  | 動物と人との関わりが育んだ意匠  |
| 15 渡来の意匠—憧れの南蛮ファッション | 最新流行とされた異国風のモチーフ |

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。参考文献は『日本の意匠』、『続日本の意匠』シリーズ (京都書院)、『日本の文様』シリーズ (小学館)、『カラー版 日本美術史』 (美術出版社)、『すぐわかる日本の美術』 (東京美術) 他このシリーズ、ほか、最初の授業で提示する。

### 成績評価方法

出欠票の代わりに毎回講義で触れた作品の中から1点を選びコメント提出を求める。受講者は提出回数が原則として10回以上の者のみ④の提出資格が得られる。評価は①出席点25% ②コメント内容の評価25% ③事前事後の自己学習として全国各地の展覧会等の見学レポートの提出25% ④レポート (②・③を応用した独自の展覧会企画案) 25%

### その他

日本で育まれてきた美意識や伝統の背景にある多様な文化。その成立と魅力を知ることが即ち自身を知ることと気づき、豊かな人間性の構築に役立ててほしい。授業の予習復習として、各自で美術館・博物館等で実作品を見ることを強く推奨する。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 比較文化論    | 単位数 : 2     |
| マーケット略 : [比較文化] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 竹添 敦子      |             |

### 講義のねらい

- ・ 西欧と日本を比較しながら、身近な文化現象を再考し、その背後にあるものとの考え方、考え方の違いを探ります。本年度は「余暇・娯楽」を軸に東西文化を比較します。
- ・ 当たり前だと思っている現象も、歴史をさかのぼると興味深い事実が見えてきます。また私たちの「常識」について、一度立ちどまってみると、思いもかけない発見があります。こういったことを確認するために、毎回映像を使用しながら、現在の私たちの文化を考えます。
- ・ 「伝統」や「慣習」のことで片づけられていた現象を再検討します。自分自身の感覚と理解を再確認する作業を通じ、「文化」とは何かを考察します。

### 授業計画

|                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 第1回 文化を比較するとは        | 第9回 日本の娯楽（旅と温泉）     |
| 第2回 おとぎ話の比較（日本の昔話）   | 第10回 西欧の娯楽（旅行と教養）   |
| 第3回 おとぎ話の比較（西欧の昔話）   | 第11回 日本の娯楽（花鳥風月と演芸） |
| 第4回 余暇と娯楽（「見る」と「する」） | 第12回 西欧の娯楽（カフェ文化）   |
| 第5回 日本の娯楽（歌舞伎・舞踊）    | 第13回 近代の余暇と文化（百貨店）  |
| 第6回 西欧の娯楽（オペラ・バレエ）   | 第14回 現代の余暇と文化（遊園地）  |
| 第7回 日本の娯楽（カルタ・釣り）    | 第15回 まとめと確認（試験）     |
| 第8回 西欧の娯楽（競馬・スポーツ）   |                     |

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ 使用しません。
- ・ 自ら参考文献を探ることが重要な作業となります。指示に従い、いかに資料を探し、いかに客観的、批判的に資料を分析できるかを学んでください。

### 成績評価方法

- ・ 小レポート（毎回実施、70%）と最終試験（論述式、30%）を基準に評価します。
- ・ 出席を重視します（毎回、講義の最後に小レポートを課します。講義内容を確認し、かつ自分の意見をまとめるものです。この小レポートによって出席の確認をします。小レポートは採点して（5点満点）をつけて返却します。講義開始までに当日のレジюмеとともに各自とおいてください。
- ・ 5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。4回休んだ時点で名前の下にイエローラインがはいります。5回休むとレッドラインとなります。レッドライン以降欠席があると無資格となります。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 英会話      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [英会話] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : John Dykes |             |

### 講義のねらい

This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The aim is to provide a foundation in the structure of the language, gradually building students' understanding of the basic grammar, vocabulary and idioms required for general communication in English. Each unit of the textbook will take approximately 2 classes to complete and regular mini-tests will be given to monitor students' progress. Students ***must*** work together to practice the spoken language.

ONLY ENGLISH IS USED ON THIS COURSE.

### 授業計画

1. Introductions and orientation.
2. Hello Everybody.
3. Meeting people.
4. The world of work.
5. Take it easy!
6. Where do you live?
7. Can you speak English?
8. Review & end of first semester test
9. Then and now.
10. A date to remember.
11. Food you like!
12. Looking Good!
13. Life's an adventure!
14. Have you ever?
15. Review & end of second semester test

### 教材・テキスト・参考文献等

*American Headway 1* (2<sup>nd</sup> edition. ISBN 978-0-19-472945)

By Liz and John Soars (Oxford University Press)

### 成績評価方法

Work in class – 60%

(A positive attitude and a willingness to try are essential for conversation)

Tests – 40%

### その他

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 英語講読      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [英語講読] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 村井 美代子      |             |

#### 講義のねらい

- ・ 現代社会が抱える様々な問題を提起し、「いかに対応するか (HOW TO)」を論じたレベル別リーディングテキストを使用する。各章読み切り形式で、約 400 語にまとめられ、TOEICスコア 400～600 点程度をおおよその基準にしている。
- ・ 各章にはリーディング課題だけでなく、語彙や文法、イディオムに関連した問題や、正答を音声で確認する問題なども用意されている。これまでの英語学習の基礎の上に、実践的な読み取り、聞き取りの力を身につけてほしい。

#### 授業計画

- ・ 1つの章を2回ないし3回の授業で読了する予定。ただし、受講生の学習の進捗度などによって、授業進行の速度は随時調整する。

|     |              |      |              |
|-----|--------------|------|--------------|
| 第1回 | オリエンテーション    | 第16回 | 第6章 オンライン学習  |
| 2回  | 第1章 学習スキルと習慣 | 17回  | 第6章          |
| 3回  | 第1章          | 18回  | 第7章 スマホ活用    |
| 4回  | 第1章・第2章      | 19回  | 第7章          |
| 5回  | 第2章 締切の遵守    | 20回  | 第7章・8章       |
| 6回  | 第2章          | 21回  | 第8章 対人関係     |
| 7回  | 第3章 旅行スキル    | 22回  | 第8章          |
| 8回  | 第3章          | 23回  | 第9章 会議の効率化   |
| 9回  | 第3章・第4章      | 24回  | 第9章          |
| 10回 | 第4章 飛行恐怖症    | 25回  | 第9章・第10章     |
| 11回 | 第4章          | 26回  | 第10章 宣伝広告    |
| 12回 | 第5章 うそ発見器    | 27回  | 第10章         |
| 13回 | 第5章          | 28回  | 第11章 チップについて |
| 14回 | 第5章・6章       | 29回  | 第11章         |
| 15回 | 前期学習内容のまとめ   | 30回  | 後期学習内容のまとめ   |

#### 教材・テキスト・参考文献等

『Readers' Forum 1 HOW-TO ENGLISH』 (南雲堂)

#### 成績評価方法

- ・ 毎回出席をとる。
- ・ 前期最終授業時と後期最終授業時に試験を行う。全授業回数の3分の2以上の出席がない場合、評価の対象外とする。
- ・ 成績は前後期試験を中心にして、出席状況や課題の提出状況、学習態度などから総合的に判断する。評価基準の目安は、試験：平常点 = 7：3

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 総合英語   | 単位数  | : 2    |
| マークシート略 | : [総合英語] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 大蔵 香代子 |      |        |

### 講義のねらい

- ・本講義ではTOEICテスト問題演習を通して、TOEICテストのスコアアップを目指す。  
TOEIC問題を教材として、語彙力・文法・リスニング・リーディングを含む総合的な英語コミュニケーション、英語運用能力の向上を目指す。

### 授業計画

- ・TOEIC頻出重要語句の意味・発音・品詞・文の構造の基礎力を養成する。
- ・TOEICテストの出題傾向に慣れ、各パートの攻略法を学ぶ。
- ・TOEICテスト形式を解き、学習内容の確認・定着を図る。
- ・ユニット毎に復習テストまたは自己学習課題を提出する。

| 前 期   |                                   | 後 期   |                   |
|-------|-----------------------------------|-------|-------------------|
| 第 1 回 | イントロダクション<br>Listening/Reading攻略法 | 第 1 回 | Unit 11(1)        |
| 第 2 回 | Unit 1(1)                         | 第 2 回 | Unit 11(2)        |
| 第 3 回 | Unit 1(2)                         | 第 3 回 | Unit 12           |
| 第 4 回 | Unit 2(1)                         | 第 4 回 | Unit 13           |
| 第 5 回 | Unit 2(2)                         | 第 5 回 | Unit 14           |
| 第 6 回 | Unit 3(1)                         | 第 6 回 | Unit 15           |
| 第 7 回 | Unit 3(2)                         | 第 7 回 | Unit 16           |
| 第 8 回 | Unit 4                            | 第 8 回 | Unit 17           |
| 第 9 回 | Unit 5                            | 第 9 回 | Unit 18(1)        |
| 第10回  | Unit 6                            | 第10回  | Unit 18(2)        |
| 第11回  | Unit 7                            | 第11回  | Unit 19(1)        |
| 第12回  | Unit 8                            | 第12回  | Unit 19(2)        |
| 第13回  | Unit 9                            | 第13回  | Unit 20(1)        |
| 第14回  | Unit 10                           | 第14回  | Unit 20(2)        |
| 第15回  | Practice Test (1)                 | 第15回  | Practice Test (2) |

### 教材・テキスト

- ・「Step-by-Step Prep for the TOEIC L&R TEST THE TOEIC Step 2 Intermediate Course」(株式会社アルク大学教材編集部)
- ・40% Practice Tests (1)(2)
- ・40% 復習テスト・課題提出
- ・20% 出席・授業参加

### その他

- ・復習テストの追・再試及び課題提出期限の延長はありません。
- ・講義時間に相当する自宅・自己学習時間を必要とします。辞書必携。
- ・授業計画はクラスの進捗によって変更することがあります。

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 講義科目 : 仏語Ⅱ        | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [ 仏語Ⅱ ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 岩本 篤子        |             |

### 講義のねらい

昨年度の仏語Ⅰに続き、様々な場面での基本的な会話表現を学ぶ。

### 授業計画

|     |               |      |                |
|-----|---------------|------|----------------|
| 第1回 | 仏語Ⅰで習ったことの確認  | 第16回 | 13課 過去のことを話す   |
| 2回  | 仏語Ⅰの対話文復習     | 17回  | 13課の続き         |
| 3回  | 8課 興味を述べる     | 18回  | 13課の続き         |
| 4回  | 8課の続き         | 19回  | 2種類の過去形の確認     |
| 5回  | 9課 誘う         | 20回  | 過去形の練習問題       |
| 6回  | 9課の続き         | 21回  | 仏検4級をめざして2     |
| 7回  | 9課の続き         | 22回  | 14課 仮定する       |
| 8回  | 綴り字の読み方と音節の復習 | 23回  | 14課の続き         |
| 9回  | 10課 天候と時刻     | 24回  | 仮定表現の練習問題      |
| 10回 | 10課の続き        | 25回  | 重要な動詞の復習       |
| 11回 | 仏検4級をめざして1    | 26回  | 基本動詞を用いた役に立つ表現 |
| 12回 | 11課 数量を表す     | 27回  | 役に立つ表現の確認      |
| 13回 | 11課の続き        | 28回  | 仏語Ⅱの対話文復習      |
| 14回 | 11課の続き        | 29回  | 講読部分の読み復習      |
| 15回 | 12課 比較する      | 30回  | 全体の復習と小テスト最終回  |

### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：藤田 裕二「パリ・ポルドー」 朝日出版社

### 成績評価方法

- ①授業中に行う小テストの平均点が60点以上あれば、合格とする。
- ②6回以上欠席すると単位を認めない。

### その他

せっかく始めたフランス語をやめてしまうのはもったいないことです。仏語Ⅰの成績は全く関係ありません。必ず何かの役に立つと思って、頑張つて続けてみましょう！（フランス語初心者の方の受講はご遠慮ください）

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 独語Ⅱ      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [独語Ⅱ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 今本 幸平      |             |

### 講義のねらい

前期では独語Ⅰで扱えなかった文法の続きを勉強して、基礎的な文法を一通り学んだ後、後期はドイツ語検定試験の対策問題や、平易なドイツ語の読解などを行いながら、文法の定着をはかります。リスニングの練習も行い、ドイツ語検定試験4級～3級程度の力をつけることを目標とします。

### 授業計画

|     |              |      |               |
|-----|--------------|------|---------------|
| 第1回 | ガイダンス、独語Ⅰの復習 | 第16回 | 前期の復習         |
| 2回  | 独語Ⅰの復習2      | 17回  | ドイツ語検定対策(4級)1 |
| 3回  | 独語Ⅰの復習3      | 18回  | ドイツ語検定対策(4級)2 |
| 4回  | 独語Ⅰの復習4      | 19回  | ドイツ語検定対策(4級)3 |
| 5回  | 過去形と過去分詞     | 20回  | ドイツ語を読む1      |
| 6回  | 現在完了形1       | 21回  | ドイツ語を読む2      |
| 7回  | 現在完了形2       | 22回  | ドイツ語を読む3      |
| 8回  | 受動態          | 23回  | ドイツ語検定対策(3級)1 |
| 9回  | 形容詞          | 24回  | ドイツ語検定対策(3級)2 |
| 10回 | 形容詞の比較表現     | 25回  | ドイツ語検定対策(3級)3 |
| 11回 | 再帰代名詞        | 26回  | ドイツ語を読む4      |
| 12回 | zu不定詞        | 27回  | ドイツ語を読む5      |
| 13回 | 関係代名詞        | 28回  | ドイツ語を読む6      |
| 14回 | 接続法          | 29回  | ドイツ語を読む7      |
| 15回 | まとめとテスト      | 30回  | まとめとテスト       |

\* 上記は予定です。授業の進度、内容は受講者の理解度に応じて調整します。

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・ 独和辞典(独語Ⅰで使用したもの)
- ・ 教材は必要なものを印刷して配布します。
- ・ 参考文献: 独語Ⅰで使用した教科書。その他は授業時に随時紹介します。

### 成績評価方法

1. 前期、後期ともに10回以上授業に出席して勉強すること。
  2. 学期末テストで平均60点以上とること。
- 1.と2.の条件を両方満たせば単位取得できます。  
評価は各学期末のテストの点数に基づきます。

### その他

辞書は必ず毎回持参して、気になる単語は自主的に調べてください。  
独語Ⅰの単位を取得していることを前提に授業を行いますので、ドイツ語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 中国語Ⅱ      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [中国語Ⅱ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 花尻 奈緒子      |             |

### 講義のねらい

中国語Ⅰで学習した文法事項を踏まえ、簡単なリスニングと会話のトレーニングを行う。語彙や表現を増やし、中国語の背景にある文化や社会についても学ぶ。

### 授業計画

|     |               |      |               |
|-----|---------------|------|---------------|
| 第1回 | ガイダンス         | 第16回 | 第八課 航空券の予約1   |
| 2回  | 第一課 基礎発音1     | 17回  | 第八課 航空券の予約2   |
| 3回  | 第一課 基礎発音2     | 18回  | 第九課 定期便の遅延1   |
| 4回  | 第二課 基礎発音3     | 19回  | 第九課 定期便の遅延2   |
| 5回  | 第二課 基礎発音4     | 20回  | 第十課 虎の威を借る狐1  |
| 6回  | 第三課 基礎発音5     | 21回  | 第十課 虎の威を借る狐2  |
| 7回  | 第三課 基礎発音6     | 22回  | 第十課 虎の威を借る狐3  |
| 8回  | 第四課 あいさつ1     | 23回  | 第十一課 ウサギとカメ1  |
| 9回  | 第四課 あいさつ2     | 24回  | 第十一課 ウサギとカメ2  |
| 10回 | 第五課 自己紹介1     | 25回  | 第十二課 運転できますか1 |
| 11回 | 第五課 自己紹介2     | 26回  | 第十二課 運転できますか2 |
| 12回 | 第六課 日本の春はどう？1 | 27回  | 第十三課 何をしてるの？1 |
| 13回 | 第六課 日本の春はどう？2 | 28回  | 第十三課 何をしてるの？2 |
| 14回 | 第七課 ご飯は食べた？1  | 29回  | 第十四課 差不多先生1   |
| 15回 | 第七課 ご飯は食べた？2  | 30回  | 第十四課 差不多先生2   |

### 教材・テキスト・参考文献等

「パイロットテキスト—中国語のことばと文化—」

### 成績評価方法

出席および前・後期の期末試験

### その他

予習復習を欠かさず行うこと。中国語Ⅰとセット履修も可能です。

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 地域史    | 単位数  | : 2    |
| マークシート略 | : [地域史]  | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 鈴木 えりも |      |        |

#### 講義のねらい

- ① 三重地域の近世・近代の歴史を学ぶために必要な基礎知識を身につける
- ② 三重地域が近世・近代にどのような特徴を持つ地域であったのか考える
- ③ 史料を基礎としてそこから何が読みとれるのかを学び考える
- ④ 自分の育った地域の歴史に関心を持つ
- ⑤ 文献に基づいて自分の考えをまとめる方法を身につける

#### 授業計画

- 第1回 講義の進め方、時代の区切り
- 第2回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 1
- 第3回 近世概略(近世という時代の基礎知識) 2
- 第4回 三重地域の諸蕃
- 第5回 海運と河村瑞賢
- 第6回 近世の三重地域周辺の物流と伊勢商人の活躍
- 第7回 三重地域の村と町
- 第8回 三重地域の街道と宿場
- 第9回 伊勢神宮の近世とおかげまいり
- 第10回 近世の人々の暮し
- 第11回 近代のはじまり
- 第12回 三重地域の地租改正
- 第13回 三重地域の一揆
- 第14回 三重地域の自由民権運動
- 第15回 三重地域の災害

受講生の希望する事柄を取入れた講義を1回は行い、希望内容によって上記の適当な回と差替える。また学生の理解程度によって回数を増やしたり、講義の順序を入換えることもある

#### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は使用しない。講義中に配布するプリントに即して講義を行う  
参考文献は講義中に取上げた内容に即して紹介する

#### 成績評価方法

レポートによって評価する。課題及び評価基準は講義中に随時伝達する  
出欠はとるが、評価の参考とするにとどめる

#### その他

レポートの書き方・評価基準について、聞きのがす学生が多い。講義を欠席した場合は講義内容を出席者に確認するなど、各自注意を怠らないこと  
欠席した場合、講義中に配布した資料を入手することを怠らない  
講義に取入れてほしい内容、理解できなかった点等を発言するなどの積極性を望む

|         |          |      |       |
|---------|----------|------|-------|
| 講義科目    | :自治体行政特論 | 単位数  | :2    |
| マークシート略 | :〔自治行政〕  | 学習形態 | :選択科目 |
| 担当      | :小野寺 一成  |      |       |

### 講義のねらい

この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定している。

法経科では行政法、行政学、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目があるが、それらとあわせて受講することにより、現在の地方行財政に対する理解が深まることを期待している。

生活科学専攻では、地域政策論、地域福祉論Ⅰ、地域福祉論Ⅱ、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があるが、それらとあわせて受講することにより、現在の地方行政に対する理解が深まることを期待している。

特に公務員を志望する学生には、行政の現場で何が行われているのかを理解する格好の機会となると思われる。

### 授業計画(予定 順番は変更されます)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 津市の政策について(政策財務部政策課)
- 第3回 津市の教育について(教育委員会事務局)
- 第4回 文化・スポーツについて(スポーツ文化振興部)
- 第5回 産業振興(商工業/観光)について(商工観光部)
- 第6回 産業振興(農林水産業)について(農林水産部)
- 第7回 都市計画について(都市計画部)
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 津市議会見学
- 第10回 財政について(政策財務部財政課)
- 第11回 環境行政について(環境部)
- 第12回 津市の福祉について(健康福祉部)
- 第13回 参加と協働のまちづくりについて(市民部)
- 第14回 自治体経営(市長)
- 第15回 最終まとめ

- 毎回の講義を聞いて、その概要、感想などをまとめた「講義ノート」を提出する。
- 6月津市議会を傍聴し、レポートを提出する。

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書・参考文献等の指定はない。毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。

### 成績評価方法

- ・出席状況、講義ノートの提出状況、議会傍聴レポートなどを総合して評価する。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

|         |            |      |        |
|---------|------------|------|--------|
| 講義科目    | : 農林体験セミナー | 単位数  | : 2    |
| マークシート略 | : [農林体験]   | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 石原 洋介    |      |        |

この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を通じ、自然環境や農林業に対する理解を深めることを目的にしています。

①農場コースと、②演習林コースの2つのコースを設けます。6月に募集を行い、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。なお、食費として実費が必要です。

(1) 農場コース 【土は生きている】 8月下旬実施予定

**講義のねらい**

- 土と食料生産の関係について地域特産物を素材にして包括的な理解を深めるための技術的経験を積む。

**授業計画**

- 生物資源学部付設農場で2泊3日にわたって講義、実習、体験学習を行います。  
(第1日目) 第1回 授業の概要説明／第2回 地域特産農産物の概要／第3回 サイズの栽培管理／第4回 世界と日本の食料事情 (ナイトセミナー)  
(第2日目) 第5回 イネの収穫／第6回 肉牛の肥育管理／第7回 豆腐作り／第8回 食の安全・安心と社会 (ナイトセミナー)  
(第3日目) 第9回 茶の加工／第10回 温州ミカンの栽培管理／第11回 うどん作り／第12回 授業の総括

**成績評価方法**

- レポート70% 実習態度20% 出席10%の評価を総合判断する。

(2) 演習林コース 【森は生きている】 9月上旬実施予定

**講義のねらい**

森林で安全に行動するための基本を学び、また、演習林の役割や自然状態が維持されている現場で山地・森林・溪流の意義を理解する。また、林業の実際と林産加工の実践を学ぶ。

**授業計画**

- 生物資源学部付設演習林で2泊3日にわたって講義、実習、体験学習を行います。  
(第1日目) 演習林の概要解説、諸注意事項／森林の多面的機能について林内学習／天然生林・二次林の植生観察／人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学  
(第2日目) 映画WOODJOB!ロケ撮影と日本の森林・林業の課題学習／林業体験：人工林での小径木間伐／林産加工実習：コースター加工または丸太ベンチ製作／BBQ：野外活動＋木質資源のエネルギー活用と環境について学ぶ！／野生動物の被害観察  
(第3日目) 環境学習：涼しい溪流環境散策とふりかえり学習／レポート作成／WOODJOB!ロケ地、御神木、木材市場などを経由し帰学

**成績評価方法**

- レポート、学習態度、出席などを総合的に評価する。

|                   |             |
|-------------------|-------------|
| 講義科目 : キャリア形成セミナー | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [キャリア]  | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 村井 美代子       |             |

#### 講義のねらい

- ・自分のこれからの人生をいかにとらえ、いかに生きていくのかを考えます。
- ・「自分を知る」ことから始め、「社会を知る」ことへとつなぎます。
- ・職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。
- ・本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます。（講師は毎回変わります。）
- ・具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。
- ・全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成していきます。
- ・毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることを目指します。
- ・1年生の履修を原則とします。

#### 授業計画

- ・講師の都合などによって前後することがあります。

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 第1回 | キャリアとは何か（ガイダンス）           |
| 2回  | 自分を見つめる（自己分析をキャリア形成にいかそう） |
| 3回  | 働くことの意味                   |
| 4回  | 働くことの意味                   |
| 5回  | 国際協力という仕事                 |
| 6回  | 栄養士の現場で働く                 |
| 7回  | 福祉の現場で働く                  |
| 8回  | 建築士として働く                  |
| 9回  | 企業から求められる人材とは             |
| 10回 | 働くことの意味                   |
| 11回 | 労働者をとりまく環境を知る             |
| 12回 | 人生設計を考える                  |
| 13回 | 地方公務員として働く                |
| 14回 | 地域を知る、地域で生きる              |
| 15回 | まとめ（最終レポート作成）             |

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・各講師より配布されるレジュメ、資料を使用します。

#### 成績評価方法

- ・出席が基本です。出席状況や毎回の小レポート、最終レポートなどの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。
- ・5回以上欠席した場合、評価の対象外とします。

|                    |             |
|--------------------|-------------|
| 講義科目 : 食と観光実践      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [      ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 石原 洋介         |             |

#### 講義のねらい

- ・この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に参加し、三重大生とともに受講することになります。
- ・開講形態は、合宿型（去年は2泊3日）です。全日程に参加することが受講の条件となります。
- ・本講義では、三重県をフィールドとして、「食と観光」をテーマに、現場見学とグループワーク、ディスカッションを実施し、地域課題の発見とそれに対する分析・考察を行います。
- ・今年度の実施内容の詳細は後日掲示にて発表します。
- ・本講義は通常の履修登録とは異なり、6月に履修希望者を募集し、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。

|        |             |      |        |
|--------|-------------|------|--------|
| 講義科目   | : 次世代産業実践   | 単位数  | : 2    |
| マーケット略 | : [       ] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当     | : 石原 洋介     |      |        |

#### 講義のねらい

- この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に参加し、三重大生とともに受講することになります。
- 開講形態は、合宿型（昨年は2泊3日）です。全日程に参加することが受講の条件となります。
- 本講義では、三重県をフィールドとして、「次世代産業」をテーマに現場見学とグループワーク、ディスカッション、実証実験を実施し、地域課題の発見とそれに対する分析・考察を行います。
- 今年度の実施内容の詳細は後日揭示にて発表します。
- 本講義は通常の履修登録とは異なり、6月に履修希望者を募集し、希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。

|         |              |      |        |
|---------|--------------|------|--------|
| 講義科目    | : 日本国憲法      | 単位数  | : 4    |
| マークシート略 | : [日本憲法]     | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 飯島 滋明・専任教員 |      |        |

### 講義のねらい

私たちが日常生活を営む中で憲法の存在を意識することは、ほとんどないといってもよいだろう。例えていうならば、憲法とは、人体にとっての水や空気のようなものなのかもしれない。そして、単にそのことからすれば、私たちが憲法について日常的に意識することがないというのは、ある意味健全な社会にあるということになりそうである。

しかし、果たして本当にそうだろうか。水や空気は汚染されれば、それはその瞬間から人体に悪影響を及ぼし始め、人はそれを早晚身体で知覚することになる。けれども、同じく水や空気にあたるはずの憲法への侵害は、私たちが憲法に無関心である中で、憲法が保障する市民の基本的な人権に対して日常的かつ潜在的に行われている場合も往々にしてありうるのではないだろうか。それについて敏感であるためには、なによりも憲法という法規範が、そもそもどのような本質をもち、どのような内容・構造になっているかを常日頃から理解しておくことが不可欠となる。

この講義では、できるだけ身近な事件や問題を手がかりとして、日本国憲法が私たちの日常生活にどのようにかかわっているのかを検証していくことを目的とする。

### 授業計画

- 第1回 憲法とはなにか
- 第2回 日本国憲法の制定の意義
- 第3回 死刑の是非について
- 第4回 平和主義の意義
- 第5回 平和主義の現実
- 第6回 人権の種類と性質
- 第7回 人権の享有主体
- 第8回 包括的人権
- 第9回 人権の私人間効力
- 第10回 平等について
- 第11回 思想・良心の自由
- 第12回 信教の自由と政教分離①
- 第13回 表現の自由①
- 第14回 表現の自由②
- 第15回 試験

### 後日揭示

- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回
- 第23回
- 第24回
- 第25回
- 第26回
- 第27回
- 第28回
- 第29回
- 第30回

後期（第16回～第30回）  
は未定

### 教材・テキスト・参考文献等

榎澤幸広・奥田喜道編『憲法未来予想図』（現代人文社、2014年）

### 成績評価方法

筆記試験の評価を基本として、その他不定期に実施する小レポートなどを加味しながら総合的に判定する。出席はとらないが、正当な理由なく欠席した際に生じた不利益については、救済の対象としないので注意すること。

### その他

「自由とは、他人を害さないあらゆることをなしうること」（1789年「フランス人権宣言」4条）というのが法の基本です。講義中の私語や携帯電話には厳格に対処します。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 民法 I      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [民法 I] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 川上 生馬       |             |

### 講義のねらい

コンビニでの買い物, マイホーム購入のためのローン, 下宿先を借りる, 結婚するなど, 様々な場面で民法は登場してくる重要な法律です。本講義では, その中でも最も基本的なルールを定めている「民法総則」と所有権など物に関するルールが定められている「物権」について学習します。

これら民法の規定は, 民法を理解するうえでも非常に重要な内容となっていますので, 基本概念をしっかりと理解してもらいます。

さらに, 本講義では具体的な事例を多く取り上げ, どのような場面において民法を活用するのかもあわせて学習してもらうことで, 法的思考能力のトレーニングも行います。

### 授業計画

|     |             |      |             |
|-----|-------------|------|-------------|
| 第1回 | ガイダンス       | 第16回 | 時効①時効とは     |
| 2回  | 権利能力・行為能力   | 17回  | 時効②時効の援用・放棄 |
| 3回  | 法律行為概論      | 18回  | 時効③取得時効     |
| 4回  | 法律行為①意思表示とは | 19回  | 時効④消滅時効     |
| 5回  | 法律行為②心裡留保   | 20回  | 物権とは        |
| 6回  | 法律行為③虚偽表示   | 21回  | 所有権         |
| 7回  | 法律行為④錯誤     | 22回  | 占有権         |
| 8回  | 法律行為⑤詐欺・強迫  | 23回  | 地上権         |
| 9回  | 無効と取消し      | 24回  | その他用益物権     |
| 10回 | 代理①代理とは     | 25回  | 担保物権とは      |
| 11回 | 代理②表見代理     | 26回  | 留置権         |
| 12回 | 代理③表見代理     | 27回  | 抵当権         |
| 13回 | 代理④無権代理     | 28回  | 総復習①        |
| 14回 | 条件・期限       | 29回  | 総復習②        |
| 15回 | 小テスト        | 30回  | 試験          |

### 教材・テキスト・参考文献等

講義中、教科書は使用しない。

参考文献については、初回講義時に紹介する。

六法は必ず持ってくること。

### 成績評価方法

出席20%、小テスト20%、試験60%で評価する。

### その他

授業中は私語厳禁とする。

他の受講生の迷惑になる行為も同様に厳禁とする。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 民法Ⅱ      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [民法Ⅱ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 川上 生馬      |             |

#### 講義のねらい

コンビニでの買い物、マイホーム購入のためのローン、下宿先を借りる、結婚するなど、様々な場面で民法は登場してくる重要な法律です。本講義では、契約に関する基本ルールが定められた債権総論について学習します。

#### 授業計画

|     |         |
|-----|---------|
| 第1回 | ガイダンス   |
| 2回  | 債権とは    |
| 3回  | 債務不履行   |
| 4回  | 弁済、代物弁済 |
| 5回  | 相殺      |
| 6回  | 消滅時効    |
| 7回  | 強制実現    |
| 8回  | 債権者代位権  |
| 9回  | 詐害行為取消権 |
| 10回 | 債権譲渡    |
| 11回 | 債務引受    |
| 12回 | 連帯債務    |
| 13回 | 保証、連帯保証 |
| 14回 | 総復習     |
| 15回 | 試験      |

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中、教科書は使用しない。  
参考文献については、初回講義時に紹介する。  
六法は必ず持ってくること。

#### 成績評価方法

出席30%、試験70%で評価する。

#### その他

授業中は私語厳禁とする。  
他の受講生の迷惑になる行為も同様に厳禁とする。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 家族法      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [家族法] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 伊藤 裕       |             |

### 講義のねらい

家族法（民法親族編、相続編）の規定内容について基本的な知識を得ることが直接のねらいだが、あわせて、夫婦別姓論議や生殖補助医療と親子関係、離婚と子ども、同性婚受容の世界的動向など個別の問題を取り上げ、現代社会における家族法問題の根底にある多様な価値観の交錯ぶりを考察する。

### 授業計画

|      |                  |      |                |
|------|------------------|------|----------------|
| 第1回  | 家族法（親族法）の意義、概要   | 第16回 | 最近の家族法領域の話題    |
| 第2回  | 婚姻の成立 届出婚主義 婚約   | 第17回 | 家族法改正の動向       |
| 第3回  | 婚姻障害 不適齢、再婚禁止    | 第18回 | 夫婦別姓論          |
| 第4回  | 婚姻の効果 夫婦の氏       | 第19回 | 婚姻制度論(原史)／同性婚等 |
| 第5回  | 子の氏 / 氏と戸籍       | 第20回 | 婚姻障害(禁婚規制)     |
| 第6回  | 離婚 離婚の種類と手続      | 第21回 | 養子法 普通養子       |
| 第7回  | 法定離婚原因 別居離婚条項    | 第22回 | 特別養子 里親・赤ちゃん養子 |
| 第8回  | 家事事件手続法 / 家族法資料  | 第23回 | 相続法総論          |
| 第9回  | 離婚の効果 親権と監護権     | 第24回 | 相続人の範囲と順位、相続分  |
| 第10回 | 離婚と子ども ハーグ条約     | 第25回 | 特別受益と寄与分       |
| 第11回 | 離婚と子ども 養育費、面会交流  | 第26回 | 相続の承認・放棄、欠格・廃除 |
| 第12回 | 親子法 法的親子関係の成立    | 第27回 | 遺言制度 遺言の種類、効力  |
| 第13回 | 嫡出否認と認知 / 300日問題 | 第28回 | 相続・遺言の実際と問題点   |
| 第14回 | 血縁と法的親子関係 生殖補助   | 第29回 | 相続と登記 相続税      |
| 第15回 | 前期総括 補遺 【試験】     | 第30回 | 総括 補遺 【試験】     |

### 教材・テキスト・参考文献等

千藤・床谷ほか『プリメール民法5 家族法』（最新版）法律文化社 2,500円＋税  
ISBN 978-4-589-03595-0

### 成績評価方法

各期末に記述式の試験またはレポートを実施する。正確な基礎知識を前提に、どのような問題意識をもって家族法問題に考察を巡らせたかを見せてもらう。評価基準は試験結果が100%。出席状況は加減材料として考慮する。

### その他

昨今、生殖補助医療や性別変更と法的親子関係の問題、同性婚容認国の拡大、国際離婚と子の奪取の問題などが社会的関心を呼んでいる。無戸籍者問題も根源的解決が求められている。こうしたトピックスに日頃から関心を持ち、その動向を注視してほしい。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 商法 I      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [商法 I] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 名島 利喜       |             |

### 講義のねらい

会社、とりわけ株式会社は実は私たちの身近に存在している。それなのに、株式会社に関する法律＝株式会社法はほとんど知られていないのが実情ではないだろうか。しかしながら、ある意味では、これから社会に出る人たちにとって、株式会社法に関する知識は不可欠である。なぜなら、私たちの大多数は株式会社に労働の場を求め、生活手段の大部分を株式会社に依存しているからである。

本講義の主な目的は、そのような株式会社法の基本的な骨格と機能について理解してもらうことである。

### 授業計画

- 第1回 会社の意義・性質・種類
- 第2回 会社法の意義・法源・変遷
- 第3回 株式会社の意義と特質
- 第4回 株式会社の設立手続
- 第5回 株式の意義・内容・種類
- 第6回 株主総会
- 第7回 取締役・取締役会
- 第8回 代表取締役
- 第9回 監査役・監査役会
- 第10回 会計参与・会計監査人
- 第11回 株式会社の資金調達
- 第12回 会計帳簿・計算書類
- 第13回 資本金と準備金、剰余金の配当
- 第14回 組織再編、組織変更
- 第15回 まとめと確認

### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：特に指定しない（講義中に紹介する）

教材：最新版の六法（小型のものでよい）

### 成績評価方法

出席 5 %、中間小テスト 35 %、筆記試験 60 %

### その他

株式会社法の制度的側面ばかりではなく、日本経済新聞に目を通したりして、わが国の会社経営の実状についても視野を広げてほしい。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 商法Ⅱ      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [商法Ⅱ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 楠井 嘉行      |             |

### 講義のねらい

手形・小切手のしくみとその経済的機能等、銀行預金、貸付け、担保等や銀行取引実務や株式の取扱い実務を中心に学習する。銀行取引約定書、手形・小切手の見本、当座勘定規定を用いて平易に解説したい。金融取引実務に関するビデオ等を見て、知識をより深いものにする。金融機関、証券会社、手形交換所を見学して現実の実務の実体を学習する。

### 授業計画

手形・小切手がどのような目的で用いられているのか、銀行取引約定、当座勘定・融資等を学習しつつ、銀行取引の具体的な実務を学習する。金融機関や手形交換所、証券会社の実務の見学も行い、金融機関等が社会的にどのような働きをしているかを知る。

財産法、商法Ⅰ等の未修者でも分かるように平易な解説に心がけたい。

|     |               |      |          |
|-----|---------------|------|----------|
| 第1回 | 銀行の仕事         | 第9回  | 証券会社の見学  |
| 第2回 | 預金業務          | 第10回 | 貸付け、信用調査 |
| 第3回 | 銀行取引約定        | 第11回 | 為替、付随業務  |
| 第4回 | 金融機関の個人情報保護   | 第12回 | 金融機関の見学  |
| 第5回 | 手形・小切手の経済的機能  | 第13回 | 手形交換所の見学 |
| 第6回 | 手形・小切手の振出し、裏書 | 第14回 | 取引先の倒産   |
| 第7回 | 手形交換          | 第15回 | まとめ      |
| 第8回 | 株式について        |      |          |

### 教材・テキスト・参考文献等

- ① 川田悦男監修・著「金融法務読本 第27版」（一般社団法人金融財政事情研究会）
- ② 加藤浩康著「わかりやすい銀行業務 全訂5版」（一般社団法人金融財政事情研究会）
- ③ 橋本勇監修・自治体債権研究会「自治体の債権回収」（公職研）

①をテキストとして使用する。②、③は参考文献として参照されたい。

### 成績評価方法

レポートによる評価の予定。単位の心配をせずに授業をよく聞いて学習されたい。

### その他

金融機関、証券会社、手形交換所の見学のほか、実務に関連したビデオもできるだけ多数見ていただく予定である。社会人となって有用と思われる金融取引実務を身につけてほしい。

|         |        |      |        |
|---------|--------|------|--------|
| 講義科目    | : 刑法   | 単位数  | : 4    |
| マークシート略 | : [刑法] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 楠本 孝 |      |        |

### 講義のねらい

刑法は、国家に刑罰権を付与する法であると同時に、国家刑罰権の限界を明確にすることによって、市民の権利を保障する法でもある。本講は、刑法の基本原則を理解し、それを踏まえて、マスコミ等でセンセーショナルに取り上げられる刑法現象を批判的に論評する目を養うことを目的とする。

近代刑法は、アンシャン・レジームの過酷な刑罰制度を克服するため、国家の刑罰権を抑制し、市民の人権を保障する諸原則を発達させてきた。ところが現代刑法は、この近代刑法の諸原則を修正して「現代社会のニーズ」に合わせる動きを見せている。この近代刑法原則の現代的変容とはどのようなもので、それは我々の社会にとってどのような意味を持っているのかを考えたい。

### 授業計画

|    |              |    |             |
|----|--------------|----|-------------|
| 1  | 刑法と刑法学       | 2  | 刑罰論①        |
| 3  | 刑罰論②         | 4  | 犯罪論の基本原則    |
| 5  | 罪刑法定主義①      | 6  | 罪刑法定主義②     |
| 7  | 罪刑法定主義③      | 8  | 罪刑法定主義④     |
| 9  | 犯罪の定義と犯罪論の体系 | 10 | 行為と構成要件     |
| 11 | 故意           | 12 | 過失          |
| 13 | 錯誤           | 14 | 結果的加重犯      |
| 15 | 因果関係論        | 16 | 不作為犯        |
| 17 | 違法阻却事由       | 18 | 可罰的違法性      |
| 19 | 被害者の承諾／安楽死   | 20 | 正当防衛と緊急避難   |
| 21 | 正当防衛の不処罰根拠   | 22 | 緊急避難の不処罰根拠  |
| 23 | 責任／期待可能性     | 24 | 違法性の意識の可能性  |
| 25 | 責任能力         | 26 | 原因において自由な行為 |
| 27 | 未遂①－実行の着手    | 28 | 未遂②－不能犯／中止犯 |
| 29 | 共犯①－共犯の従属性   | 30 | 共犯②－共謀共同正犯  |

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書：教科書は特に指定しない。ただし、六法は必携。

参考書として楠本孝『刑法解釈の方法と実践』（現代人文社）

また、毎回資料を配布するので、その整理を怠らないこと。

### 成績評価方法

最後の講義日に試験をし、その成績をベースに判断するが、小レポート（2回程度）の内容を加味して判断する。試験の成績80%、小レポート20%。

小レポートを出席チェックと誤解しないように。出席の確認はしない。レポートを提出しても、内容の無いものは評価しない。

再試験は行わない。

### その他

「刑事政策」も受講することが望ましい。刑罰論の詳細や少年法などの解説は「刑事政策」で行います。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 行政法      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [行政法] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 藤枝 律子      |             |

### 講義のねらい

社会保障、道路交通、ガス・水道・電気などの生活手段の整備や運営・管理にとどまらず、環境保全、消費者保護など様々な分野における公共的な仕事が、国や地方自治体によって担われている。現代社会に生きる我々にとって、行政は不可欠な存在である。しかしながら、一方では、「官から民へ」と民間化が声高に叫ばれており、改めて行政の役割とは何かが問われるようになってきている。本講義では、こうした現代的状況を視野に入れつつ、多くの判例に目を通しながら行政とは何か、行政法とは何かを考えていきたい。

### 授業計画

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1. 現代行政と行政法 | 16. 行政行為③          |
| 2. 行政法の概念   | 17. 行政行為④          |
| 3. 法治主義     | 18. 行政行為⑤          |
| 4. 行政法の法源   | 19. 行政行為⑥          |
| 5. 行政法の諸原則  | 20. 行政行為⑦          |
| 6. 行政計画①    | 21. 行政指導①          |
| 7. 行政計画②    | 22. 行政指導②          |
| 8. 行政計画③    | 23. 行政の実効性を確保する手段① |
| 9. 行政計画④    | 24. 行政の実効性を確保する手段② |
| 10. 行政準則①   | 25. 行政の実効性を確保する手段③ |
| 11. 行政準則②   | 26. 行政救済①          |
| 12. 行政準則③   | 27. 行政救済②          |
| 13. 行政準則④   | 28. 行政救済③          |
| 14. 行政行為①   | 29. まとめと確認①        |
| 15. 行政行為②   | 30. まとめと確認②        |

(ただし、進行状況等により変更する場合があります。)

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書、参考文献等は、初回講義時に提示をする。
- ・講義時に、レジュメ、資料を配布する。
- ・『ポケット六法』等コンパクトなものでよいので六法を持ってくること。

### 成績評価方法

- ・記述式の確認テスト70%、および平常点30%で評価する。

### その他

- ・憲法とあわせての受講計画が望ましい。

|        |          |      |        |
|--------|----------|------|--------|
| 講義科目   | : 労働法    | 単位数  | : 4    |
| マーケット略 | : [労働法]  | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当     | : 川崎 航史郎 |      |        |

### 講義のねらい

近年、「ワーキング・プア」「長時間労働による過労死・過労自殺」「パワハラ・セクハラ」など労働問題が社会の注目を集めています。厳しい労働状況の中、学生諸君は働くことを余儀なくされています。しかし、働く労働者に対してまっとうな労働条件を保障することは国・企業の義務・責任です。戦後の日本社会は、憲法で「個人の尊重・幸福追求の権利」(憲法13条)を謳い、さらに「人間らしい生活を営む権利」(憲法25条1項)を保障しました。労働法はこれらの憲法の規定を受け、労働者が働く時に守られるべきルール(憲法27条2項)を定めました。労働法を勉強することは、働くときに人間らしい生活を送るための力となります。本講義は、労働法の基本的仕組みを解説し、必要となる知識と、法的な解決方法を身につけることを目指します。また、講義は、リアクションペーパーを用いて①予習②予習個所の講義③講義中に2・3の課題を示し、回答を記入する(その際、グループディスカッションを行う場合もある)④質問や感想、復習なども記入、⑤次週以降に講師から回答を行う、という流れで行います。教科書の予習とまとめがほぼ毎週あります。

### 授業計画

|     |                   |      |              |
|-----|-------------------|------|--------------|
| 第1回 | 労働法の仕組みと履行確保      | 第16回 | 健康・安全衛生      |
| 2回  | 雇用の成立①労働者・使用者とは誰か | 17回  | 労働災害への補償     |
| 3回  | 雇用の成立②採用過程        | 18回  | 非正規労働①有期契約   |
| 4回  | 労働契約の権利義務         | 19回  | 非正規労働②パート労働  |
| 5回  | 懲戒制度              | 20回  | 非正規労働③派遣労働   |
| 6回  | 労働条件の決定①労使対等決定原則  | 21回  | 雇用確保策と職業能力形成 |
| 7回  | 労働条件の決定②就業規則      | 22回  | 労働組合         |
| 8回  | 労働条件の変更①合意変更      | 23回  | 組合活動         |
| 9回  | 労働条件の変更②就業規則      | 24回  | 不当労働行為①意義    |
| 10回 | 雇用の終了             | 25回  | 不当労働行為②救済    |
| 11回 | 賃金                | 26回  | 団体交渉         |
| 12回 | 労働時間規制と休息①        | 27回  | 労働協約         |
| 13回 | 労働時間規制と休息②        | 28回  | 争議行為         |
| 14回 | 職業生活と私生活保障        | 29回  | 労働法の課題       |
| 15回 | 雇用差別の禁止           | 30回  | 試験           |

### 教材・テキスト・参考文献等

講義の最初に指示します。

### 成績評価方法

筆記試験70%、コメントペーパーへの記述内容30%。

### その他

積極的に授業参加ができるように、予習をすることが重要です。「社会保障法」「人的資源管理論」「社会福祉論」なども受講することが望ましいです。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 民事訴訟法     | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [民事訴訟] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 伊賀 恵        |             |

#### 【講義のねらい】

民事裁判の手續と実務についての理解を深めます。

民事裁判というと堅苦しく聞こえますが、実は皆さんの身近に民事紛争はあり、民事訴訟法は、民事紛争を解決する手續きです。

例えば、お金をかしたけれど返してくれない、交通事故に遭ったから治療費を支払ってほしい、おじいさんが亡くなったので相続をする必要があるが親族間でもめている、就職先がブラック企業で残業代を支払ってくれない、就職したけれど勤務先が倒産したなど様々な民事紛争はいつでも起こりえます。

民事訴訟法は、そのような民事紛争を、どこで、どのように、解決するかが定められているのです。民事訴訟法を知るのは、日常生活ではもちろん、将来就職したときにも役立つと思います。

私は弁護士ですので、民事訴訟法の体系的な知識だけではなく、生の事件を肌で感じられるよう、私の経験談をご紹介しますり、法廷や施設の見学もしたいと思います。

#### 【授業計画】

以下の予定で進めていきますが、進行度に合わせて大きく変更することがあります。法廷見学や施設見学は、裁判所や施設の都合により、順番が前後する可能性があります。

- |      |                               |
|------|-------------------------------|
| 第1回  | 民事裁判とは何か、刑事裁判との違い、裁判官、弁護士等の役割 |
| 第2回  | D V D 視聴                      |
| 第3回  | 民事訴訟制度の基本理念                   |
| 第4回  | 管轄、除斥、忌避                      |
| 第5回  | 訴えの提起                         |
| 第6回  | 訴訟物論                          |
| 第7回  | 処分権主義                         |
| 第8回  | 一部請求                          |
| 第9回  | 当事者                           |
| 第10回 | 訴訟能力                          |
| 第11回 | 訴えの利益                         |
| 第12回 | 口頭弁論                          |
| 第13回 | 弁論主義                          |
| 第14回 | 証拠                            |
| 第15回 | 立証                            |
| 第16回 | 自由心証主義                        |
| 第17回 | 証明責任                          |
| 第18回 | 証拠調べ                          |
| 第19回 | 判決                            |
| 第20回 | 判決によらない訴訟の終了                  |
| 第21回 | 請求の客観的複数                      |
| 第22回 | 請求の主観的複数                      |
| 第23回 | 上訴、家庭裁判所での手續、簡易裁判所での手續        |
| 第24回 | 法律相談、内容証明郵便、公正証書              |
| 第25回 | 法廷見学①                         |
| 第26回 | 法廷見学②                         |
| 第27回 | 施設見学①                         |
| 第28回 | 施設見学②                         |
| 第29回 | テスト                           |
| 第30回 | テストの講評                        |

#### 【教材・テキスト・参考文献等】

教科書は使用しません。参考文献は適宜紹介します。六法必携です。

#### 【成績評価方法】

出席を毎回とります。法廷見学や施設見学の出席もとります。また、法廷見学や施設見学の現地までの交通費(津地方裁判所や津市内の施設を予定しています)は各自負担となります。

成績については、出席50%、期末テスト50%とします。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 刑事訴訟法     | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [刑事訴訟] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 加藤 拓也       |             |

### 講義のねらい

刑事手続きの概略や流れを理解するとともに、裁判員制度により一般市民がプロの裁判官と一緒に刑事裁判に参加し、個々の事件について判断している現状等を踏まえ、具体的な事件について法律的な観点から問題点を発見し、考察できる力を身につけることを目指します。また、法律論だけではなく、刑事手続きが実務上どのように運用されているかも知っていただくことにより、多角的な観点から刑事手続きのあり方を考察できる力を身につけることも目指します。

### 授業計画

|      |                |      |             |
|------|----------------|------|-------------|
| 第1回  | オリエンテーション      | 第16回 | 刑事裁判の概略     |
| 第2回  | 刑事事件に関わる人とその役割 | 第17回 | 刑事裁判の基本原則   |
| 第3回  | ビデオ視聴と解説（前半）   | 第18回 | 刑事裁判の審判対象   |
| 第4回  | ビデオ視聴と解説（後半）   | 第19回 | 証拠物・科学的証拠   |
| 第5回  | 強制捜査と任意捜査      | 第20回 | 自白の取り扱い     |
| 第6回  | 捜査の始まり         | 第21回 | 供述調書の取り扱い   |
| 第7回  | 証拠物を収集する捜査     | 第22回 | 違法に収集された証拠  |
| 第8回  | 新しい捜査方法        | 第23回 | 適正な事実認定     |
| 第9回  | 被疑者の身柄拘束       | 第24回 | 判決・上訴・再審    |
| 第10回 | 被疑者の取調べ        | 第25回 | 裁判員裁判       |
| 第11回 | 被疑者の防御権        | 第26回 | 少年法との違い     |
| 第12回 | 捜査の終結          | 第27回 | 犯罪被害者保護     |
| 第13回 | 筆記試験           | 第28回 | 筆記試験        |
| 第14回 | 捜査弁護の実務        | 第29回 | 有罪判決後の処遇と更生 |
| 第15回 | 筆記試験の解説        | 第30回 | 筆記試験の解説     |

### 教材・テキスト・参考文献等

授業ごとにレジュメを配布します。教科書は特に指定しませんが、「刑事訴訟法判例百選（第10版）」（有斐閣）、「ケースブック刑事訴訟法（第4版）」（有斐閣）等の判例集を読むことをお勧めします。

なお、授業には必ず六法を持参してください。

### 成績評価方法

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| 出席点（不定期に実施する小テストやレポート課題の結果を含む） | 50% |
| 筆記試験（年2回）                      | 50% |

第2回講義以降は出欠をとり、10回以上欠席があった場合には、成績評価は不可とします。また、質問は随時受け付けます。優れた視点・考察に基づく質問は、出席点に加味して評価します。

### その他

期末試験（第13回・第28回予定）については採点をした上で返却し、各期の最後の授業（15回・30回）で講評を行います。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 政治学原論    | 単位数 : 4     |
| マージット略 : [政治原論] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 長澤 高明      |             |

### 講義のねらい

現代政治を理解するための基礎概念と考え方の習得を目標とする。時事問題を講義冒頭に取り上げて解説する。政治は苦手だという人も、この講義を受ければ興味が湧いてくるはずである。

### 授業計画

テキストの項目に沿って解説する。その際、テキストを補足する資料やレジュメを配付する。下記の各項目はおおむね講義二回分に相当する。

|     |              |
|-----|--------------|
| 第1回 | 日本の政治文化      |
| 2回  | アメリカに従属する日本1 |
| 3回  | アメリカに従属する日本2 |
| 4回  | 経済と政治の関係     |
| 5回  | 戦後内閣史1       |
| 6回  | 戦後内閣史2       |
| 7回  | 国家とは何か       |
| 8回  | 議会主義の歴史      |
| 9回  | 日本の選挙制度1     |
| 10回 | 日本の選挙と投票分析   |
| 11回 | 政党とはなにか      |
| 12回 | 戦後政党史        |
| 13回 | 市民運動とはなにか    |
| 14回 | メディアと政治      |
| 15回 | レポート作成       |

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは長澤高明『入門 現代日本の政治』（学習の友社）

### 成績評価方法

出席を重視する（30％）。小テストを2回実施する（20％）。レポートの提出を義務付ける（50％）。これらを総合して成績評価とする。

レポート：諸君がテーマを自由に設定し、調べたことに対する自分の見解を書く。A4横書き。4000字。

### その他

新聞の政治欄を読む習慣をつけておくこと。『現代用語の基礎知識』などの用語辞典を読む習慣をつけておくこと。

|         |         |      |        |
|---------|---------|------|--------|
| 講義科目    | : 行政学   | 単位数  | : 4    |
| マークシート略 | : [行政学] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 立石 芳夫 |      |        |

### 講義のねらい

少子高齢社会に対応するための安定した社会保障制度改革、財政危機に端を発する税財政改革、東日本の震災復興など、今日、日本の政治行政課題は山積している。

一般的にあって、現代社会ではさまざまな新しい社会問題が噴出してくるが、政府はそのなかから解決すべき行政課題を選択し、政策的に対応していくことになる。しかし、政府がさまざまな問題に関与すればするほど、行政制度や政策体系がいつそう複雑なものになり、その影響力も増大していく。そうなれば、一般の人びとがそれをコントロールできる余地は次第に縮小していく。

このように、巨大化・複雑化した現代行政の制度や仕組みを理解するうえで、行政学の学習は重要な水先案内人の役を引き受けてくれることになるだろう。なぜなら、行政とはさしあたり政府の活動を意味するが、行政学は、この政府の機構・組織とその活動について考察する学門だからである。いうまでもなく、行政の活動は、よかれ悪しかれ国民・市民の日常生活に大きな影響を及ぼす。それゆえ、行政について学習することは、現代人にとって「必須の教養」であるといってもいいだろう。

### 授業計画

下記の教科書とレジュメにそって講義を進める。テーマは、以下を予定。

- 1 講義の概要説明および序
- 2～9 福祉国家
- 10～15 行政国家、官僚制論
- 16～17 日本の政治行政制度の戦前と戦後
- 18～19 日本の議院内閣制における制度と実態
- 20～23 中央省庁とその再編
- 24～27 公務員制度とその改革
- 28～29 法案・予算の作成過程、まとめ
- 30 試験

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストとして、新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』岩波ジュニア新書、2008年。初回の講義から使用する。

### 成績評価方法

試験で評価する。出欠はとらない。

### その他

- \* 政治行政のリアルな展開に関する主要情報は、日々ニュース報道で伝えられている。日頃からとくに新聞購読を心がけてほしい。
- \* 本講義とあわせて、他の政治学関連の科目（政治学原論・地方政治論・政治史・政治思想史）の履修を勧めたい。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 社会福祉論     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [社会福祉] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 長友 薫輝       |             |

### 講義のねらい

社会福祉の理念とその進展、概念の理解を通じて、社会福祉の役割について十分に理解させることを目的とする。さらに、実際に援助者として社会福祉の対象と援助、援助形態についての基本的理解を求める。また、社会福祉の取り組むべき対象とする課題は何か、その課題に対してどのような援助が存在するのかといったことについて理解させる。

### 授業計画

- 1) 社会福祉とは その 1
- 2) 社会福祉とは その 2
- 3) 社会福祉の理念とその進展 (人権の尊重、権利擁護、自立支援など) その 1
- 4) 社会福祉の理念とその進展 (人権の尊重、権利擁護、自立支援など) その 2
- 5) 社会福祉の概念 その 1
- 6) 社会福祉の概念 その 2
- 7) 社会福祉の範囲
- 8) 社会福祉の意義、役割 その 1
- 9) 社会福祉の意義、役割 その 2
- 10) 社会福祉の対象 その 1
- 11) 社会福祉の対象 その 2
- 12) 社会福祉の援助 その 1
- 13) 社会福祉の援助 その 2
- 14) 社会福祉の援助形態
- 15) 社会福祉の方法

\*なお、受講生の状況などによって内容を変更する可能性がある。

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書：追って指示する。

上記以外の参考文献や資料は必要に応じて、講義時に指示または配付する。

### 成績評価方法

①毎回の講義時の小レポート、②小テスト (2回程度)、③筆記試験を総合的に評価する。

### その他

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 法学基礎演習 | 単位数  | : 2    |
| マークシート略 | : [法基礎演] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 川崎 航史郎 |      |        |

### 講義のねらい

法学基礎演習では、2年次からの演習の準備として、労働や社会保障の実態を理解し、問題の把握をすることを目指します。指定した教材に掲載されているテーマを中心に、各参加者が自由に選択した課題を取り上げ4人ほどのグループに分かれて報告を行います。報告者以外は、報告への事前学習と積極的な意見提供を行うことが求められます。報告者はテーマに関連する資料を収集し、綿密な報告の準備が必要です。資料収集の方法や、報告の仕方については演習の最初に指示します。報告は大きなテーマ設定はしますが、内容は関心があることに取り組んでもらって大丈夫です。

### 授業計画

労働問題や社会保障の実態について、初めに数回新聞記事を素材に情報提供を行い、その後、報告の仕方(資料収集、レジメの作成方法など)について講義します。テーマ例は、長時間労働、過労死、サービス残業、非正規労働者保護、ブラックバイトと法律問題、労働組合活動の保護、高齢者・女性・子どもの貧困、障がい者差別、貧困と生活保護、最低賃金、奨学金返済、若者と雇用などがあります。また、去年は津の労働基準監督署や職業安定所、労組への訪問、自主参加で大阪での過労死防止シンポジウムも参加しました(通天閣も登りました)。

### 教材・テキスト・参考文献等

高橋・鷺谷・赤堀・兵頭「図説 労働の論点」(旬報社、2016年)1500円(必ず購入手下さい)。労働法・社会保障法で使用したテキスト。他、適宜指示します。

### 成績評価方法

出席状況、報告準備、報告への事前勉強等、総合的に評価します。

### その他

積極点に準備し、発言することを希望します。「労働法」「社会保障法」は必ず受講し、「社会福祉論」「人的資源管理論」も履修するとよいです。川崎担当の2年演習シラバスも参照。労働と社会保障は問題が山積みで深刻ですので、勉強をしたい!という方の受講を待っています。

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 法学基礎演習 | 単位数  | : 2    |
| マークシート略 | : [法基礎演] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 楠本 孝   |      |        |

#### 講義のねらい

テーマ：犯罪と刑罰に関する基本問題を掘り下げて理解する

概要：

刑法の講義で勉強した犯罪と刑罰についての基本問題を掘り下げて考える。講義で扱いきれなかった刑法学の争点について検討するとともに、刑事訴訟法や少年法など隣接する分野の知識を含めて、刑法を体系的に理解することをめざす。

#### 授業計画

ゼミ員は、担当する論文・判例を読み、レポートにまとめ、ゼミで報告する。その報告について、ゼミ員全員で討論する。

#### 教材・テキスト・参考文献等

演習時において指示する。

#### 成績評価方法

ゼミへの貢献度を総合的に評価する。

#### その他

「刑法」及び「刑事政策」を受講すること。

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 法学基礎演習 | 単位数  | : 2    |
| マークシート略 | : [法基礎演] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 川上 生馬  |      |        |

### 講義のねらい

本講義では、民法に関する具体例を検討することで、問題を理解する力をはじめとする法的思考能力をみにつけることを目的としたい。判例を読むことは法学の学習全般において重要であり、また、教科書の要約も重要な点を抽出するという意味で重要な作業である。それらをもとに議論することで、より深く民法を理解したい。

### 授業計画

判例考察を中心に講義を進めたい。具体的には、基礎知識の確認、事案と判旨の確認、議論という流れで進めていきたいと考えている。ただし、教科書輪読の希望者が多い場合には、毎回、担当箇所をまとめたものを報告してもらい、報告者に対して他の学生から質問をするといった形で進めることも考えている。これらについては、初回講義時に決定したい。

### 教材・テキスト・参考文献等

六法を必ず持ってきてください。

そのほか使用する教材については初回講義時に指定します。

### 成績評価方法

出席、授業に対する姿勢や取り組み度、発表したレポートの内容などを総合的に見て評価をする。

### その他

あらかじめ民法Ⅰを履修していることが望ましい。

2年生時に民法の演習講義を履修することを予定している場合、本講義を履修していることが望ましい。

同様に、民法Ⅱ・Ⅲを履修することが望まれる。

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 刑事政策   | 単位数  | : 2    |
| マークシート略 | : [刑事政策] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 楠本 孝   |      |        |

### 講義のねらい

刑事政策とは、国家が刑罰やこれに類似する諸制度（保安処分や保護処分など）を手段として犯罪に対する闘争を行う場合に依拠すべき諸原則に関する学問である。その射程範囲は広いが、本講では刑事政策の課題を網羅的に扱うのではなく、現在最も重要な課題になっている①死刑存廃論、②少年非行と少年法改正、③精神障害者による犯罪とその対策 ④ストーカーへの対応、に絞って検討したいと思う。

各種の犯罪統計は、わが国の治安が一時期の危険水域を脱し、現在では極めて良好であることを示しているにもかかわらず、各種の世論調査は、国民の多くが依然として「自分も犯罪の被害に遭うのではないか」という不安を抱いているとしている。この「体感治安」の悪化を受けて、政府は「犯罪に強い社会の実現のための行動計画」なるものを策定し、次々と手を打ってきているが、それらは押しなべて、厳罰化と市民生活への規制強化という特色を持っている。本講は、それらの厳罰化や規制強化が、本当に犯罪情勢の改善に繋がるのかという点について、各人が考える材料を提供していきたい。

### 授業計画

- 1 死刑制度の現況
- 2 死刑存廃論
- 3 終身刑導入をめぐる議論の状況
- 4 少年司法手続の概要
- 5 少年法改正①－厳罰化その1
- 6 少年法改正②－厳罰化その2
- 6 少年法改正③－事実認定手続の改正その1
- 7 少年法改正④－事実認定手続の改正その2
- 8 少年法改正⑤－被害者への配慮と修復的司法
- 9 少年法改正⑥－新たな少年法改正の動き
- 10 少年法改正⑦－残された問題・少年の実名報道
- 11 精神障害者の強制入院制度
- 12 触法精神障害者問題
- 13 心神喪失者等医療観察法
- 14 ストーカー規制法①
- 15 ストーカー規制法②

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は特に指定しない。講義の際に毎回資料を配布するので、これを整理して、テキストの代わりとしてほしい。

ただし、六法は必携。初回の授業から持参するように。

### 成績評価方法

最後の講義日に試験をし、その成績をベースに、小レポート（2回程度）の内容を加味して判断する。試験80%、レポート20%。小レポートは出席確認ではない。内容の無いレポートは評価しない。出席状況は成績評価に関係が無い。

再試験は行わない。

### その他

「刑法」を受講していることが前提の授業になります。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 社会保障法     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [社会保障] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 川崎 航史郎      |             |

### 講義のねらい

病気、障害、高齢、失業、育児、介護、労災などは、誰にでも生じ、これらをきっかけに容易に貧困に陥る危険がある。これらの状態に遭遇した場合でも、人間らしい生活を送ることを権利として保障するために、憲法は、生存権を保障した。社会保障法は、憲法25条生存権規定を受け、年金、医療、介護、雇用、労災保険などの社会保険制度や福祉サービス提供の仕組みを整え、生活保障を実現する法分野である。本講義は、人々の社会保障に対する権利構造と国等の社会保障実施・生存権保障義務について理解することを目的とする。

講義は、リアクションペーパーを用いて①予習②予習個所の講義③講義中、2・3の課題を示し、回答を記入する④質問や感想、復習なども記入、⑤次週以降に講師から回答を行う、という流れで行います。教科書の予習とまとめがほぼ毎週あります。

### 授業計画

- 第1回 権利としての社会保障受給の意義
- 第2回 社会保障の成立と発展①イギリス
- 第3回 社会保障の成立と発展②日本
- 第4回 国際化と外国籍の社会保障受給権
- 第5回 社会保障法の保障方法(社会保険、社会福祉、社会手当、公的扶助)
- 第6回 生活保護法①生活保護の実態
- 第7回 生活保護法②生活保護の給付構造
- 第8回 生活保護法③保護の補足性
- 第9回 労災補償①労災への使用者の責任
- 第10回 労災補償法②労災保険の給付内容
- 第11回 医療保障①医療制度と医療保険
- 第12回 医療保障②医療保険の給付内容
- 第13回 所得保障①年金保険の構造
- 第14回 所得保障②年金保険の給付内容
- 第15回 試験

### 教材・テキスト・参考文献等

講義の最初に指示します。

### 成績評価方法

筆記試験70%、ペーパーへの記述内容30%。

### その他

積極的な授業参加ができるように、予習をすることが重要です。「労働法」と「社会福祉論」も受講することが望ましいです。自分自身や家族、友人などが必ず社会保障に関係をしています。その人から生活相談を受けたと想定し、どう答えるべきかを考えながら、講義を受けてください。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 国際法      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [国際法] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 保井 健呉      |             |

### 講義のねらい

国際法は国際社会の秩序を維持することを目的とした法律です。国と国の関係がますます緊密になる今日、国際法の重要性は計り知れません。本講義では、国際社会を規律する国際法の枠組みを学び、国際社会の問題を国際法の観点から見るができるようになることを目指します。

### 授業計画

|     |              |
|-----|--------------|
| 第1回 | 国際法の基礎知識     |
| 2回  | 国際法の主体       |
| 3回  | 国家領域         |
| 4回  | 条約と法源        |
| 5回  | 国際法と国内法の関係   |
| 6回  | 国際法と個人       |
| 7回  | 国家責任         |
| 8回  | 紛争の平和的解決     |
| 9回  | 国家の独立と承認     |
| 10回 | 国際機構の国際法     |
| 11回 | 外交関係の国際法     |
| 12回 | 海洋に関する国際法    |
| 13回 | 国際化地域        |
| 14回 | 紛争の強力的解決     |
| 15回 | まとめと確認（筆記試験） |

### 教材・テキスト・参考文献等

<テキスト>

- ・ 芹田健太郎（編集代表）『コンパクト学習条約集 第2版』信山社、2014年

<参考文献>

- ・ 杉原高嶺・酒井啓亘（編）『国際法基本判例50 第2版』三省堂、2014年

### 成績評価方法

- ・ 期末試験と平常点（出席点及び講義中の小テスト）で評価します。

### その他

- ・ 講義では、時事の国際法に関する問題を取り扱うことがあります。

|         |         |      |        |
|---------|---------|------|--------|
| 講義科目    | : 法哲学   | 単位数  | : 4    |
| マークシート略 | : [法哲学] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 竹村 和也 |      |        |

### 講義のねらい

本講義のねらいは、まずは法哲学・法思想についての基礎的な知識をえることです。さらにこれらの知識を活用して、様々な法現象について考えることも目的となります。法哲学は抽象的な学問であると敬遠されることもありますが、日常生活の問題や社会問題とも密接な関係があり、これらの問題について自分なりの思想を身につけることができれば講義は成功であるといえるでしょう。少なくとも議論の楽しさを理解し、実感してもらえればよいと思っています。

### 授業計画

本講義では、大きな柱として、①法理論、②法思想、③「現代社会の諸問題についての議論」を据えています。①法理論は、「法とは何か」、「正義とは何か」、「裁判官は何をしているのか」を扱います。②法思想は、古代から現近代の代表的思想家の法についての思索を学びます。③「現代社会の諸問題についての議論」では、代理出産・着床前診断・クローン技術などの生命倫理に関する問題や刑事・民法についての最近のトピック、国際社会に関する問題などから、受講者の関心に応じて選んだテーマについて議論したいと思います。

授業は2コマ連続（全体で30回）で行います。以下に具体的な計画を示しておきますが、受講者の関心などにより大幅に変更する可能性があります。

|      |          |                             |
|------|----------|-----------------------------|
| 第1週  | 第1. 2回   | イントロダクション、現代社会の諸問題についての議論①  |
| 第2週  | 第3. 4回   | 法源と自然法、ギリシャの法思想             |
| 第3週  | 第5. 6回   | 現代社会の諸問題についての議論②、自然法と法実証主義① |
| 第4週  | 第7. 8回   | ローマの法思想・ローマ法・大陸法            |
| 第5週  | 第9. 10回  | 自然法と法実証主義①、中世の法思想           |
| 第6週  | 第11. 12回 | 現代社会の諸問題についての議論③、自然法と法実証主義② |
| 第7週  | 第13. 14回 | 司法裁量論①、現代社会の諸問題についての議論④     |
| 第8週  | 第15. 16回 | 裁判官は何をしているのか②、近代自然法論        |
| 第9週  | 第17. 18回 | 正義とは何か①、現代社会の諸問題についての議論⑤    |
| 第10週 | 第19. 20回 | 正義とは何か②、フランス啓蒙思想            |
| 第11週 | 第21. 22回 | 正義とは何か③、ドイツ啓蒙思想             |
| 第12週 | 第23. 24回 | 現代社会の諸問題についての議論⑥            |
| 第13週 | 第25. 26回 | 現代法哲学①、歴史法学と法実証主義           |
| 第14週 | 第27. 28回 | 現代法哲学②、現代社会の諸問題についての議論⑦     |
| 第15週 |          | まとめと確認                      |

### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』ミネルヴァ書房、2007年 参考文献については随時授業で指示します。

### 成績評価方法

平常点・レポート・試験で総合的に評価します。これらの割合は、平常点（出席及び特に授業への積極的な参加）30% レポート 30% 試験 40%

### その他

法哲学を履修する学生に限らず、大学生として当然のことですが、社会で起こっている様々な問題に関心を持つということ、また新聞に目を通すということが必要です。

|        |          |      |        |
|--------|----------|------|--------|
| 講義科目   | : 税法     | 単位数  | : 2    |
| マーケット略 | : [税法]   | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当     | : 今井 富久翁 |      |        |

#### 講義のねらい

①税金とはどういうもので、税金はなぜ必要なのか?といった「税金」の意義について解説し、税に関する知識の習得と理解を深めることを目標とします。

#### 授業計画

- 第1回 租税とは?
- 第2回 租税法の原則
- 第3回 租税法の法源
- 第4回 租税法の解釈
- 第5回 所得税法①
- 第6回 所得税法②
- 第7回 法人税法①
- 第8回 法人税法②
- 第9回 消費税法①
- 第10回 消費税法②
- 第11回 相続税法
- 第12回 地方税法
- 第13回 国際課税
- 第14回 租税手続法
- 第15回 まとめと確認

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義で使用する教材は、レジュメを作成します。

参考文献として、

「租税法」：金子 宏：弘文堂

「税法」法律学全集5：清永 敬次：ミネルヴァ書房

「税金の実務教室」：森下 幹夫：大蔵財務協会

#### 成績評価方法

理解度を筆記試験で判断し、及第点未満の場合は、出席状況や受講態度などを考慮します。

#### その他

わが国の租税制度（＝申告納税制度）が円滑且つ民主的に運営されるために、国民の三大義務の一つである「納税義務」を理解し、税に関する関心を持ってもらえるように講義します。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 消費者法      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [消費者法] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 村田 雄介       |             |

#### 講義のねらい

- ・「消費者」問題が、民法を中心とする一般の法理論によってどのように捉えられているのか、そこには、どのような問題・限界が存在するのかを理解すること。
- ・「消費者」問題が、「消費者法」によってどのように規律されようとしているのか、そこには、どのような基本的考え方があるのかを理解し、「消費者」及び「消費者法」の法的な意義を明らかにすること。
- ・個々の法律や条文の解釈というよりも、「生きた消費者法」と「消費者法の基本原理」を学ぶこと。

#### 授業計画（予定）

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、「消費者法」とは何か          |
| 2回  | 全法体系の中の「消費者法」の位置づけ        |
| 3回  | 一般法としての「民法」と特別法としての「消費者法」 |
| 4回  | 「民法」概説                    |
| 5回  | 消費者契約① 契約理論               |
| 6回  | 消費者契約② 意思表示               |
| 7回  | 消費者契約③ 契約の拘束力からの解放        |
| 8回  | 消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅰ        |
| 9回  | 消費者法① 特定商取引に関する法律Ⅱ        |
| 10回 | 消費者法② 割賦販売法Ⅰ              |
| 11回 | 消費者法② 割賦販売法Ⅱ              |
| 12回 | 消費者法③ 消費者信用               |
| 13回 | 消費者法④ 消費者契約法              |
| 14回 | 消費者法⑤ 製造物責任法              |
| 15回 | 筆記試験                      |

#### 教材・テキスト・参考文献等

レジュメに基づいて講義をする。一般的な文献及び六法については初回の授業で、その他の重要な文献については各回の授業で適宜紹介する。

#### 成績評価方法

平常点（40%）、筆記試験及び課題レポート（60%）

#### その他

- ・民法等につき知識を有していないことを前提に対話をしながら授業を進める。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 地方自治法     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [地方自治] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 安田 理恵       |             |

#### 講義のねらい

日本国憲法は地方自治保障の章を設けている。これは、国の仕組みとは別に地方の仕組みを定めるものであるとともに、国の仕組みにはないそれぞれの地方の特性を生かした仕組みをつくり、それに基づく運用を目指すものである。この趣旨を、憲法92条は地方自治の本旨として述べている。

地方の特性であったり、地方自治の本旨であったりする地方自治の精神は、いかなるものなのだろうか。憲法も地方自治法もこれについて、明確な答えをだしているわけではない。これらの憲法、地方自治法が定める概念は、その時々の解釈、運用によって縮められることもあるし、広げられることもある。

この講義ではこのような地方自治について、その歴史的な変化、現状、そして現在の課題を、法的な視点から検討を試みるものである。

#### 授業計画

|     |                |
|-----|----------------|
| 第1回 | 法原理としての地方自治    |
| 2回  | 地方自治の歴史        |
| 3回  | 地方公共団体の単位      |
| 4回  | 地方公共団体の組織      |
| 5回  | 地方公共団体の住民      |
| 6回  | 地方公共団体の事務      |
| 7回  | 地方公共団体に対する国の関与 |
| 8回  | 自主行政権①         |
| 9回  | 自主行政権②         |
| 10回 | 自主財政権          |
| 11回 | 自治立法権          |
| 12回 | 住民監査請求と住民訴訟    |
| 13回 | 公の施設の管理        |
| 14回 | 地方公務員法         |
| 15回 | まとめ            |

ただし、変更がありうる。

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・初回講義時に提示する

#### 成績評価方法

- ・記述試験70%および平常点30%で評価する。

#### その他

対象：

|              |        |
|--------------|--------|
| 講義科目 : 社会思想史 | 単位数 :  |
| マークシート略 :    | 学習形態 : |
| 担当 :         |        |

#### 講義のねらい

1. この講義は、隔年で「西洋中心の社会思想史」と「日本中心の社会思想史」を交互に特集しています。今年は西洋の社会思想の歴史に注目して学んでいきます。西洋の社会思想の理解を通じて、世界と日本の現代社会のあり方を見直すことを目的としています。近代の歴史に対する理解を深めると同時に、誤解を改めるきっかけとなることでしょう。
2. また、この講義では「貧困からの解放」というサブテーマを設定し、そのテーマに沿った社会思想も取り上げていきます。思想家の人間観や、そこから生まれた社会理解を通じて、私たち自身の現代社会に対する理解を再検討することが、社会と私たちとの関係の本質を理解することにつながります。
3. 具体的な目標としては、「印象」や「傾向」で社会を見るのではなく、「明確な展望をもって社会と向き合える能力」を養うこととします。
4. 講義は可能な限り工夫して進めます。ドキュメンタリー・ビデオの上映など、映像による資料を随時使用していきます。

#### 授業計画

- 第1回 イントロダクション ～社会思想って何だろう
- 第2回 古代ギリシアの社会思想 ～アリストテレス
- 第3回 ルネサンス期の社会思想 ～ニコロ・マキアヴェリ
- 第4回 映像学習日 (予定)
- 第5回 近代民主主義思想の誕生 ～トーマス・ホッブズ、ジョン・ロック
- 第6回 フランス啓蒙思想の展開 ～ジャン・ジャック・ルソー
- 第7回 「市民社会」への反省 ～アダム・スミス
- 第8回 映像学習日 (予定)
- 第9回 社会主義思想の誕生と展開 ～カール・マルクス
- 第10回 女性解放思想の誕生 ～ウルストンクラフト、J. S. ミル、ベーベル
- 第11回 映像学習日 (予定)
- 第12回 現代民主主義と社会思想 ～ユルゲン・ハーバマス
- 第13回 現代の貧困と社会思想 ～アマルティア・セン
- 第14回 21世紀の社会思想 ～マイケル・サンデル、トマ・ピケティ
- 第15回 講義まとめ (レポート提出)

#### 教材・テキスト・参考文献等

・テキストは使用しません (毎回プリントを配布します)。参考文献は、城塚登『社会思想史講義』(有斐閣)、牧野広義『現代倫理と民主主義』(地歴社)。必要な資料等も配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。

#### 成績評価方法

・1. 講義中に実施する「ミニレポート」(意見提出。配点は約40%)、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」(配点は約60%)です。

#### その他

1. 第1週に詳細な「授業計画」ならびに「成績評価方法」、講師への問合せ方法を告知します。履修予定者は最初の週にできる限り出席しておいて下さい。

**対象：**

2. 現代の社会問題に関心の高い受講生の履修を求めます。

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 地方政治論  | 単位数  | : 4    |
| マークシート略 | : [地方政治] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 立石 芳夫  |      |        |

### 講義のねらい

日本の政治行政制度は「中央集権」であるといわれている。これは要するに、財源や権限が国（中央）に集中しているために、自治体（地方）の国に対する依存度が高いことを意味している。日本の地方自治が「3割自治」と呼ばれるのも、これに由来している。そこで近年、地方にもっと財源や権限を移譲し、自治体の自律を促そうと「地方分権」改革の必要性が説かれるようになった。実際、1999年に「地方分権一括法」が成立した際には、国と地方の関係に変化の兆しが訪れたかにみえた。しかしほぼ同時期に、「市町村合併」、「三位一体改革」など地方制度改革も遂行されてきた。せっきくの分権改革も、自治体の単なるリストラ策にとどまりはしないかと懸念される。また、国とともに地方の財政状況も深刻である。自治体の事務事業においても、民営化、外部委託など企業顔負けの「合理化」が急速に進んでいる。

他方、地方自治に根ざした新たな自治体づくりを模索する取り組みも、既に全国各地で開始されている。ここに国政とは相対的に区別される、地域独自の政治行政の営みを確認することができる。

本講義では、こうした自治体行政を取り巻く諸条件と地方分権改革の到達点を踏まえながら、戦後日本の地方自治制度や地方自治体の現状と課題について検討していくことを目的としている。地域の政治行政に関心を寄せる学生に本講義の受講をすすめたいことはもちろんだが、とくに、地方公務員をめざす学生が実際に採用されて、自治体行政の基本問題を模索する際、本講義はその重要な手がかりを提供することになろう。

### 授業計画

- 1 講義の概要説明、地方自治とは何か
- 2～6 戦前・戦後の日本の地方制度
- 7～10 首長と議会とその権限
- 11～13 住民の政治参加
- 14～17 自治体の財政
- 19～21 自治体の政策・条例
- 22～25 地域における政治状況
- 26～29 地方分権改革、まとめ
- 30 試験

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは、新藤宗幸『日曜日の自治体学』東京堂出版、2013年。初回の講義から使用する。

### 成績評価方法

試験で評価する。出欠はとらない。

### その他

本講義とあわせて、他の政治学関連の科目（行政学・政治学原論・政治史・政治思想史）の履修を勧めたい。

|                      |             |
|----------------------|-------------|
| 講義科目 : 政治史(政治過程論を含む) | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [政治史]      | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 長澤 高明           |             |

### 講義のねらい

欧米の政治史を取りあげて、それらが日本に与えた影響を考察する。日本における国民国家の成立や議会制民主主義の確立、大日本帝国憲法から今日の憲法への転換など、欧米の政治史を知らなければ深いところでの理解は出来ない。政治は苦手だという人も、この講義を受ければ興味が湧いてくるはずである。

### 授業計画

各項目は欧米の政治史を見出しにしているが、日本に与えた影響にそのつと言及する。

|     |                     |
|-----|---------------------|
| 第1回 | 主権国家体系の成立           |
| 2回  | イギリスの産業革命とアメリカの独立戦争 |
| 3回  | フランス革命とウィーン体制       |
| 4回  | ドイツのビスマルク体制         |
| 5回  | 植民地帝国主義             |
| 6回  | 第一次世界大戦 1           |
| 7回  | 第一次世界大戦 2           |
| 8回  | ベルサイユ体制とワシントン体制     |
| 9回  | ファシズム期              |
| 10回 | 第二次世界大戦             |
| 11回 | 冷戦期 1               |
| 12回 | 冷戦期 2               |
| 13回 | 冷戦後の世界 1            |
| 14回 | 冷戦後の世界 2            |
| 15回 | レポート作成              |

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは使用しない。毎回レジュメを配付する。参考文献は適宜紹介する。

### 成績評価方法

出席を重視する(30%)。小テストを二回実施する(20%)。レポートの提出を義務付ける(50%)。これらを総合して成績評価とする。

レポート：諸君がテーマを自由に設定し、調べたことに対する自分の見解を書く。A4横書き。4000字。

### その他

基礎知識が必要となるので、中学・高校で習った世界史・日本史の教科書を読みなおしておくことがのぞましい。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 政治思想史    | 単位数 : 2     |
| マージナル略 : [政治思想] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 井口 吉男      |             |

### 講義のねらい

ヨーロッパの著名な思想家の政治思想を中心に講じていく。現代は政治・行政のしくみが複雑化した時代である。けれどもむしろこういう時代だからこそ、いにしえの思想家たちが世に残した古典的著作をひもとき、政治について根本的かつ原理的な考察を行うことがよりいっそう大切になってくるのではなかろうか。

各々の思想家がその時代の課題とどう向き合い、どのような政治社会を構想したのか検討することは、今日の政治のあり方を考える上で、また今後の政治のヴィジョンを描く上で重要な作業である。

受講生にはこの講義を通して、政治の領域において「自由」であるとはどういうことなのか、「デモクラシー」（民主主義）を内実あるものにするにはどうすればいいのか、今日の日本の社会において「市民」であるとはどういうことなのかといった事柄について思考する習慣を身につけるようにしてほしい。

### 授業計画

以下の予定で進めていく。

- 第 1回 ガイダンス  
プラトンの政治思想
- 第 2回 ストア派における「個人」と「国家」
- 第 3回 マキアヴェリの君主論
- 第 4回 カルヴァン——「神」と「政治」
- 第 5回 ホッブズと「リヴァイアサン」
- 第 6回 ロックと市民政治
- 第 7回 モンテスキューと権力分立
- 第 8回 ルソーと「一般意志」
- 第 9回 スミスと「自由放任」
- 第10回 バークの保守思想
- 第11回 トクヴィルと大衆社会
- 第12回 マルクスと共産主義
- 第13回 ヴェーバー——「心情倫理」と「責任倫理」
- 第14回 西欧政治思想における「自由」
- 第15回 まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

教科書は特に使用しない。

### 成績評価方法

筆記試験（100点）を基本とするが、平常の受講姿勢も加味する。

### その他

西欧政治思想の世界の奥深さを味わってほしい。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 国際関係論    | 単位数 : 2     |
| マーケット略 : [国際関係] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 三瀬 貴弘      |             |

### ●講義のねらい

・国際社会においてまさに今、生じている様々な問題について、政治的、経済的、文化的、歴史的背景を含めて理解する。それらを、よりよく理解するために必要となる、国際関係論の基礎的な理論、考え方を習得する。さらに、理論と現実の相互作用に注目しながら、「国際公共財」の概念を用いて、ポスト冷戦期における日米関係について考察する。

### ●授業計画

・毎回の講義を以下の4部で構成する。それぞれに学生に求められる役割は異なる。出席した学生が、毎回「何か」を得られるような講義にしたい。講義を通じ「興味を持ったこと」について、自主学習することを強く期待する。

- ①15分間「頭の体操」……国際関係論に関する、面白くてためになるクイズをする。地理、歴史、文化に関する楽しい問題を予定。
- ②55分間「理論講義」……授業計画に沿って、穴埋め形式のレジュメを配布、それに沿い講義する。
- ③15分間「映像資料」……国際社会で現在起こっている問題を、映像資料を用いて講義する。
- ④5分間「感想記入」……講義に対する感想、要望や質問などを記入する。

・「②理論講義」の授業計画

- |      |                     |
|------|---------------------|
| 第1週  | オリエンテーション           |
| 第2週  | 国際関係論と国際政治経済学の関係    |
| 第3週  | 国際関係論の誕生①           |
| 第4週  | 国際関係論の誕生②           |
| 第5週  | リアリズムとリベラリズム①       |
| 第6週  | リアリズムとリベラリズム②       |
| 第7週  | リアリズムの隆盛と行き詰まり①     |
| 第8週  | リアリズムの隆盛と行き詰まり②     |
| 第9週  | 学術的政経架橋①            |
| 第10週 | 学術的政経架橋②            |
| 第11週 | 覇権安定論①              |
| 第12週 | 覇権安定論②              |
| 第13週 | 相互依存論               |
| 第14週 | 国際政治学に基づくポスト冷戦秩序の構築 |
| 第15週 | 講義のまとめ              |

・「③映像資料」は、日本の安全保障戦略、トランプの外交政策、中東問題、貧困・格差問題、世界遺産など。最新のトピックを随時取り入れる予定。

### ●教材・テキスト・参考文献等

参考文献 坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年。

### ●成績評価方法

レポートのみでの評価を予定している（レポート100%）。

### ●その他

・詳細なレジュメを毎回配布するので、講義中に理解できなかった場合は、家で読み直して復習すること。また講義に関連する（読みやすい）文献を、毎回数冊紹介し、希望者にその場で貸し出す「講義図書館」を実施する。講義で感じた「何かしらの引っかけり」を契機として、関心ある問題について自主的に勉強するサイクルを確立して欲しい。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 地域政策論     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [地域政策] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 小野寺 一成      |             |

### 講義のねらい

地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。地域政策は、人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう活性化していくことを目的としている。本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、県内市町村などの具体例をあげながら講義し、地域の活性化を考えていく。

### 授業計画

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 第1回 | ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン |
| 2回  | 社会資本の歴史とその役割             |
| 3回  | 社会資本を取り巻く社会の状況           |
| 4回  | 今後の社会資本のあり方－維持管理－        |
| 5回  | 今後の社会資本のあり方－将来を見越した取り組み－ |
| 6回  | 社会資本に関する国土交通行政の方向        |
| 7回  | 観光立国と美しい国づくり             |
| 8回  | 中間試験                     |
| 9回  | 東日本大震災からの復興に向けた取り組み      |
| 10回 | 美しく良好な環境の保全と創造           |
| 11回 | 安全・安心社会                  |
| 12回 | 競争力のある社会                 |
| 13回 | 心地よい生活空間づくり              |
| 14回 | 地域活性化の推進                 |
| 15回 | まとめと確認                   |

※なお、授業の進捗状況によって、内容を変更することもありえる。

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。
- ・テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用を予定。

### 成績評価方法

- ・中間試験、試験、講義後のキーワード試験をあわせて評価。
- ・1/3以上欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。

### その他

- ・授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な小試験を予定。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 環境政策論     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [環境政策] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 南 有哲        |             |

#### 講義のねらい

21世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは、おそらく不十分であり、主権者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義においては、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。

#### 授業計画

- 第1回 はじめに
- 第2回 環境問題とは何か
- 第3回 環境破壊の人類史①
- 第4回 環境破壊の人類史②
- 第5回 工業化について
- 第6回 グローバル市場経済の仕組み①
- 第7回 グローバル市場経済の仕組み②
- 第8回 市場経済と国家
- 第9回 南北格差の歴史と現状①
- 第10回 南北格差の歴史と現状②
- 第11回 気候政策の国際的展開①
- 第12回 気候政策の国際的展開②
- 第13回 日本における気候政策①
- 第14回 日本における気候政策②
- 第15回 求められる環境政策とは

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義中に適宜指示する。

#### 成績評価方法

毎回小レポートを課し、それによって評価を行う

#### その他

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 統計学      | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [統計学] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 宮西 基明      |             |

#### 講義のねらい

- ・大量のデータを整理し、全体の性質を読み取る能力を身につけます。
- ・平均値、標準偏差の求め方、グラフの作成方法を修得します。
- ・統計解析で得られる数値の意味、正規分布、母集団と標本など統計に関する法則、確率と統計について理解を深めていきます。

#### 授業計画

- 第1回 代表値：最頻値、中央値、平均値
- 第2回 ばらつきを表す量：範囲、平均偏差、標準偏差
- 第3回 度数分布表の作成
- 第4回 ヒストグラム、平均値と標準偏差の概略値の求め方
- 第5回 様々な分布の形、正規分布
- 第6回 標準正規分布、正規分布表の見方
- 第7回 正規分布の標準化と個数の推定
- 第8回 母集団と標本、標本の選び方、乱数
- 第9回 t分布、t分布表の見方
- 第10回 標本からの推定、平均値の信頼区間
- 第11回  $\Sigma$ を用いた計算
- 第12回 カイ2乗分布、カイ2乗検定
- 第13回 二項分布と正規分布
- 第14回 回帰直線と相関
- 第15回 まとめと筆記試験

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・教科書：石井俊全著『意味がわかる統計学』ベレ出版。
- ・参考書：入門書として大村平著『今日から使える統計解析』講談社
- ・より専門的な内容の参考書を揃え自主的に学習することを希望します。
- ・随時プリントを配布します。

#### 成績評価方法

- ・欠席は5回以内とし、それ以上は評価の対象外とします。
- ・成績は小テスト30%、筆記試験70%として評価します。  
小テストは10回程度を予定しています。小テストは練習と理解度の確認と平常の取り組みも考慮して成績に加点していきます。

#### その他

- ・平方根を求めることができる電卓を用意して下さい。
- ・解説と練習を適宜組み合わせ進めていきます。毎回出席をとります。欠席、遅刻のないように注意して下さい。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 経済原論      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [経済原論] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 田添 篤史       |             |

#### 講義のねらい

経済学には、企業や消費主体の最適化に基づく個別主体の選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個々の主体の単純な合成としては把握せず、一つの独自の総体として取り扱うマクロ経済学の2つが存在しています。この講義では第2回から第16回においてミクロ経済学、第17回から第29回でマクロ経済学を取り扱います。

#### 授業計画

|     |                    |      |                  |
|-----|--------------------|------|------------------|
| 第1回 | ミクロ経済学とマクロ経済学      | 第16回 | 余剰分析(2)          |
| 2回  | 経済学の思考パターンとグラフの読み方 | 17回  | 経済学の全体像 - 様々な考え方 |
| 3回  | 限界効用理論             | 18回  | 国民経済計算(1)        |
| 4回  | 無差別曲線の理論(1)        | 19回  | 国民経済計算(2)        |
| 5回  | 無差別曲線の理論(2)        | 20回  | 財市場の分析(1)        |
| 6回  | 無差別曲線の理論(3)        | 21回  | 財市場の分析(2)        |
| 7回  | 無差別曲線の理論(4)        | 22回  | 財市場の分析(3)        |
| 8回  | 生産の理論              | 23回  | 財市場の分析(4)        |
| 9回  | 完全競争市場の生産量決定(1)    | 24回  | 資産市場の分析(1)       |
| 10回 | 完全競争市場の生産量決定(2)    | 25回  | 資産市場の分析(2)       |
| 11回 | 独占の理論              | 26回  | 資産市場の分析(3)       |
| 12回 | 寡占の理論              | 27回  | 財市場の資産市場の同時分析(1) |
| 13回 | ゲームの理論             | 28回  | 財市場と資産市場の同時分析(2) |
| 14回 | 市場の均衡と安定性          | 29回  | 経済成長の源泉          |
| 15回 | 余剰分析(1)            | 30回  | テスト              |

#### 教材・テキスト・参考文献等

毎回資料を配布します。資料は以下の参考書を要約したものとなっています。

##### 参考文献

石川秀樹(著) 中央経済社

『試験攻略 新・経済学入門塾1 マクロ編』

『試験攻略 新・経済学入門塾2 ミクロ編』

#### 成績評価方法

期末テスト

#### その他

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 経済史      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [経済史] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 茂木 陽一      |             |

#### 講義のねらい

●本年度講義では、世界と日本の人口変動と貨幣・物価変動を軸にした経済発展に関する新しい見方を講じます。その上で、近代日本の経済発展を戦争・植民地支配と平和・軍縮、また、短・中・長期の経済変動、とりわけ世界恐慌＝昭和恐慌との関連で概観し、近代日本のアポリア(難問)に対する一定の解答を示すつもりです。

#### 授業計画

|     |                 |      |                |
|-----|-----------------|------|----------------|
| 第1回 | 経済史とは何か?        | 第16回 | 貨幣の誕生          |
| 2回  | 人口史の方法          | 17回  | 江戸期の三貨制度       |
| 3回  | 人類の誕生と農耕革命      | 18回  | 藩札と私札          |
| 4回  | 前近代の人口と経済       | 19回  | 文政期インフレ成長仮説    |
| 5回  | 価格革命と産業革命       | 20回  | 近代幣制の成立        |
| 6回  | 近代経済成長と人口増加     | 21回  | 「円」の誕生         |
| 7回  | 人口転換と近代家族       | 22回  | 銀行システムの成立と産業革命 |
| 8回  | 人口波動と日本の歴史      | 23回  | 金本位制と三環節構造     |
| 9回  | 経済社会化と第三の波動     | 24回  | 恐慌と金本位制度の動揺    |
| 10回 | 近代日本の経済成長と第四の波動 | 25回  | 総力戦体制と管理通貨制度   |
| 11回 | 人口減少社会と経済変動     | 26回  | 敗戦と戦後復興        |
| 12回 | 少子高齢化と第二人口転換    | 27回  | 高度経済成長         |
| 13回 | 近代家族の解体         | 28回  | 近代日本の戦争・軍隊・植民地 |
| 14回 | 途上国の人口問題        | 29回  | 戦争と経済発展        |
| 15回 | まとめと確認－中間試験     | 30回  | まとめと確認－期末試験    |

#### 教材・テキスト・参考文献等

- 講義の際に資料とレジュメを配布し、それにしたがって講義を進めます。
- 適宜講義録を配布します。復習のための資料ですが、配付資料とこの講義録を合わせると、テキストになります。
- 講義の参考になる文献として以下のものを挙げておきます。  
G. クラーク『10万年の世界経済史』上・下(日経BP社)、鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』(講談社学術文庫)、高木久史『通貨の日本史』(中公新書)

#### 成績評価方法

- 評価は小レポート①～⑥(各5点、合計30点)、中間試験(35点)、期末試験(35点)の合計で行います。合計が60%以上で可、70%以上で良、80%以上で優とします。また1/3以上欠席した者は無資格とします。

#### その他

- 毎回出席カードを配付します。質問・要望のある人はカードに書いて下さい。どんな質問でもなるべく丁寧に回答します。回答は次の時間に口頭で説明するかプリントにして配付します。
- 正当な理由がある場合以外の遅刻・早退は認めません。私語をやめなかったり、居眠りをしたりする者には退室してもらうことがあります。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 経済政策      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [経済政策] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 森岡 洋        |             |

### 講義のねらい

①資本主義経済の特徴は市場経済で運営されていることと私有財産制度が存在することである。この資本主義経済ではどのような解決すべき課題が存在するのか、完全雇用と景気調整の安定化政策および分配政策という解決すべき課題を中心に経済政策について述べる。

②また、経済学の観点から経済政策を考える場合、経済的厚生という概念を使う。この概念を式で示したものに社会的厚生関数があり、このことについても述べる。

### 授業計画

#### I 資本主義経済の特徴と経済政策の必要性

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 第1回 資本主義経済と私有財産制度 | 第2回 資本主義経済と市場経済 |
| 第3回 資本主義経済の長所     | 第4回 短所と経済政策の必要性 |
| 第5回 経済政策の形態       |                 |

#### II 経済政策の理論

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 第6回 経済政策の目的、手段、主体 | 第7回 経済的厚生について     |
| 第8回 ピグーの三命題       | 第9回 バーグソンの社会的厚生関数 |
| 第10回 最適な経済政策とは    |                   |

#### III 資本主義経済と分配政策

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 第11回 経済発展と所得分配     | 第12回 ローレンツ曲線とジニー係数 |
| 第13回 日本経済での所得格差の拡大 | 第14回 ピグーの所得分配論     |
| 第15回 格差解消の経済政策     |                    |
| 第16回 講義の中間まとめ      |                    |

#### IV 資本主義経済と安定化政策（ケインズ経済学による）

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 第17回 ケインズ経済学の体系   | 第18回 古典派経済学の労働市場   |
| 第19回 ケインズ経済学の労働市場 | 第20回 ケインズ経済学の生産物市場 |
| 第21回 生産物市場での消費と投資 | 第22回 生産物市場と景気循環    |
| 第23回 貨幣市場での貨幣供給   | 第24回 貨幣市場での貨幣需要    |
| 第25回 貨幣市場での利子率の決定 | 第26回 ケインズ経済学の金融政策  |
| 第27回 金融政策の限界      | 第28回 ケインズ経済学の財政政策  |
| 第29回 財政政策の問題点     |                    |
| 第30回 講義まとめ（最終試験）  |                    |

### 教材・テキスト・参考文献等

講義中に講義内容に沿ったプリントを配布する。

### 成績評価方法

講義が半分ほど経過したとき講義の中間まとめの論述形式での中間テストを行う。最終試験で講義の後半部分のテストを論述形式で行う。講義には3分の2以上出席しなければならない。なお、評価として、中間テスト45%、最終試験45%、出席10%とする。

### その他

|         |         |      |        |
|---------|---------|------|--------|
| 講義科目    | : 金融論   | 単位数  | : 4    |
| マークシート略 | : [金融論] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 石原 洋介 |      |        |

### 講義のねらい

今日では、世界の経済動向を理解するために金融に関する知識が不可欠となっています。したがって金融の知識は、将来金融関係の職に就きたいと考える学生のみならず、全ての社会人が身につけておくべき一般教養となっています。

本講義は、難解な金融理論を学ぶことよりも、日本の現在の金融システムや金融政策の基本的な仕組みを知ることにより重点を置き、金融をめぐる様々な社会問題にも言及していきます。基礎的な統計データを活用しながら、金融が我々の暮らしとどれだけ密接な関係にあるのか、金融に関する社会問題の背景には何があるのか、などを分かりやすく解説していきたいと考えています。

### 授業計画

|     |               |      |              |
|-----|---------------|------|--------------|
| 第1回 | ガイダンス、貨幣の歴史①  | 第16回 | 日本の財政と国債②    |
| 2回  | 貨幣の歴史②        | 17回  | 短期金融市場①      |
| 3回  | 商品と貨幣、貨幣の発生①  | 18回  | 短期金融市場②      |
| 4回  | 商品と貨幣、貨幣の発生②  | 19回  | 長期金融市場①      |
| 5回  | 貨幣機能、通貨の発行①   | 20回  | 長期金融市場②      |
| 6回  | 貨幣機能、通貨の発行②   | 21回  | 日本銀行と金融政策①   |
| 7回  | 資金循環、企業の資金調達① | 22回  | 日本銀行と金融政策②   |
| 8回  | 資金循環、企業の資金調達② | 23回  | 日本銀行と金融政策③   |
| 9回  | 日本の金融機関（前編）①  | 24回  | 国際収支と外国為替市場① |
| 10回 | 日本の金融機関（前編）②  | 25回  | 国際収支と外国為替市場② |
| 11回 | 日本の金融機関（後編）①  | 26回  | 国際収支と外国為替市場③ |
| 12回 | 日本の金融機関（後編）②  | 27回  | デリバティブ市場①    |
| 13回 | 銀行融資と金利①      | 28回  | デリバティブ市場②    |
| 14回 | 銀行融資と金利②      | 29回  | サブプライム危機①    |
| 15回 | 日本の財政と国債①     | 30回  | サブプライム危機②    |

### 教材・テキスト・参考文献等

特定の教科書は指定しません。配布するレジユメをもとに講義を行います。

### 成績評価方法

成績評価はレポート提出による評価（8割）に、出席点（2割）を加味して行います。出席は毎回取るのではなく、不定期に4～5回程度取って点数化します。レポート課題は最初の講義（ガイダンス）で発表します。

### その他

関連講義として、「統計学」「経済原論」「経済政策」「簿記原理」「財政学」などを履修することを推奨します。また、新聞を毎日読むことを心がけて下さい。

|                |             |
|----------------|-------------|
| 講義科目 : 財政学     | 単位数 : 4     |
| マーケット略 : [財政学] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 大畑 智史     |             |

### 講義のねらい

現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面において重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、とりわけ国家の場合（日本）に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な国家財政について専門的に考察できることを目標とします。

### 授業計画

|    |           |    |            |
|----|-----------|----|------------|
| 1  | オリエンテーション | 16 | 法人課税       |
| 2  | 財政学の歴史    | 17 | 法人課税       |
| 3  | 財政学の歴史    | 18 | 中間テスト      |
| 4  | 財政の範囲と規模  | 19 | 消費課税       |
| 5  | 財政の機能     | 20 | 消費課税       |
| 6  | 予算        | 21 | 資産課税       |
| 7  | 予算        | 22 | 資産課税       |
| 8  | 予算        | 23 | 国際課税       |
| 9  | 公共財       | 24 | 公債         |
| 10 | 公共財       | 25 | 公債         |
| 11 | 公共財       | 26 | 国と地方との財政関係 |
| 12 | 租税の基礎     | 27 | 国と地方との財政関係 |
| 13 | 租税の基礎     | 28 | 社会保障       |
| 14 | 所得課税      | 29 | 社会保障       |
| 15 | 所得課税      | 30 | まとめ、最終テスト  |

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは指定しませんが、下記の文献を参考文献として挙げておきます。

池上惇『財政思想史』有斐閣、2002年

植田和弘、諸富徹 編『テキストブック 現代財政学』有斐閣、2016年

持田信樹『地方財政論』東京大学出版会、2013年

『図説 日本の財政』東洋経済新報社（各年度版）

『図説 日本の税制』財経詳報社（各年度版）

### 成績評価方法

中間テスト：20%

講義内容についての感想（複数回）：20%

最終テスト：60%

### その他

・経済政策、地方財政論、などの科目も履修することをお勧めします。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 経営学      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [経営学] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 杉山 直       |             |

### 講義のねらい

本講義は、経営学の基本的な概念を理解できるようになることを目的とします。

私たちの周りには多くの企業（会社）があります。多くの人はそこで働いて収入を得て、それで必要なものを買って生活しています。このように現在、私たちの生活は企業なくしては全く成り立ちません。さらに言えば、企業は、私たちの生活を含めた現在の社会全体に対して大きな影響を与えるものとなっています。

本講義では、このように私たちの生活と深く関わっている企業とは何か、またそれはどのように経営されているのか、という問題についてみていくことにします。そのために、企業経営の実態を理解するために必要な基礎理論や具体的事例を取り上げていきます。

### 授業計画

|                  |                         |
|------------------|-------------------------|
| 第1回 ガイダンス        | 第16回 組織の仕組みと分業          |
| 第2回 経営学を学ぶ       | 第17回 分業と調整              |
| 第3回 会社の経営と経営資源   | 第18回 労働と動機づけ            |
| 第4回 会社経営の仕組み     | 第19回 リーダーシップ            |
| 第5回 会社の機能と行動     | 第20回 テイラーと科学的管理法        |
| 第6回 会社の社会的責任     | 第21回 ヘンリー・フォードとフォードシステム |
| 第7回 株式会社の諸機関     | 第22回 大野耐一とトヨタ生産方式       |
| 第8回 コーポレート・ガバナンス | 第23回 資本の調達と運用           |
| 第9回 経営理念         | 第24回 生産管理               |
| 第10回 経営戦略        | 第25回 マーケティング            |
| 第11回 組織形態の基本モデル  | 第26回 人的資源管理(1)          |
| 第12回 様々な組織形態     | 第27回 人的資源管理(2)          |
| 第13回 組織形態の発展パターン | 第28回 日本的経営              |
| 第14回 企業集団と系列     | 第29回 国際経営               |
| 第15回 戦略的提携       | 第30回 まとめ                |

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・授業ではプリントと資料を配布します。
- ・プリントと資料については、ガイダンス（第1回）で説明します。
- ・プリントと資料は試験が終わるまで保存して下さい。
- ・参考文献は必要に応じて紹介します。

### 成績評価方法

- ・成績は試験(50%)、課題(40%)とレポート(10%)で評価します。
- ・試験及び課題とレポートの実施方法については、ガイダンス（第1回）で説明します。
- ・課題とレポートは提出期限を越えたものは受け付けません。

### その他

- ・授業の進捗状況によって、授業計画を変更することがあります。

|                    |             |
|--------------------|-------------|
| 講義科目 : マーケティング論    | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [ マーケテ ] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 鷲尾 和紀         |             |

### 講義のねらい

本講義は最初にマーケティングの原理を学びます。さらに経済における活動に生産と消費がある中で、マーケティング戦略論の主な課題である企業への顧客または市場・環境への対応、競合への対応、手法について学びます。マーケティングは「売れる仕組み」を考えます。またその目標は顧客の価値創造と維持であります。マーケティング戦略の本質を様々な事例を通して理解していくことが授業の到達目標であります。

### 授業計画

|     |                    |      |                    |
|-----|--------------------|------|--------------------|
| 第1回 | ガイダンス              | 第16回 | ブランド戦略①            |
| 2回  | マーケティング戦略の意義       | 17回  | ブランド戦略②            |
| 3回  | マーケティング・コンセプト      | 18回  | 価格戦略①              |
| 4回  | 需要・顧客価値、競争とマーケティング | 19回  | 価格戦略②              |
| 5回  | マーケティング・マネジメントの基本  | 20回  | チャネル戦略①            |
| 6回  | 市場機会の分析と発見         | 21回  | チャネル戦略②            |
| 7回  | SWOT分析(外部)         | 22回  | コミュニケーション戦略①       |
| 8回  | SWOT分析(内部)         | 23回  | コミュニケーション戦略②       |
| 9回  | 市場細分化              | 24回  | 情報ネットワーク戦略/デジタルツール |
| 10回 | 標的市場の設定            | 25回  | サービスマーケティング①       |
| 11回 | ターゲティング            | 26回  | サービスマーケティング②       |
| 12回 | ポジショニング①           | 27回  | サービスマーケティング③       |
| 13回 | ポジショニング②           | 28回  | 消費者行動とマーケティング      |
| 14回 | 製品戦略①              | 29回  | まとめ                |
| 15回 | 製品戦略②              | 30回  | テスト                |

### 教材・テキスト・参考文献等

鷲尾和紀・鷲尾紀吉(2017)『マーケティング戦略論』発行：創成社

### 成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。授業態度等。

### その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。パワーポイントで授業を行った場合、スライドを携帯電話でカメラ撮影することは禁止しています。受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。日常生活においてマーケティングはあらゆるところに存在しています。日々の生活からマーケティングをイメージできるようになれば楽しくなります。

|         |         |      |       |
|---------|---------|------|-------|
| 講義科目    | :簿記原理   | 単位数  | :4    |
| マークシート略 | :〔簿記原理〕 | 学習形態 | :選択科目 |
| 担当      | :稲山 訓央  |      |       |

### 講義のねらい

会計学を履修するための基本的ツールである簿記の諸手続きを理解するとともに、十一月試験で日本商工会議所簿記検定三級に合格できるだけの力を養成することを目的とします。

### 授業計画

- 第1回 貸借対照表と損益計算書
- 第2回 取引と勘定
- 第3回 仕訳と転記
- 第4回 決算の基礎
- 第5回 現金・預金
- 第6回 商品売買
- 第7回 手形
- 第8回 有価証券・固定資産
- 第9回 その他の資産・負債
- 第10回 その他の取引
- 第11回 伝票
- 第12回 試算表
- 第13回 決算準備手続
- 第14回 決算本手続の財務諸表の作成
- 第15回 学習内容の確認とふりかえり

注) 1回分は、講義2回分相当量です。

### 教材・テキスト・参考文献等

実教出版『新版日商簿記 3級問題集』蛭川幹夫・増子敦仁 著

曠野会『ぼきのじゅもん基礎編』稲山訓央 著

### 成績評価方法

学習内容の確認(100点)に出席状況(15点)を加算し、評価します。

但し、100点を超える評価、および再度学習内容の確認は行いません。

### その他

簿記は積み上げていく科目ですので、まず出席が重要な科目であると了解しておいてください。

|         |         |      |        |
|---------|---------|------|--------|
| 講義科目    | : 会計学   | 単位数  | : 4    |
| マークシート略 | : [会計学] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 稲山 訓央 |      |        |

### 講義のねらい

会計学は、企業や官庁や家計など一定の経済主体を単位として行う会計行為に関する学問のことを指します。企業がおこなう会計行為を企業会計と言い、それをチェックする制度が会計監査と言います。前半では企業会計を、後半では会計監査について学びます。

### 授業計画

|      |               |      |                   |
|------|---------------|------|-------------------|
| 第1回  | 会計学と          | 第16回 | 社会を揺るがす経済事件       |
| 第2回  | 現代会計の役割       | 第17回 | 経済事件とコーポレート・ガバナンス |
| 第3回  | 会計士会計学と経営者会計学 | 第18回 | 経済社会を支える財務情報      |
| 第4回  | 動態論と静態論       | 第19回 | 財務諸表監査の必要性        |
| 第5回  | 収益力の測定        | 第20回 | 監査を取り巻く法律         |
| 第6回  | 会社法会計の目的      | 第21回 | 監査を担当する人          |
| 第7回  | トライアングル体制     | 第22回 | 監査を取り巻く組織         |
| 第8回  | 会計公準          | 第23回 | 監査のルール            |
| 第9回  | 企業会計原則（統括原則）  | 第24回 | 監査のプロセス(1)        |
| 第10回 | 企業会計原則（計算原則①） | 第25回 | 監査のプロセス(2)        |
| 第11回 | 企業会計原則（計算原則②） | 第26回 | 監査結果の報告           |
| 第12回 | 企業会計原則（計算原則③） | 第27回 | 監査の信頼性向上のための取り組み  |
| 第13回 | 企業会計原則（報告原則①） | 第28回 | 健全な社会と監査          |
| 第14回 | 企業会計原則（報告原則②） | 第29回 | 期末試験              |
| 第15回 | 企業会計原則（報告原則③） | 第30回 | まとめ               |

教材・テキスト・参考文献等プリントで配布致します。

成績評価方法出席状況（30%）、確認テスト（70%）を基準に評価をします。

### その他

- 授業の進捗度に応じて授業計画が変更される場合があります。
- 電卓をご用意下さい。

|        |          |      |        |
|--------|----------|------|--------|
| 講義科目   | : 日本経済論  | 単位数  | : 2    |
| マーケット略 | : [日本経済] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当     | : 鷲尾 和紀  |      |        |

#### 講義のねらい

我が国の経済環境変化は我々にとって生活そのものを変化させている。今日家計や企業を取り巻く環境にはさまざまな課題が表出している。これらの課題に取り組むためにどう経済を読み解くのか事例を交えて解説していく。また新聞記事や各庁が発行する白書の内容が理解できるようになることを目標とする。

#### 授業内容

|      |                  |
|------|------------------|
| 第1回  | ガイダンス            |
| 第2回  | 現代経済の仕組み         |
| 第3回  | 日本経済の姿・全体像       |
| 第4回  | 日本経済の歩み①~高度経済成長期 |
| 第5回  | 日本経済の歩み②~バブル経済   |
| 第6回  | 日本経済の歩み③~21世紀    |
| 第7回  | 日本経済の歩み④~次世代     |
| 第8回  | 企業活動①~企業とは、      |
| 第9回  | 企業活動②~グローバル化、IT化 |
| 第10回 | 労働①~今日の現状        |
| 第11回 | 労働②~若年者、女性の就労    |
| 第12回 | 少子高齢化と社会保障制度     |
| 第13回 | 医療・公的年金制度        |
| 第14回 | 経済と環境問題          |
| 第15回 | まとめ、テスト          |

#### テキスト

浅子和美・飯塚信夫・篠原総一『入門・日本経済 第5版』 有斐閣,2015年3月

#### 成績評価方法

- ・テスト
- ・出席を毎回していれば自然とテストの点数が取れます。

#### その他

毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。

パワーポイントで授業を行った場合、スライドを携帯電話でカメラ撮影することは禁止しています。

受動ではなく能動に学生が主体的に考え、教員と学生がコミュニケーションをし、また将来への意識付けができるような授業を目指します。

|        |          |      |        |
|--------|----------|------|--------|
| 講義科目   | : 国際経済論  | 単位数  | : 2    |
| マーケット略 | : [国際経済] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当     | : 石原 洋介  |      |        |

### 講義のねらい

今日の金融・経済危機の原因は、70年代以降の新自由主義的グローバリズムがもたらした国際経済・金融の不安定化にあります。現在、国際経済体制の改革が模索されていますが、その方向性を考える上でも、新自由主義的グローバリゼーションとは何だったのか、どこに問題の核心があるのか等の総括が真剣になされなければなりません。本講では、新自由主義理論とは何か、それがなぜ登場し、世界的に拡大したのかを考えていきます。とりわけ、私の専門領域が東アジアということもあり、日本と東アジアの経済関係を中心に現代グローバリズムについて考察します。具体的には、アジア通貨危機、FTAの急増、TPP交渉参加問題などを取り上げます。講義を通じて、皆さんと今後の国際経済のあり方を考えていきたいと思えます。

### 授業計画

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス                        |
| 2回  | 自由貿易理論と保護貿易理論。比較生産費説と幼稚産業保護論 |
| 3回  | 戦後ブレトンウッズ体制①——IMF——          |
| 4回  | 戦後ブレトンウッズ体制②——世界銀行——         |
| 5回  | 戦後ブレトンウッズ体制③——GATTからWTOへ——   |
| 6回  | 新自由主義理論の台頭                   |
| 7回  | アジア通貨危機① 危機発生の諸要因            |
| 8回  | アジア通貨危機② 危機発生の諸要因（つづき）       |
| 9回  | アジア通貨危機③ 通貨危機への対応の2つの道       |
| 10回 | アジア通貨危機④ 通貨危機再発防止への取組        |
| 11回 | グローバリズムとリージョナリズム① FTA急増の背景   |
| 12回 | グローバリズムとリージョナリズム② 日本のFTA戦略   |
| 13回 | グローバリズムとリージョナリズム③ TPPを考える    |
| 14回 | グローバリズムとリージョナリズム④ TPPと食の安全   |
| 15回 | 新たなグローバリズムの可能性               |

### 教材・テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用せず、毎回配布するレジュメをもとに講義を進めます。

### 成績評価方法

成績評価はレポート提出による評価（8割）に、出席点（2割）を加味して行います。出席は毎回取るのではなく、不定期に4～5回程度取って点数化します。

### その他

関連講義として、「統計学」「経済原論」「金融論」「経済政策」「経済史」の履修を推奨します。また、新聞を毎日読むことを心がけて下さい。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 地方財政論     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [地方財政] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 大畑 智史       |             |

### 講義のねらい

現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面で重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、特に日本の地方自治体の場合に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な地方自治体の財政に関し専門的に考察できることを目標とします。

### 授業計画

|     |               |
|-----|---------------|
| 第1回 | オリエンテーション     |
| 2回  | 地方自治体の役割      |
| 3回  | 地方分権と公共財      |
| 4回  | 予算制度と経費の膨張    |
| 5回  | 地方税           |
| 6回  | 地方税           |
| 7回  | 補助金           |
| 8回  | 国と地方との財政関係    |
| 9回  | 国と地方との財政関係    |
| 10回 | 地方債           |
| 11回 | 地方財政健全化       |
| 12回 | 地方公営企業と第3セクター |
| 13回 | 公会計           |
| 14回 | 地方財政改革        |
| 15回 | まとめ、最終テスト     |

### 教材・テキスト・参考文献等

テキストは指定しませんが、下記の文献を参考文献として挙げておきます。  
 植田和弘、諸富徹 編『テキストブック 現代財政学』有斐閣、2016年  
 持田信樹『地方財政論』東京大学出版会、2013年  
 『図説 日本の財政』東洋経済新報社（各年度版）  
 『図説 日本の税制』財経詳報社（各年度版）

### 成績評価方法

最終テスト：80%  
 講義内容についての感想（複数回）：20%

### その他

・経済政策、財政学、などの科目も履修することをお勧めします。

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 経済学史     | 単位数 : 2     |
| マーケット略 : [経済学史] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 田添篤史       |             |

#### 講義のねらい

経済学の歴史を分かりやすいテキストを用いて学んでいきます。

経済学に予備知識がなくても学べ、現代の経済学がどのような流れの中で生み出されてきたのかがわかります。

#### 授業計画

|     |                     |
|-----|---------------------|
| 第1回 | 第1章 アダム・スミス         |
| 2回  | 第1章 アダム・スミス         |
| 3回  | 第2章 リカード            |
| 4回  | 第3章 マルクス            |
| 5回  | 第3章 マルクス            |
| 6回  | 第4章 ジェボンズ、メンガー、ワルラス |
| 7回  | 第4章 ジェボンズ、メンガー、ワルラス |
| 8回  | 第5章 マーシャル           |
| 9回  | 第6章 ケインズ            |
| 10回 | 第6章 ケインズ            |
| 11回 | 第7章 ヒックスからサミュエルソンへ  |
| 12回 | 第7章 ヒックスからサミュエルソンへ  |
| 13回 | 第8章 フリードマンと反ケインズ革命  |
| 14回 | 終章 そして、経済学の現在へ      |
| 15回 | テスト                 |

#### 教材・テキスト・参考文献等

対話でわかる 痛快明解 経済学史

松尾 匡(著)

出版社: 日経BP社 (2009/8/27)

ISBN-13: 978-4822247645

このほか、適宜資料を配布します。

#### 成績評価方法

出席点とテスト

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 環境経済論    | 単位数 : 2     |
| マーケット略 : [環境経済] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 森岡 洋       |             |

#### 講義のねらい

環境に関心のある学生が環境経済学の基本的考え方や分析方法を理解できるようになってもらう。

環境問題が発生するメカニズムを明らかにするとともに、経済学の観点から環境問題を解決する具体的な対策を明らかにする。

#### 授業計画

|     |               |
|-----|---------------|
| 第1回 | ごみ問題と循環型社会    |
| 2回  | 外部性と市場の失敗     |
| 3回  | 限界社会的費用について   |
| 4回  | 外部性の内部化       |
| 5回  | 共有資源の利用と管理    |
| 6回  | 漁業資源の管理       |
| 7回  | 公共財とフリーライダー   |
| 8回  | 直接規制と市場メカニズ   |
| 9回  | 琵琶湖の水質管理と直接規制 |
| 10回 | 自主規制          |
| 11回 | 環境税           |
| 12回 | 環境税による経済的厚生改善 |
| 13回 | 地球温暖化問題       |
| 14回 | 温暖化政策と今後の課題   |
| 15回 | テスト           |

#### 教材・テキスト・参考文献等

栗山浩一・馬奈木俊介著『環境経済学をつかむ』有斐閣

#### 成績評価方

出席を3分の2以上すること。

最後に筆記試験を行う。評価として、試験90%、出席10%として行う。

#### その他

|        |          |      |        |
|--------|----------|------|--------|
| 講義科目   | : 経営管理論  | 単位数  | : 2    |
| マーケット略 | : [経営管理] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当     | : 寺前 俊孝  |      |        |

### 講義のねらい

企業（会社）は自社が掲げる目的を達成するために、モノやサービスの生産、あるいは販売活動を行うことで存続・発展している。この講義では、日々、我々が消費しているモノ・サービスを生産している企業を取り巻く環境の変化や、その中で企業が存続するための組織管理、事業（仕事）の運営のあり方についてなど、企業のマネジメントの基礎について学び理解する。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 現代社会と企業経営
- 第3回 ヒトの管理1（モチベーション、テイラーの科学的管理）
- 第4回 ヒトの管理2（ホーソン実験、人間関係論）
- 第5回 組織のマネジメント1（機能別組織）
- 第6回 組織のマネジメント2（事業部制組織、マトリックス組織）
- 第7回 雇用を巡る問題1（雇用における日本的経営の特徴）
- 第8回 雇用を巡る問題2（成果主義、非正規従業員を取り巻く問題）
- 第9回 雇用を巡る問題3（ダイバーシティ、ワークライフバランス）
- 第10回 小テスト、販売の現場における経営管理1（消費行動の変化）
- 第11回 販売の現場における経営管理2（事例紹介）
- 第12回 グローバル化と経営管理
- 第13回 経営戦略とマネジメント1（企業戦略、PPM、競争戦略論）
- 第14回 経営戦略とマネジメント2（RBV、事例紹介）
- 第15回 テスト

### 教材・テキスト・参考文献等

テキスト：毎回、講義の時に配布する資料をもとに講義を行う。  
 参考文献：『新版 経営から視る現代社会』 著者：今井齊・岸川典昭・宮崎信二、出版社：文眞堂。その他、適宜指示する。

### 成績評価方法

小テスト：20%、レポート：20%、テスト：60%。

### その他

講義期間中に小テストの実施、および、レポート課題の提出を課す。毎回配布する資料を中心に講義を行うため、必ず出席すること。やむをえない事情（病欠・就職活動・公欠など）で欠席した場合は、速やかに申し出ること。講義の内容に関しては進捗状況などを考慮し、変更することもあり得る。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 経営財務論     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [経営財務] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 上木 敏正       |             |

### 講義のねらい

- ・ 経営財務の知識を習得する。経営財務の意義を理解する。
- ・ 経営財務の諸理論を学ぶことにより、論理的思考を身に付ける。
- ・ 資本の流れを通じて企業の経営活動を見る目を養う。

### 授業計画

|     |                  |                   |
|-----|------------------|-------------------|
| 第1回 | 第0章 講義内容ガイダンス    | 第1章 経営財務論の本質      |
| 2回  | 第1章 経営財務論の本質     |                   |
| 3回  | 第1章 経営財務論の本質     | 第2章 経営財務論の(研究)目的  |
| 4回  | 第2章 経営財務論の(研究)目的 |                   |
| 5回  | 第3章 財務計画         |                   |
| 6回  | 第3章 財務計画         |                   |
| 7回  | 第4章 運転資本管理       |                   |
| 8回  | 第4章 運転資本管理       |                   |
| 9回  | 第5章 資本予算         |                   |
| 10回 | 第5章 資本予算         |                   |
| 11回 | 第6章 長期資本調達       | 第7章 資本コスト・資本構成の理論 |
| 12回 | 第8章 配当政策         | 第9章 企業評価          |
| 13回 | 第10章 ポートフォリオ理論   | 第11章 資本資産評価モデル    |
| 14回 | 第12章 デリバティブ      | 第13章 その他トピックス     |
| 15回 | まとめテスト           |                   |

### 教材・テキスト・参考文献等

講義ノートと配付資料による講義を行います。テキストは指定しません。当面の参考図書は以下のものです：細井卓『財務管理論』中央経済社、1981年。諸井勝之助『経営財務講義〔第二版〕』東京大学出版会、1989年。市村昭三編著『財務管理論』創成社、1995年。若杉・斎藤・丸山『経営財務』有斐閣、1998年。井手・高橋『経営財務入門〔第4版〕』日本経済新聞社、2009年。

### 成績評価方法

第14回講義までのうち合計9回以上出席した受講生を対象に、まとめテスト(100点満点)で評価します。なお、必要に応じて平常点(出席など；プラスにもマイナスにもなり得る)を評価に加味します。

### その他

経営財務論は、企業における資本の調達と運用を検討対象とし、財務意思決定者の意思決定をサポートすることを目的としています。本講義は、基礎的な内容を中心に進めてゆきます。講義が進むうちに理解できると思いますが、検討領域は企業内のみならず、外部資本市場を含む包括的なものになります。企業経営に必要なこの分野を学習することにより、資本の流れを通じて企業の経営活動を見る目を養って下さい。

※注意： 48・47期生対象カリキュラム科目

|                 |             |
|-----------------|-------------|
| 講義科目 : 人的資源管理論  | 単位数 : 2     |
| マーケット略 : [人的資源] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 杉山 直       |             |

### 講義のねらい

本講義は、人的資源管理の基本的な概念や実態を理解できるようになることを目的とします。

企業に雇用されて働く限り、人的資源管理は生活のあり方に深く関わるものです。例えば、採用後の配属やその後の異動、昇格・昇進、賃金、福利厚生、労働時間、安全・衛生などです。つまり平たく言えば、本講義では、企業での「働かせる仕組み・働く仕組み」についてみていくことになります。

こうした「仕組み」を理解することは、企業で働く上で大いに役立つものです。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 人的資源管理を学ぶ意義
- 第3回 人的資源管理と人間モデル
- 第4回 採用・配置
- 第5回 人材育成・教育訓練
- 第6回 人事評価
- 第7回 昇格・昇進
- 第8回 賃金管理
- 第9回 福利厚生制度
- 第10回 労働時間管理
- 第11回 安全・衛生
- 第12回 労使関係管理
- 第13回 退職管理
- 第14回 雇用形態の多様化
- 第15回 まとめ

### 教材・テキスト・参考文献等

- ・授業ではプリントと資料を配布します。
- ・プリントと資料については、ガイダンス（第1回）で説明します。
- ・プリントと資料は試験が終わるまで保存して下さい。
- ・参考文献は必要に応じて紹介します。

### 成績評価方法

- ・成績は試験(50%)、課題(30%)、レポート(20%)で評価します。
- ・試験及び課題の実施方法については、ガイダンス（第1回）で説明します。
- ・課題は提出期限を越えたものは受け付けません。

### その他

- ・授業の進捗状況によって、授業計画を変更することがあります。



|        |          |      |        |
|--------|----------|------|--------|
| 講義科目   | : 管理会計論  | 単位数  | : 2    |
| マーケット略 | : [管理会計] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当     | : 今井 富久翁 |      |        |

#### 講義のねらい

- ① 企業経営において重要性が高まっている管理会計に関して、新聞記事などを紹介して、興味を持ってもらえるように解説します。
- ② 管理会計の基礎概念を理解し、企業の経営資源を効率的に活用するための情報を企業経営者などに提供するプロセスや手段について講義します。
- ③ 企業経営の目的（＝適正な利潤を獲得して社会に貢献すること）を効率よく達成するための様々な方法について具体例を交えて紹介します。

#### 授業計画

- 第1回 管理会計の役割
- 第2回 管理会計と財務会計
- 第3回 経営理念は企業の基本姿勢
- 第4回 利益計画で成り行き経営からの進歩
- 第5回 経営組織の形態と変遷
- 第6回 経営戦略
- 第7回 戦略協力
- 第8回 コスト管理
- 第9回 物流コスト
- 第10回 ABCとABM
- 第11回 企業の社会貢献
- 第12回 投資計画
- 第13回 キャッシュフロー経営
- 第14回 経営分析
- 第15回 まとめと確認

#### 教材・テキスト・参考文献等

講義で使用する教材は、レジュメを作成します。

参考文献として、

「管理会計レクチャー」：門田 安弘：税務経理協会

「意思決定のための管理会計」：陶山 博太：同友館

「管理会計」：吉田 隆紀：森山書店

#### 成績評価方法

理解度を筆記試験で判断し、及第点未満の場合は、出席状況や受講態度などを考慮します。

#### その他

就職した企業から「今年の新入社員は使える」或は「一般常識を良く知っている」といってもらえるようにさまざまな話題を盛り込んだ講義をしますので、学生諸君は経営者などの企業のトップになったつもりで受講してください。

|                |             |
|----------------|-------------|
| 講義科目 : 財務会計論   | 単位数 : 2     |
| マーケット略 :〔財務会計〕 | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 今井 富久翁    |             |

#### 講義のねらい

会計は、企業の財務状態や業績を数値で表すツールであり、主として企業外部の利害関係者に会計情報を伝達することを目的とする。本講義では、企業活動について実際の財務諸表を参照しながら、財務会計の基本的考え方を説明します。

#### 授業計画

- 第1回 財務会計の基礎
- 第2回 企業会計原則と会計公準
- 第3回 財務諸表の仕組み①
- 第4回 財務諸表の仕組み②
- 第5回 資産の部
- 第6回 負債の部
- 第7回 純資産の部
- 第8回 収益の部①
- 第9回 収益の部②
- 第10回 費用の部①
- 第11回 費用の部②
- 第12回 株主資本等変動計算書
- 第13回 キャッシュフロー計算書
- 第14回 財務諸表分析
- 第15回 まとめと確認

#### 教材・テキスト・参考文献等

- |            |      |         |
|------------|------|---------|
| 「財務会計講義」   | 桜井久勝 | 中央経済社   |
| 「財務会計入門」   | 田中健二 | 中央経済社   |
| 「新・現代会計入門」 | 伊藤邦雄 | 日本経済新聞社 |
| 「新版会計法規集」  |      | 中央経済社   |

#### 成績評価方法

理解度を筆記試験で判断し、及第点未満の場合は出席状況や受講態度などを考慮します。

#### その他

簡単な計算問題を適宜出題しますので、電卓を持参してください。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 講義科目 : 税務会計論     | 単位数 : 2     |
| マークシート略 : [税務会計] | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 井上 貴司       |             |

#### 講義のねらい

税務会計論では、法人税務会計（法人税の考え方や計算方法）について学びます。法人税は企業会計上の利益を出発点にするため、法人税の計算の仕方を学ぶには企業会計上の利益の計算過程について一定の知識が必要となります。本講義では、実務に即して法人税の計算方法の概略を学びます。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法人税務会計とは
- 第3回 所得金額の計算
- 第4回 益金の額の計算 1
- 第5回 益金の額の計算 2
- 第6回 損金の額の計算 1
- 第7回 損金の額の計算 2
- 第8回 中間試験
- 第9回 損金の額の計算 3
- 第10回 損金の額の計算 4
- 第11回 法人税額の計算 1
- 第12回 法人税額の計算 2
- 第13回 法人税の申告と納税
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

#### 教材・テキスト・参考文献等

- ・使用テキストは最初の授業で指定します。

#### 成績評価方法

- ・試験（50%）、中間試験（50%）を基準に評価をします。

#### その他

- ・授業の進捗度に応じて授業計画が変更される場合があります。
- ・電卓を使用することがあります。電卓をご用意ください。

|                    |             |
|--------------------|-------------|
| 講義科目 : 工業簿記および原価計算 | 単位数 : 2     |
| マーケット略 : [工業簿記]    | 学習形態 : 選択科目 |
| 担当 : 藤田 美咲         |             |

### 講義のねらい

この地域を支える製造業における取引の記録システムである工業簿記と、製品の原価の計算について理解することを目的とします。

最終的に日本商工会議所簿記検定2級の工業簿記レベルの実力を修得することを目標とします。

### 授業計画

テキストに沿って、おおよそ以下のように進めていく予定ですが、進行状況によって修正をしていきます。

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 第1回 | ガイダンス、工業簿記の基礎、工業簿記の勘定連絡 |
| 2回  | 材料費                     |
| 3回  | 労務費、経費                  |
| 4回  | 個別原価計算①                 |
| 5回  | 個別原価計算②                 |
| 6回  | 個別原価計算③                 |
| 7回  | 個別原価計算④                 |
| 8回  | 総合原価計算①                 |
| 9回  | 総合原価計算②                 |
| 10回 | 総合原価計算③                 |
| 11回 | 標準原価計算①                 |
| 12回 | 標準原価計算②、財務諸表の表示         |
| 13回 | 直接原価計算                  |
| 14回 | CVP分析、本社工場会計            |
| 15回 | 確認テスト                   |

### 教材・テキスト・参考文献等

(テキスト)

「合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記」TAC出版

### 成績評価方法

試験80%に平常点（出席状況、講義中の態度）20%を加味して判定します。出席は毎回とります。

### その他

講義には電卓をご用意ください。

本講義は簿記3級程度の基本的な簿記の知識があることを前提としております。

|         |          |      |        |
|---------|----------|------|--------|
| 講義科目    | : 上級簿記   | 単位数  | : 2    |
| マークシート略 | : [上級簿記] | 学習形態 | : 選択科目 |
| 担当      | : 稲山 訓央  |      |        |

### 講義のねらい

本講義では、日商簿記検定 2 級の商業簿記の内容を学習します。

簿記は、会計学の基礎となる科目です。簿記により企業の経済活動を数量的に捉えることによって、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることができます。簿記の知識と技術は、社会的にも大きな役割を果たしており、経済社会で活躍する人々たちにとっては、身につけておきたい知識と技術であると言えます。企業の経済活動を数値化することで、企業の管理ができ、投資家に対して情報を公開することができ、さらに税金の計算にも役立てられています。また、簿記を学ぶことで、物事を合理的に考察し、正確かつ迅速に処理する能力や思考力を身につけることができます。

### 授業計画

- 第 1 回 現金・預金・売掛金
- 第 2 回 手形取引と電子記録債権・商品
- 第 3 回 固定資産・引当金
- 第 4 回 株式会社会計・無形固定資産と投資
- 第 5 回 剰余金の配当・リース取引
- 第 6 回 外貨建取引・収益と費用の認識基準
- 第 7 回 株式会社の税金・税公開会計
- 第 8 回 決算
- 第 9 回 財務諸表の作成
- 第 10 回 本支店会計
- 第 11 回 連結会計の手続き
- 第 12 回 連結会社間の取引
- 第 13 回 問題演習
- 第 14 回 問題演習
- 第 15 回 確認テスト

### 教材・テキスト・参考文献等

- 最新段階式日商簿記検定問題集 2 級商業簿記 三訂版 実教出版  
教科書に書き込みながら、講義を進めていくので、必ず持参してください。

### 成績評価方法

- 出席状況 (15%) と確認テスト (85%) を基準に評価をします。

### その他

- 日商簿記検定 3 級取得者、簿記原理で日商簿記検定 3 級程度の学習を終えた者を対象とします。
- 「工業簿記及び原価計算」とセットで受講することで日商簿記検定 2 級の学習をすることができます。
- 電卓をご用意下さい。

|         |          |           |        |
|---------|----------|-----------|--------|
| 講義科目    | : 演習     | 単位数       | : 4    |
| マークシート略 | : [演習]   | 学習形態      | : 必修科目 |
| 担当      | : 川崎 航史郎 | * 第2学年で履修 |        |

### 講義のねらい

1年の基礎演習において設定したテーマに沿って、卒業論文の完成を目指します。その過程で、労働法、社会保障法その他生活に関わる問題を広く扱い、法的視点から問題の改善を提案できるような能力を身につけられます。

### 授業計画

#### ① 前期

各自が春休み中に準備した卒論構想を報告してもらいます。夏休み明けに三重総研の小論文コンテストにその段階での卒業論文をまとめたものを提出することを予定しています(去年は3人の入賞者がいました)のでその準備も行います。また、夏休みには、他大学(立命館、龍谷、静岡、金沢、愛媛、和歌山)との1泊2日の合同ゼミを行い、共通テーマでの報告を行う予定ですので、その準備も前期の後半には行います。

#### ② 後期

卒業論文の完成を目指して、各自報告を行います。また、合同卒論報告会を生活科学科の長友ゼミと開催し、ゼミ交流を行います。前期後期を通じて、学外演習(職安、労基署、労働組合、福祉事務所、女性センター、福祉施設)を行う予定です。

### 教材・テキスト・参考文献等

労働法・社会保障法の講義で指定した教科書

### 成績評価方法

報告状況、レジメ、参加状況などの総合評価で評価します。卒業論文(ゼミ論文)等の提出が必須です。

### その他

積極点に準備し、発言することを希望します。「労働法」「社会保障法」は必ず受講し、「社会福祉論」「人的資源管理論」も履修するとよいです。川崎担当の2年演習シラバスも参照。労働と社会保障は問題が山積みで深刻ですので、勉強をしたい!という方の受講を待っています。

|         |        |      |           |
|---------|--------|------|-----------|
| 講義科目    | : 演習   | 単位数  | : 4       |
| マークシート略 | : [演習] | 学習形態 | : 必修科目    |
| 担当      | : 楠本 孝 |      | * 第2学年で履修 |

#### 講義のねらい

テーマ：犯罪と刑罰をめぐる諸問題

概要：

2年次のゼミは、ゼミ生が自ら選んだテーマについて調査・研究・報告を行う。

#### 授業計画

最終的には、各自ゼミ論文を作成し、論文集にまとめる。

#### 教材・テキスト・参考文献等

演習時において指示する。

#### 成績評価方法

ゼミ論の内容とゼミへの貢献度を総合的に評価する。

#### その他

夏休みにゼミ合宿（施設見学）を行う予定である。

|         |         |           |        |
|---------|---------|-----------|--------|
| 講義科目    | : 演習    | 単位数       | : 4    |
| マークシート略 | : [演習]  | 学習形態      | : 必修科目 |
| 担当      | : 立石 芳夫 | * 第2学年で履修 |        |

#### 講義のねらい

本演習では、政治学もしくは行政学の観点から、国や地方の政治行政の諸問題を扱っていく。

運営方法としては、文献購読を通じて、旺盛な討論を試みたいと思う。文献など具体的な内容については、学生と相談して決めていきたい。また、受講生の状況次第では、より基礎的な学習方法を実施することもありうる。

本演習は、とくに政治や行政の問題に関心のある学生にすすめたい。ゼミに対しては、通常の講義とは異なり、教員ではなく学生が中心的な役割を担うことを念頭に置いてもらいたい。毎回のゼミでは、受講生が自分の意見や考えを人前で論理的にコミュニケーションできる能力の養成にも努めたい。

#### 授業計画

受講生と相談のうえ決めていく。

#### 教材・テキスト・参考文献等

テキストなどについては、受講生と相談のうえ決めていく。

#### 成績評価方法

出席状況（50%）、その他（50%）を総合して評価する。また、ほぼ毎回の授業でペーパーの提出を義務づけ、これについてもその他の部分で成績評価の対象とする。

#### その他

本演習とあわせて、行政学、地方政治論、政治学原論を受講しておくこと。

|                |             |
|----------------|-------------|
| 講義科目 : 演習      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [演習] | 学習形態 : 必修科目 |
| 担当 : 藤枝 律子     | * 第2学年で履修   |

#### 講義のねらい

現代の行政とは、国民・住民といかなる関係にあるのか、判例研究を中心として多様な観点から検討を試みる。学期の前半はディベート、後半は各個人の興味関心のあるテーマでの報告の形式で行う。

#### 授業計画

主なテーマとして

- ① 環境問題
- ② まちづくり
- ③ 社会保障
- ④ 教育問題
- ⑤ 公共事業 等

#### 教材・テキスト・参考文献等

参考資料等は、最初のゼミのときに提示をする。

#### 成績評価方法

出席、ゼミでの報告や議論など平常点及び卒論を総合して評価する。

#### その他

検討・報告テーマ等は、参加者と協議して決める。

|         |         |           |        |
|---------|---------|-----------|--------|
| 講義科目    | : 演習    | 単位数       | : 4    |
| マークシート略 | : [演習]  | 学習形態      | : 必修科目 |
| 担当      | : 川上 生馬 | * 第2学年で履修 |        |

#### 講義のねらい

本講義では、民法に関する具体例を検討することで、問題を理解する力をはじめとする法的思考能力をみにつけることを目的としたい。判例を読むことは法学の学習全般において重要であり、また、教科書の要約も重要な点を抽出するという意味で重要な作業である。それらをもとに議論することで、より深く民法を理解したい。

#### 授業計画

判例考察を中心に講義を進めたい。具体的には、基礎知識の確認、事案と判旨の確認、議論という流れで進めていきたいと考えている。ただし、教科書輪読の希望者が多い場合には、毎回、担当箇所をまとめたものを報告してもらい、報告者に対して他の学生から質問をするといった形で進めることも考えている。これらについては、初回講義時に決定したい。

#### 教材・テキスト・参考文献等

六法を必ず持ってきてください。

そのほか使用する教材については初回講義時に指定します。

#### 成績評価方法

出席、授業に対する姿勢や取り組み度、発表したレポートの内容などを総合的に見て評価をする。

#### その他

あらかじめ民法 I を履修していることが望ましい。同様に、民法 II・III を履修することが望まれる。

|                |             |
|----------------|-------------|
| 講義科目 : 演習      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [演習] | 学習形態 : 必修科目 |
| 担当 : 中山 顕      | * 第2学年で履修   |

### 講義のねらい

憲法上の諸権利や諸制度は、実際にどのような意味内容をもつものとされているのか。いうまでもなく、憲法に限らず法律学の学習とは、単にそれぞれの条文や学説を無機的になぞることに尽きるものではない。「生きている憲法」を知るためには、具体的な事例を通じて、裁判所がどのような憲法解釈を行っているのかを検討することが不可欠となる。本演習では、近年の代表的な事例をとりあげ、裁判所による憲法解釈の妥当性について議論し、最終的に報告やレポートなどを通じて受講生自身が、論理的かつ説得的な憲法解釈を展開できる能力を身につけてもらうことを目的とする。

### 授業計画

演習では、日本国憲法の講義と法学基礎演習で学んできたことをふまえながら、卒業論文の作成のための具体的な作業を輪番制で行っていく予定である。

### 教材・テキスト・参考文献等

演習時に追って指示する。

### 成績評価方法

演習時の報告、発言、参加などを総合的に考慮し、判断する。卒業論文については、新任教員の指示に従うこと。

### その他

|         |         |           |        |
|---------|---------|-----------|--------|
| 講義科目    | : 演習    | 単位数       | : 4    |
| マークシート略 | : [演習]  | 学習形態      | : 必修科目 |
| 担当      | : 石原 洋介 | * 第2学年で履修 |        |

### 講義のねらい

前期はテキストを輪読しながら、日本の金融システムの中心である日本銀行について、その役割と金融政策の仕組みを学びます。夏季休暇期間には課外研修を行い、実際に日本銀行や東京証券取引所等を見学することでその理解を深めます。なお、その際の参加費の多くは自己負担（一部ゼミ補助あり）になるので、本演習を希望する学生はそのことをあらかじめ承知しておいて下さい。

2冊目以降のテキストやテーマについては、学生と相談して決定します。

また、卒業論文を執筆してもらいますが、夏季に開催される小論文コンクールへの論文提出をもって代替することを認めます。

### 授業計画

- ・毎週テキストの一定分量を担当学生が報告し、討論を行います。
- ・夏季には東京（日本銀行、貨幣博物館、東京証券取引所を見学）に課外研修に行く予定です。
- ・サマフェスまたは三重短祭に何らかの形で参加するものとします。
- ・卒業論文又は小論文コンクール提出論文の作成を行います。

### 教材・テキスト・参考文献等

次のテキストを最初のゼミまでに購入しておくようにしてください。

池上彰『日銀を知れば経済がわかる 改訂新版』平凡社、2017年5月。

### 成績評価方法

出席およびゼミでの報告、討論への参加、卒業論文又は小論文コンクール提出作品の出来などを総合的に判断して評価を行います。

### その他

演習希望者が定員を超えた場合は、1年次のガイダンスで説明したように、金融論などの指定科目の受講状況及びそれらの科目の成績を、ゼミ生選抜の判断材料とします。

|                |             |
|----------------|-------------|
| 講義科目 : 演習      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [演習] | 学習形態 : 必修科目 |
| 担当 : 大畑 智史     | * 第2学年で履修   |

### 講義のねらい

地方経済の活性化は、現在の日本における重要な論点の一つです。本演習では、地方経済活性化と地方財政との関連性について、履修者が専門的な見解を持てることを目標とします。

### 授業計画

[前期]

- ・ 講読文献の内容に関する議論
- ・ 卒業論文関係：経過報告、議論

[後期]

- ・ 講読文献の内容に関する議論
- ・ 卒業論文関係：経過報告・最終報告、議論

\* 地方経済活性化の取組みの現場に訪問（自由参加）することを考えています。この詳細は、受講生と相談の上、決めます。

2016年度：志摩市方面（9月）

2017年度：伊賀市方面（9月）

### 教材・テキスト・参考文献等

文献講読では、まず、下記の著書を読みます。

木下 齊『地方創生大全』東洋経済新報社、2016年

これ以降は、受講生と相談の上、決めていきます。

その他、本演習関連の文献については、適宜紹介します。

### 成績評価方法

出席、卒業研究関係報告、これらを総合的に評価します。

### その他

- ・ できるだけ、財政学関連の講義を受講して下さい。
- ・ 各種行事への積極的な参加を考えています。

|         |        |           |        |
|---------|--------|-----------|--------|
| 講義科目    | : 演習   | 単位数       | : 4    |
| マークシート略 | : [演習] | 学習形態      | : 必修科目 |
| 担当      | : 杉山 直 | * 第2学年で履修 |        |

### 講義のねらい

本演習は経営学の基礎理論を身につけ、企業経営の実例を理論的に説明できるようになることを目的とします。

そのために、経営学に関する文献の精読と議論、そして各自の問題意識から産業動向や個別企業の経営、さらには企業が引き起こす経済的・社会的問題（不安定雇用の拡大など）から一つのテーマを取り上げ、それぞれの考えをまとめていきます。

### 授業計画

#### ①前期

- ・経営学に関する文献を精読し、議論していきます。
- ・毎回、報告者の要約・報告を中心に演習を進めていきます。
- ・卒業論文作成に向けて、各自の問題意識を報告します。

#### ②後期

- ・前半は、前期と同じように進めます。
- ・後半においては、各自が問題意識とテーマを報告します。
- ・各自が設定したテーマに基づいた卒業論文執筆に向けて、進捗状況の報告を行い、検討します。

### 教材・テキスト・参考文献等

・テキストは以下のとおりです。

①今井齊・岸川典昭・宮崎信二編著『新版 経営から視る現代社会』文真堂、2014年

②①のテキストを読み終えた時点で、次のテキストを決めます。

・参考文献は、必要に応じて紹介します。

### 成績評価方法

- ・出席、参加状況、卒業論文の内容を総合的に評価します。
- ・毎回の予習（テキストの読書）、担当した場合の報告は評価の前提とします。
- ・演習を欠席する場合は、予め杉山まで連絡して下さい。

### その他

- ・9月に産業技術記念館(名古屋市)とトヨタの工場を見学する予定です。
- ・サマーフェスティバルまたは三重短大祭には何らかの形で参加します。

|                |             |
|----------------|-------------|
| 講義科目 : 演習      | 単位数 : 4     |
| マークシート略 : [演習] | 学習形態 : 必修科目 |
| 担当 : 田添 篤史     | * 第2学年で履修   |

#### 講義のねらい

日本経済の現状がどのようになっているのかをみていきます。またそのような状況がなぜ生じたのかについて、日本経済の歴史と関連づけながら考えていきます。

#### 授業計画

関心をもっている日本経済の話題についてそれぞれの人に発表してもらいます。またそれぞれの話題について経済理論の観点からみるとどのように考えることができるかについても触れていきます。

#### 教材・テキスト・参考文献等

適宜指示します。

#### 成績評価方法

発表、演習への参加態度によって評価します。

#### その他

ニュースや新聞などで経済の話題について積極的に触れるようにしてください。

|         |         |           |        |
|---------|---------|-----------|--------|
| 講義科目    | : 演習    | 単位数       | : 4    |
| マークシート略 | : [演習]  | 学習形態      | : 必修科目 |
| 担当      | : 稲山 訓央 | * 第2学年で履修 |        |

## 講義のねらい

### テーマ: 企業の会計情報分析

情報開示制度が整備されている近年、企業の出す様々な数値情報を読み取る能力が求められる。会計情報を中心とするそれらの数値情報の中から、自分が興味を抱き得るテーマに関して、前向きに卒業論文を作成してもらえただけの能力と意欲を醸成していくことを目的とする。

### 授業計画

#### 【前期】

指定した色々なテーマについて、考え、発表することを通じて、後期の卒業論文執筆のための基礎トレーニングとする。

#### 【後期】

- 卒業論文の作成に取り組み、完成させる。
- 毎回の授業において、卒業論文の内容を報告する。

### 教材・テキスト・参考文献等

- 必要に応じてレジュメを配布する。

### 成績評価方法

演習であるため、以下の2点を中心に総合的に評価する。

- 報告の回数や報告の内容
- 卒業論文の提出とその評価

### その他

- 企業が出す数値情報に興味があることが望ましい。
- 演習であるためゼミ活動に積極的に参加できる者を求めている。
- 商品売買における会計を学ぶために、サマーフェスティバルや文化祭の出店を積極的に行っているため、協力的に参加できる者を求めている。
- 講義・ゼミ活動は、皆出席が当たり前であるという意識を持ち得る者を求めている。